

2026年度 大学院経済学研究科 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2026/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【X3000】 経済学基礎A [廣川 みどり] 春学期授業/Spring	1
【X3001】 経済学基礎B [廣川 みどり] 秋学期授業/Fall	2
【X3002】 実証経済学基礎A [河村 真] 春学期授業/Spring	3
【X3003】 実証経済学基礎B [平瀬 友樹] 秋学期授業/Fall	5
【X3004】 経済史A [進藤 理香子] 春学期授業/Spring	6
【X3005】 経済史B [杉浦 未樹] 秋学期授業/Fall	7
【X3006】 計量経済学A [明城 聡] 春学期授業/Spring	9
【X3007】 計量経済学B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	10
【X3008】 社会経済学A [森本 壮亮] 春学期授業/Spring	11
【X3009】 社会経済学B [森本 壮亮] 秋学期授業/Fall	12
【X3010】 ミクロ経済学A [西村 健] 春学期授業/Spring	13
【X3011】 ミクロ経済学B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	14
【X3012】 マクロ経済学A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	16
【X3013】 マクロ経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	17
【X3014】 応用ミクロ経済学A [西村 健] 春学期授業/Spring	18
【X3015】 応用ミクロ経済学B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	19
【X3016】 応用マクロ経済学A [倪 彬] 春学期前半/Spring(1st half)	20
【X3017】 応用マクロ経済学B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	21
【X3018】 統計学A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	22
【X3019】 統計学B [阿部 俊弘] 秋学期授業/Fall	23
【X3020】 開発経済論A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	24
【X3022】 金融ファイナンス論A [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	26
【X3030】 地域経済論I A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	27
【X3031】 地域経済論I B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	28
【X3039】 企業経済学B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	29
【X3043】 経済と会計B [田中 優希] 秋学期前半/Fall(1st half)	30
【X3044】 国際金融論A [ブー トウン カイ] 春学期授業/Spring	31
【X3045】 国際金融論B [ブー トウン カイ] 秋学期授業/Fall	32
【X3046】 実証ファイナンスA [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	34
【X3047】 実証ファイナンスB [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	35
【X3050】 環境政策論A [西澤 栄一郎] 春学期前半/Spring(1st half)	36
【X3051】 環境政策論B [西澤 栄一郎] 春学期後半/Spring(2nd half)	37
【X3055】 経済地理学B [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	38
【X3058】 社会保障論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	39
【X3059】 社会保障論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	40
【X3068】 上級マクロ経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	41
【X3071】 応用計量経済学B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	43
【X3081】 日本語I A [清水 由美] 春学期授業/Spring	44
【X3082】 日本語I B [清水 由美] 秋学期授業/Fall	46
【X3083】 日本語II A [清水 由美] 春学期授業/Spring	48
【X3084】 日本語II B [清水 由美] 秋学期授業/Fall	50
【X3085】 日本語III A [大場 理恵子] 春学期授業/Spring	52
【X3086】 日本語III B [大場 理恵子] 秋学期授業/Fall	53
【X3100】 修士ワークショップA (春学期) 春学期授業/Spring	54

【X3101】	修士ワークショップB（秋学期）秋学期授業/Fall	55
【X3102】	経済学演習ⅡA〔阿部 俊弘〕春学期授業/Spring	56
【X3103】	経済学演習ⅡB〔阿部 俊弘〕秋学期授業/Fall	57
【X3104】	経済学演習ⅡA〔池上 宗信〕春学期授業/Spring	58
【X3105】	経済学演習ⅡB〔池上 宗信〕秋学期授業/Fall	59
【X3106】	経済学演習ⅡA〔近藤 章夫〕春学期授業/Spring	60
【X3107】	経済学演習ⅡB〔近藤 章夫〕秋学期授業/Fall	61
【X3108】	論文指導ⅡA〔杉浦 未樹〕春学期授業/Spring	62
【X3109】	論文指導ⅡB〔杉浦 未樹〕秋学期授業/Fall	63
【X3110】	経済学演習ⅡA〔JESS DIAMOND〕春学期授業/Spring	64
【X3111】	経済学演習ⅡB〔JESS DIAMOND〕秋学期授業/Fall	65
【X3112】	経済学演習ⅡA〔高橋 秀朋〕春学期授業/Spring	66
【X3113】	経済学演習ⅡB〔高橋 秀朋〕秋学期授業/Fall	67
【X3114】	経済学演習ⅡA〔明城 聡〕春学期授業/Spring	68
【X3115】	経済学演習ⅡB〔明城 聡〕秋学期授業/Fall	69
【X3200】	修士論文年間授業/Yearly	70
【X3230】	リサーチ・ペーパー年間授業/Yearly	71
【X3240】	QE（ミクロ経済学）年間授業/Yearly	72
【X3241】	QE（マクロ経済学）年間授業/Yearly	73
【X3242】	QE（経済史）年間授業/Yearly	74
【X3243】	QE（計量経済学）年間授業/Yearly	75
【X3245】	QE（口述試験・研究論文他）年間授業/Yearly	76
【X3300】	応用ミクロ経済学DA〔西村 健〕春学期授業/Spring	77
【X3301】	応用ミクロ経済学DB〔小林 克也〕秋学期授業/Fall	78
【X3302】	応用マクロ経済学DA〔倪 彬〕春学期前半/Spring(1st half)	79
【X3303】	応用マクロ経済学DB〔田村 晶子〕秋学期授業/Fall	80
【X3304】	統計学DA〔菅 幹雄〕春学期授業/Spring	81
【X3305】	統計学DB〔阿部 俊弘〕秋学期授業/Fall	82
【X3306】	開発経済論DA〔池上 宗信〕春学期授業/Spring	83
【X3307】	金融ファイナンス論DA〔胥 鵬〕秋学期授業/Fall	85
【X3308】	地域経済論IDA〔馬場 敏幸〕春学期授業/Spring	86
【X3309】	地域経済論IDB〔馬場 敏幸〕秋学期授業/Fall	87
【X3310】	企業経済学DB〔砂田 充〕秋学期授業/Fall	88
【X3311】	経済と会計DB〔田中 優希〕秋学期前半/Fall(1st half)	89
【X3312】	国際金融論DA〔ブー トウン カイ〕春学期授業/Spring	90
【X3313】	国際金融論DB〔ブー トウン カイ〕秋学期授業/Fall	91
【X3314】	実証ファイナンスDA〔高橋 秀朋〕春学期授業/Spring	93
【X3315】	実証ファイナンスDB〔高橋 秀朋〕秋学期授業/Fall	94
【X3316】	環境政策論DA〔西澤 栄一郎〕春学期前半/Spring(1st half)	95
【X3317】	環境政策論DB〔西澤 栄一郎〕春学期後半/Spring(2nd half)	96
【X3318】	経済地理学DB〔近藤 章夫〕春学期授業/Spring	97
【X3319】	社会保障論DA〔小黒 一正〕春学期授業/Spring	98
【X3320】	社会保障論DB〔小黒 一正〕秋学期授業/Fall	99
【X3321】	上級マクロ経済学DA〔宮崎 憲治〕春学期授業/Spring	100
【X3322】	応用計量経済学DB〔明城 聡〕秋学期授業/Fall	102
【X3400】	博士ワークショップA（春学期）春学期授業/Spring	103
【X3401】	博士ワークショップB（秋学期）秋学期授業/Fall	104
【X3402】	経済学演習VA〔酒井 正〕春学期授業/Spring	105
【X3403】	経済学演習VB〔酒井 正〕秋学期授業/Fall	106
【X3404】	経済学演習VA〔JESS DIAMOND〕春学期授業/Spring	107
【X3405】	経済学演習VB〔JESS DIAMOND〕秋学期授業/Fall	108
【X3406】	経済学演習VA〔宮崎 憲治〕春学期授業/Spring	109
【X3407】	経済学演習VB〔宮崎 憲治〕秋学期授業/Fall	110
【X3408】	論文指導VA〔宮崎 憲治〕春学期前半/Spring(1st half)	111
【X3409】	論文指導VB〔宮崎 憲治〕秋学期前半/Fall(1st half)	112
【X3410】	博士ワークショップIIIA〔宮崎 憲治〕春学期後半/Spring(2nd half)	113
【X3411】	博士ワークショップIIIB〔宮崎 憲治〕秋学期後半/Fall(2nd half)	114

【X3600】	博士論文年間授業/Yearly	115
【X3901】	経済学演習ⅠA（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 春学期授業/Spring	116
【X3902】	経済学演習ⅠB（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 秋学期授業/Fall	117
【X3903】	経済学演習ⅡA（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 春学期授業/Spring	118
【X3904】	経済学演習ⅡB（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 秋学期授業/Fall	119
【X3909】	経済学演習ⅢA（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 春学期授業/Spring	120
【X3910】	経済学演習ⅢB（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 秋学期授業/Fall	121
【X3911】	経済学演習ⅣA（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 春学期授業/Spring	122
【X3912】	経済学演習ⅣB（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 秋学期授業/Fall	123
【X3913】	経済学演習ⅤA（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 春学期授業/Spring	124
【X3914】	経済学演習ⅤB（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 秋学期授業/Fall	125
【X3915】	論文指導ⅤA（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 春学期前半/Spring(1st half)	126
【X3916】	論文指導ⅤB（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 秋学期前半/Fall(1st half)	127
【X3917】	博士ワークショップⅢA（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 春学期後半/Spring(2nd half)	128
【X3918】	博士ワークショップⅢB（代表シラバス）〔経済学専攻教員〕 秋学期後半/Fall(2nd half)	129

ECN501C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

経済学基礎A

廣川 みどり

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の基礎的な考え方を学ぶ。具体的には、経済活動の担い手である経済主体（消費者や企業）の行動を学び、それらを結びつける市場の役割・そこへの規制の効果や個々の主体の戦略的行動について考える。

【到達目標】

ミクロ経済学的なものの見方や考え方を身につけ、経済社会に対する洞察・判断ができるようにする。具体的には、需要・供給曲線、その背後の経済主体（消費・生産者）の行動・選択、完全競争下での価格決定とその厚生経済学な観点からの意味、政策の及ぼす効果を理解すること、また、独占・寡占的な状況での経済主体の行動・選択と帰結を見渡し、現実の政策問題について経済学的な考察・提言ができるようになることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交えた形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学の考え方
第2回	需要と供給(1)	需要曲線・供給曲線の導入
第3回	需要と供給(2)	限界概念・余剰分析
第4回	市場の効率性(1)	厚生経済学の第1基本定理
第5回	市場の効率性(2)	課税の効果
第6回	中間のまとめ	これまでの総括
第7回	消費者行動(1)	消費者の行動、無差別曲線、最適消費
第8回	消費者行動(2)	所得効果、代替効果
第9回	生産者行動(1)	費用関数
第10回	生産者行動(2)	生産者の選択
第11回	市場の失敗	外部性、公共財
第12回	独占	独占市場における企業の行動
第13回	寡占	寡占市場における企業の行動
第14回	試験とまとめ	期末試験、本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）＋期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を見つつ進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するため、それが利用可能な環境を用意しておくこと。ただし、各回の授業に持参する必要はない。

【その他の重要事項】

課題解答については、生成AIの利用は不可とする。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会的選択論、公共経済学

研究テーマ：制度の形成についてのミクロ経済学的基礎

主要研究業績：

・「公共財供給の制度設計－多数決による決定」船木由喜彦・石川竜一郎（編）『制度と認識の経済学』第3章（pp.109-147）、NTT出版、2013年。

・「研究ノート：リンダール-比率均衡と社会的厚生」『経済志林』第86巻第3,4号, pp.411-423, 2019年3月。

・「民事再生法における小口債権者のパワー分析」『経済志林』第92巻第4号 2025年第4号, pp.233-258, 2025年3月。（胥鵬との共著）

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course will provide students with the knowledge of microeconomics necessary to understand other graduate coursework.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students will acquire the idea of basic microeconomics, and skills for application.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is four hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated by in-class assignments (40%) and final examinations (60%).

ECN501C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

経済学基礎B

廣川 みどり

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、マクロ経済学の基礎的な考え方を学ぶ。具体的には、一国の経済活動の指標となる概念と、それらが決定される仕組みや政府の政策がもたらす効果を考える。

【到達目標】

マクロ経済学的なものの見方や考え方を身につけ、経済社会に対する洞察・判断ができるようにする。具体的には、経済の指標を表す概念や分析の枠組みを理解し、政府によるマクロ経済政策の効果について経済学的な考察・提言ができるようになることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交えた形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	マクロ経済学の考え方
第2回	国民所得の諸概念(1)	名目と実質GDP、三面等価の原則
第3回	国民所得の諸概念(2)	各種マクロ経済指標、ストックとフロー
第4回	国民所得の決定(1)	45度線分析
第5回	国民所得の決定(2)	財政政策・乗数効果
第6回	貨幣市場の導入	貨幣の役割、信用創造、金利、債権
第7回	IS-LM 分析(1)	IS 曲線
第8回	IS-LM 分析(2)	LM 曲線
第9回	IS-LM 分析(3)	利子率と所得の同時決定、財政・金融政策の効果
第10回	中間のまとめ	これまでの総括
第11回	AD-AS 分析(1)	AD 曲線
第12回	AD-AS 分析(2)	AS 曲線
第13回	AD-AS 分析(3)	総需要と総供給の同時決定、政策の効果
第14回	試験とまとめ	期末試験、本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）＋期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を見つつ、進めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するため、それが利用可能な環境を用意しておくこと。ただし、各回の授業に持参する必要はない。

【その他の重要事項】

課題解答については、生成AIの利用は不可とする。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：社会的選択論、公共経済学

研究テーマ：制度の形成についてのミクロ経済学的基礎

主要研究業績：

・「公共財供給の制度設計 — 多数決による決定」船木由喜彦・石川竜一郎（編）『制度と認識の経済学』第3章（pp.109-147），NTT出版，2013年。

・「研究ノート：リンダール-比率均衡と社会的厚生」『経済志林』第86巻第3,4号，pp.411-423，2019年3月。

・「民事再生法における小口債権者のパワー分析」『経済志林』第92巻第4号2025年第4号，pp.233-258，2025年3月。（胥鵬との共著）

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course will provide students with the knowledge of macroeconomics necessary to understand other graduate coursework.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students will acquire the idea of basic macroeconomics, and skills for application.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is four hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated by in-class assignments (40%) and final examinations (60%).

ECN504C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

実証経済学基礎A

河村 真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学「生産者の理論」の中の要素需要に関する説明を理解する。あわせて、要素需要の説明から導かれる費用関数の理論的説明も理解する。さらに、費用関数を、現実のデータおよび統計学のソフトを用い、最小二乗法など計量経済学モデルの推定を行い、推定結果の評価を行う。

【到達目標】

導入科目として、ミクロ経済学の「生産者の理論」の生産要素需要の説明およびその延長線上にある費用関数に関する説明を復習し、理解する。さらに、費用関数の推定および規模の経済性の計測を実習を通じて行い、最小二乗推定の基本的な理解とパネルデータを用いる際の推定結果の基本的な診断および改善に関する手続きを各自で行えるようにすること。併せて、費用関数の推定、仮説検定に用いる統計学ソフト **stata** の基本的なコマンドを使えるようになることおよび計測結果の出力を各自で行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

この授業は、6回までは、オンライン授業で行う。この間の講義では、完全競争モデルの生産要素需要体系の説明とそれより派生する費用関数に関してのミクロ経済学の図解を用いた復習である。そのため、板書（電子ノート）を用いた説明となる。この間の質疑応答は、オンラインを通じて授業時間内に行います。第7回以降は主に実習授業である。そのため、対面で行います。ハイフレックスで行いますが、実習授業なので、なるべく対面で行いたい。授業の内容の進め方について説明する。まず、ミクロ経済学の「生産者の理論」における生産要素需要の決定と費用関数の導出を解説する（主にミクロ経済学の復習）。公益事業のデータを用いて、ミクロ経済学の理論で提示されている費用関数と整合的な費用関数の推定を統計ソフト **stata** を計用いて体験してもらう。それに基づき、規模の経済性の計測値を求め、その計測値のミクロ経済学的な解釈を説明する。講義の目的は、簡単なミクロ経済学の理論を用いても、計量経済学による計測結果を政策的な課題の判断材料として提示できることを体感してもらうことにある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と注意
第2回	費用関数および生産関数の計測を通じた応用軽量経済学の研究成果	規模・範囲の経済性の計測、代替弾力性の計測の過去のサーベイ
第3回	利潤最大化行動と生産要素需要関数	ミクロ経済学の「生産者の理論の復習」：利潤最大化行動に基づく生産要素需要の決定の解説
第4回	要素需要と要素価格フロンティア	要素需要の決定と要素価格フロンティアとの対応
第5回	費用関数の性質	要素需要関数と整合的な費用関数の性質
第6回	生産関数と双対な費用関数の性質と関数の特定化	生産関数と双対な費用関数の導出、費用関数の特定化に関する解説

第7回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅰ）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説）
第8回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅰ）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説）
第9回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅱ）	最小二乗推定量に基づく推定結果の改善（系列相関、分散不均一などの簡単な解説）
第10回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅰ）	計量経済学のソフト stata を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第11回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅰ）	計量経済学のソフト stata を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第12回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅱ）	fixed effects model および random effects model の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第13回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅱ）	fixed effects model および random effects model の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第14回	レポート作成指導	レポート作成の質問等に答える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めなし。受講生より要請があれば、参考文献等含めて知らせる。

【参考書】

奥野正寛、鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ』（モダンエコノミックスシリーズ）岩波書店 計量経済学入門の教科書やそれ以外等は、講義中に示す。

【成績評価の方法と基準】

実習での費用関数に関わる推定及び検定の **stata** プログラミング作業に関する評価に40%及び期末レポートの評価に60%のウェイトを付け、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸出ノートパソコン（**stata** インストール済み）、および、授業支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 応用計量経済学

<研究テーマ> 規制産業の規模の経済性、全要素生産性の計測

<主要研究業績> "Estimates of Optimal Public Capital Stocks in Japan Using a Public Investment Discount Rate Framework", *Empirical Economics* 24, 1999. (根本二郎氏、釜田公良氏と共著) 「大都市公営バス事業の密度の経済とサイズの経済の計測」『季刊理論経済学』44巻3号, pp.269-274, 1993

【Outline (in English)】

This course introduces factor demand theory in microeconomics, cost function and elasticity substitution, estimating cost function by OLS, using STATA, and evaluating the extent of scale economy.

The goal of this course for students to acquire the basic understandings for factor demand theory, theoretical properties of cost function as summarizing factor demand system. Other goals of this course are to estimate cost function by econometric model (eg. OLS, fixed effects model, etc.) model using STATA programs, and evaluate the extent of scale economy.

Before/after class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Your overall grade will be decided based on the following

Mid-term report(for factor demand theory, and cost function theoretical properties):30%, Term-end report(for estimating results of cost function by STATA, evaluating results of the extent of scale economy, and statistical test result for scale economy):50%, and the quality of STATA programing performance in the class: 20%.

ECN504C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

実証経済学基礎B

平瀬 友樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計、確率および回帰分析の基礎および応用について学ぶ。
Rを用いた演習によって理解をさらに深める。

【到達目標】

各自の研究分野で実証分析手法にもとづく論文を読む際に、その内容が理解できるようになることを目標とする。さらに、そうした実証分析手法を考慮しながら、各自が論文を執筆できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業の予定である。各受講生は必ずPCを持参すること。ただし、原則Windows機とする。（大学の貸出PCでよい。）授業の前半に講義をおこない、後半はそれにもとづいた演習をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	何を学ぶか
第2回	Rの基礎	Rの使い方
第3回	回帰分析	回帰分析とは何か
第4回	統計の基礎	母集団と確率的統計論について
第5回	確率論①	確率変数と期待値について
第6回	確率論②	中心極限定理と大数の法則について
第7回	確率論③	経済物理学的アプローチおよびPythonの紹介
第8回	回帰分析①	最小二乗法について
第9回	回帰分析②	決定係数について
第10回	回帰分析③	仮説検定について
第11回	回帰分析④	重回帰分析について
第12回	回帰分析⑤	因果推論について
第13回	回帰分析⑥	時系列分析について
第14回	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

星野匡郎、田中久稔、北川梨津(2023)『Rによる実証分析（第2版）回帰分析から因果分析へ』オーム社

【参考書】

西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験80%、平常点20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

経済理論形成史

<研究テーマ>

数理モデル分析の成立過程についての学際的な研究

【Outline (in English)】

< Course outline >

We will study introductory statistics first. Then, we will learn econometrics methods through problem sets with statistical package R.

< Learning Objectives >

We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles. We will try to become able to look for a research paper idea keeping the empirical methods in our minds. We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.

< Grading Criteria/Policies >

- We will make class grade based on the following factors and weights: end-term exam 80%; participation 20%.

ECN512C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

経済史 A

進藤 理香子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では市場経済の下での権威主義の台頭と民主主義の危機について論じる。第二次世界大戦後、アメリカ主導の世界秩序のなかで西側陣営では欧米および日本を中心に三権分立を基盤とした自由・民主主義が主流となった。だが冷戦終結後の新たな世界ではかつての社会主義圏・東側陣営に属した諸国や中東、アジアなどを中心に権力の集中と強いナショナリズムを土台に積極的な経済成長を見せる国家が見受けられるようになった。現代のトランプ政権の強権支配という事態も視野に入れてつつ、世界のGDPのおよそ半分を産出するとされるこれら現代の権威主義国家と、対する自由・民主主義の危機について考察・議論し理解することを目的とする。

【到達目標】

権威主義体制の基本的な性質と歴史的背景を理解する。民主主義、法治国家、基本的人権の尊重、言論の自由といった近代西欧の価値が浸透しない社会がなぜ存在するのか、なぜいくつかの国家では民主主義という到達点からむしろ権力の集中へと移行するのかについて考える。またこのような状況が市場経済と整合性をもつのかどうかについて考察し議論する。現代世界の富の生産のおよそ半分がいわゆる非民主主義国家によって担われている現状についてその理由を考える。民主主義に対するナショナリズム、排外主義、ポピュリズムの親和性・非親和性について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

文献を講読。毎授業ごとに担当者に分担分を報告してもらい参加者全体で議論をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今学期の導入	授業の進め方を説明。
第2回	権威主義とは何か①	理論的に整理する。
第3回	権威主義とは何か②	理論的に整理する。
第4回	権威主義の背景①	歴史から整理する。
第5回	権威主義の背景②	歴史から整理する。
第6回	現代の権威主義と市場経済①	ソ連東欧社会主義崩壊後の世界についてみる。
第7回	現代の権威主義と市場経済②	ソ連東欧社会主義崩壊後の世界についてみる。
第8回	現代の権威主義と市場経済③	中国の動向をみる。
第9回	現代の権威主義と市場経済④	アジア・アフリカ諸国の動向をみる。
第10回	現代の権威主義と市場経済⑤	中南米の動向をみる。
第11回	現代の権威主義と市場経済⑥	中東諸国の動向をみる。
第12回	民主主義から逆行する社会①	ヨーロッパのポピュリズムと排外主義についてみつ。
第13回	民主主義から逆行する社会②	アメリカ・トランプ政権の動向をみる。
第14回	総括	権威主義、民主主義、ナショナリズムの関係について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間、合計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書の指定なし。必要に応じて指示。

【参考書】

マーティン・ウルフ (著), 小川敏子 (訳) (2024) 『民主主義と資本主義の危機』日経BP・日本経済新聞出版。
 ラリー・ダイヤモンド (著)、市原麻衣子 (監訳) (2022) 『浸食される民主主義』上・下巻、勁草書房。
 鳥飼将雄 (2025) 『ロシア政治：プーチン権威主義体制の抑圧と懐柔』中央公論新社。
 エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』(上谷直克・今井宏平共訳) 白水社。
 イアン・ブレマー (著), フランシス・フクヤマ (著)ほか (2024) 『民主主義の危機：AI・戦争・災害・パンデミック：世界の知性が語る地球規模の未来予想』朝日新聞出版。
 佐藤優 (2024) 『民主主義の危機：忍び寄るポピュリズムと強権主義』Gakken。

【成績評価の方法と基準】

平常点で評価。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

インターネット接続とコンピューター。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>近現代ドイツ史。社会経済史。
 <研究テーマ>冷戦下の日本とソ連東欧社会主義圏の文化学術交流関係。
 <主要研究業績>以下のリンクを参照。
<https://researchmap.jp/7000020393>

【Outline (in English)】

Course Outline:

This lecture will discuss the rise of authoritarianism and the crisis of democracy. Following World War II, the American-led world order centred on Western Europe, the United States and Japan adopted liberal democracy based on the separation of powers as the norm. However, after the Cold War ended, a new world order emerged, with nations — particularly those formerly belonging to the Eastern and socialist blocs, as well as those in the Middle East and Asia — beginning to assert themselves. These nations have demonstrated vigorous economic growth based on concentrated power and strong nationalism. In light of the current situation of heavy-handed governance under the Trump administration, this lecture will examine the crisis facing liberal democracy and modern authoritarianism, which together account for around half of the world's GDP.

Learning Objectives:

This lecture aims to examine modern authoritarian regimes, which account for around half of the world's market economy GDP, and discuss the crisis facing liberal democracy.

Lecture:Two-credits.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

In-class contribution(100%)

ECN512C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

経済史B

杉浦 未樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1500年から2000年までの世界経済の長期的な発展を「地域間格差・大分岐」、「交易」、「工業化」、「労働編成」、「環境史」などの大テーマを軸に学ぶ。前期となる経済史Aでは、経済発展の概略をつかむため、大分岐論および世界経済と交易の関わり、東アジアとアフリカ経済の長期的な発展について、最新の学説動向を学ぶ。

【到達目標】

1500年から2000年までの経済史の重要テーマを網羅して捉えられるようになる。
諸地域の経済発展の歴史動向の比較分析ができるようになる。
一つのテーマについて、日本語と英語の概説書を読み、最新の研究動向を知る。
日本語、英語のテキストの要点を整理し、発表するスキルを得る。
文献から論点を出し、討論できるようになる。
経済発展をめぐるテーマについて、研究文献を整理し、自分の問題視角が抽出できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

最初にテキストの割り当てを行う。受講者は担当分の要約報告と問題提起を行う。授業ではそれをもとに議論する。授業後半は、受講者は関心のあるテーマを選択し、それについて主要文献を整理し、研究動向を論述する演習を行う。講師からフィードバックを重ねることによって、論述スキルを向上させるように授業をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入：なぜ経済の発展を学ぶのにグローバルな視点が必要なのか。	グローバル・エコノミック・ヒストリーの研究の視点を概略する。コースの到達目標と計画を説明する。
第2回	世界経済発展の見取り図と大分岐論（1）	人口・所得・地域格差のマクロ動向を説明したあと、テキスト（河崎他4章、2章、一部）の論点発表をもとに討論
第3回	世界経済発展の見取り図と大分岐論（2）	ポメラントの大分岐論争について、テキスト（Roy and Riello 第一章、北川他第2章）の論点発表をもとに討論
第4回	交易と世界経済の一体化（16～18世紀）（1）	ユーラシア大陸とアメリカ大陸の接合がもたらした世界交易の変化について討論
第5回	交易と世界経済の一体化（16～18世紀）（2）	交易と世界経済の一体化について討論
第6回	交易と世界経済の一体化（19世紀）（1）	長い19世紀における交易の制度的枠組みの変化についてテキスト（河崎他第6～7章）の論点発表をもとに討論
第7回	交易と世界経済の一体化（19世紀）（2）	19世紀～20世紀のグローバルな商品連鎖の成立について、テキスト（Roy and Riello 第12章）の論点発表をもとに討論

第8回	世界経済のなかの東アジア（1）	東アジアの17世紀～20世紀の経済発展について、グローバル化との関連に留意しながらテキスト（北川他第5章、河崎他11、12章一部）の論点発表を行い討論する。
第9回	世界経済のなかの東アジア（2）	前回に引き続き、東アジアの経済発展を世界経済の動向の中に位置付けられるように、テキスト（Roy and Riello 第16章）の論点発表を行い討論する。
第10回	最終レポートの説明	最終レポートはテーマを自分で選んで研究動向を書く課題である。構成、書式、文献の検索方法、引用方法などを説明する
第11回	世界経済のなかのアフリカ（1）	アフリカの経済発展を世界経済の動向の中に位置付けるため、論点報告をもとに討論する
第12回	世界経済のなかのアフリカ（2）	前回に引き続きアフリカ経済の世界経済との関わりについて論点報告をもとに討論する。
第13回	最終レポートの発表とフィードバック	受講者はそれぞれ研究動向レポートを発表する。それに対してフィードバックを行う。
第14回	授業の総括とレポートの最終確認	コース全体を振り返り何を学んだか総括する。提出レポートの最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読テキストの精読、論点発表の準備および最終課題レポートの準備（文献調査、アウトライン作成、執筆）のため、準備学習を必要とする。通常授業の準備復習に2時間、論点発表準備に2～3時間、最終課題レポートの準備に10時間程度の授業時間外学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

河崎信樹、村上衛、山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020年
T.Roy and G. Riello, Global Economic History, Bloomsbury Academic, 2019.

北川勝彦、北原聡、西村雄志、熊谷幸久、柏原広樹『概説世界経済史—改訂版』昭和堂、2022年。

水島司、島田竜登『グローバル経済史』放送大学出版会、2018年。

【参考書】

杉原薫『世界史の中の東アジアの奇跡』名古屋大学出版会、2020年。
ポメラント（川北稔訳）『大分岐—中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015年。

【成績評価の方法と基準】

隔週ごとに和文テキストの短いセクションの論点発表、コースを通して1回か2回英語テキストの論点発表を分担する。そのレジュメと発表方法を評価する。これらに対するものが授業評価の40％を占める。最終課題として研究動向をまとめたレポートを課する。このレポートへの取り組みと発表と最終成果物に対する評価が、授業評価の50％とする。残りの10％は授業における討論への参加度を平常点として評価する。
授業への出席は単位取得の前提条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合わせて履修するとより総合的な知識とスキルが身につきますが、別々に受講することも可能です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

世界経済史、

<研究テーマ>

18～20世紀の繊維品や工芸品やテロワール製品の発展と世界的流通。都市における商品流通と地域ネットワークの形成。女性と財産形成

<主要研究業績>

The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times (共編著) Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces theories and current debates of Global Economic History. It also enhances students' advanced skills for academic writing.

At the end of the course, students are expected to be able to compare economic development from comparative and global perspectives, as well as gain academic skills for writing elaborated historiography on themes on economic development.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts and preparing for presentations. For the last assignment students will need to spend more than 10hrs for writing a report.

Students' overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report:50%、Class presentations : 40%、in class contribution:10%.

ECN515C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

計量経済学A

明城 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計量経済学の基礎と標準的な分析手法の習得

【到達目標】

統計学の基礎を復習するとともに計量経済学で用いられる手法の理論を学ぶ。特に古典的回帰モデルの推定方法と検定について学ぶとともに、必要となる仮定が成り立つかどうかを判断できる知識をつける。また仮定が成り立たない場合の対応方法についても学習する。（本講義は計量経済学の理論を学ぶので、実際にデータを使った分析を学ぶには合わせて「応用計量経済学」を履修することが望ましい）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は配布資料や教科書を用いた通常の講義形式で行う。また適宜、練習問題や宿題を行うことで講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容の紹介 ・成績評価
第2回	統計学の復習(1)	・確率の概念
第3回	統計学の復習(2)	・確率変数と離散型確率分布 ・期待値オペレータ
第4回	統計学の復習(3)	・結合確率分布 ・連続型確率変数
第5回	統計学の復習(4)	・母集団、標本、母数 ・標本抽出 ・標本平均の統計的性質
第6回	計量経済学の基礎(1)	・推定と推定量の性質 ・計量経済学とは
第7回	計量経済学の基礎(2)	・最小二乗法(1)：データの整理、最小二乗法と回帰直線
第8回	計量経済学の基礎(3)	・最小二乗法(2)：回帰直線の当てはまりの尺度、計算手順のまとめ
第9回	計量経済学の基礎(4)	・単純回帰分析(1)：単純回帰モデル、推定量の期待値と分散、最良線形不偏推定量と一致性
第10回	計量経済学の基礎(5)	・単純回帰分析(2)：推定量の分散の推定、単回帰モデルの仮説検定、変数選択とt検定
第11回	計量経済学の基礎(6)	・重回帰分析(1)：多重回帰分析、多重回帰分析の推定値の解釈、多重共線性
第12回	計量経済学の基礎(7)	・重回帰分析(2)：自由度調整済み決定係数、変数の過不足とその影響、定数項を持たない回帰モデル、
第13回	計量経済学の基礎(8)	・モデルの関数形と特殊な変数
第14回	計量経済学の基礎(9)	・F検定と構造変化の検定 ・標準的仮定の意味と不均一分散

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配布する。

【参考書】

・J. H. Stock and M. W. Watson, Introduction to Econometrics, 4th eds., Pearson
・浅野哲・中村二郎「計量経済学」第2版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

・期末試験 100% (Final exam, 100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

企業合併、規制緩和、および政府補助金等の効果についての構造推定と統計的分析手法の開発

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

Standard basic econometrics is covered in this course. Students are required to master basic statistics and econometric skills and utilize them to well understand the empirical data analysis.

Students also learn the potential problems of applying the classical linear regression models based on the standard assumptions to the observed economic data.

Preparation and review: 2hours including homework assignments

Grading: term exam 100%

ECN515C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

計量経済学B

濱秋 純哉

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、因果効果の識別とマイクロ計量経済学の手法を、理論と応用の両面から解説する。前者には、説明変数の内生性への対処策である操作変数法や、自然実験を用いた差の差推定（DID）と回帰不連続デザイン（RDD）などが含まれる。後者には、被説明変数が離散的な値をとる場合や被説明変数の定義域に制約がある場合を扱うための二値選択モデルやトービット・モデルなどが含まれる。受講者が各手法について、それが必要となる背景、推定の考え方、推定結果の解釈の仕方などを理解できるようになることを目指す。

【到達目標】

受講者が、学術論文を読み解き、自ら適切な手法を選択して実証研究を行うための基礎的な能力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業は対面で、スライドを使用して行う。予めスライドに設けた空欄（数式の展開等）を授業中に受講者に穴埋めしてもらうことがある。期末試験に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	計量経済学の学習を実証研究にどうつなげるか
第2回	操作変数法（1）	説明変数の内生性
第3回	操作変数法（2）	操作変数の満たすべき性質
第4回	操作変数法（3）	局所的平均処置効果
第5回	差の差推定（1）	推定の考え方と前提条件
第6回	差の差推定（2）	近年の発展と代替手法
第7回	回帰不連続デザイン	推定の考え方と前提条件
第8回	最尤法	最尤法の考え方と推定量の性質
第9回	二値選択モデル（1）	LPM/プロビット/ロジット
第10回	二値選択モデル（2）	限界効果とあてはまりの尺度
第11回	トービット・モデル（1）	制限従属変数
第12回	トービット・モデル（2）	対数尤度関数と限界効果
第13回	標本選択モデル	標本選択の原因と対処法
第14回	まとめと期末試験	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習に役立ててもらうために練習問題を配布する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書に依拠しない。日本語の講義資料を学習支援システムで配布する。

【参考書】

1. Stock, James H. and Mark W. Watson. 2019. "Introduction to Econometrics (4th Edition)," Pearson Education.
2. Winkelman, Rainer and Stefan Boes. 2009. "Analysis of Microdata (2nd Edition)," Springer.

3. Wooldridge, Jeffrey M. 2025. "Introductory Econometrics: A Modern Approach (8th Edition)," Cengage Learning.

4. 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮, 2019年, 『計量経済学』, 有斐閣。

5. 浅野哲・中村二郎, 2009年, 『計量経済学（第2版）』, 有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実証研究を行う際に統計ソフトを使えば、自分で計算しなくても推定結果が得られる。しかし、推定結果が意味することを正確に解釈したり、自分の問題意識と整合的な研究を行うための最適な方法を検討したりする際には、自分である程度の計算を行う能力が求められる。この力をつけるために授業内で計算を行う時間をとったり、期末試験で計算問題を課したりする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料の配布や各種連絡を行う。この際に、受講者に通知のメールが届くようにするので、学習支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

【その他の重要事項】

統計学・計量経済学の基礎的な知識（具体的には計量経済学A程度の内容）を有していることを前提とする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共経済学・応用計量経済学

<研究テーマ>

家計行動のマイクロ計量分析

<主要研究業績>

1. Ibuka, Yoko and Junya Hamaaki, 2025, "Income Receipt, Economic Activities, and Health: Evidence from Ambulance Transport Patterns," Journal of Health Economics, Vol. 100, 102970.

2. Hamaaki, Junya and Yoko Ibuka. 2024, "The Effect of Inheritance Receipt on Labor Supply: A Longitudinal Study of Japanese Women," The B.E. Journal of Economic Analysis & Policy, Vol. 24, No. 4, pp. 1259 - 1305.

3. Hamaaki, Junya, Masahiro Hori and Keiko Murata 2019, "The Intra-family Division of Bequests and Bequest Motives: Empirical Evidence from a Survey on Japanese Households," Journal of Population Economics, Vol. 32, No. 1, pp. 309 - 346.

【Outline (in English)】

Course outline

This course provides a theoretical and applied introduction to methods for causal inference and microeconometrics. The former includes instrumental variables as a strategy for addressing endogeneity in explanatory variables, as well as difference-in-differences (DID) and regression discontinuity designs (RDD), which exploit natural experiments. The latter covers models designed for situations in which the dependent variable takes discrete values or is subject to domain restrictions, such as binary choice and Tobit models. The course aims to enable students to understand the assumptions that each estimation method must satisfy, the logic of estimation, and the proper interpretation of estimation results.

Learning objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to conduct data analysis using methods of causal inference and microeconometrics.

Learning activities outside of classroom

Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours each on preparation and review.

Grading policy

The final grade will be determined as follows:

Term-end examination: 100%

社会経済学 A

森本 壮亮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、マルクス経済学分野の近年の著作や論文を読んでいくことで、マルクス経済学の基礎理論と近年の研究動向を知り、修士論文執筆にむけての準備を行うことを目的とします。

【到達目標】

マルクス経済学の近年の研究動向を知ることで、それぞれの学生が自分なりのマルクス経済学的分析をできるようになることが到達目標です。

具体的には、労働、貨幣、価格、利潤率、地代といった、『資本論』全体に関わるこれまで研究がよく行われてきた分野について、どのようなことが論点になってきて、どのような議論がされてきたのかを学ぶことで、これまでの先行研究の延長上にオリジナルな修士論文を書くことができるようにするのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストや論文の輪読とそれに関わる討論、そして各自の研究発表とそれに関わる討論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各自の自己紹介と研究の方向性について
第2回	日本経済が抱える課題について	テキスト序章
第3回	日本の労働時間問題について	テキスト第1章
第4回	技術進歩について	テキスト第2章
第5回	貧困問題について	テキスト第3章
第6回	人口問題について	テキスト第4章
第7回	商品と貨幣について	テキスト第5章
第8回	搾取論について	テキスト第6章
第9回	雇用問題について	テキスト第7章
第10回	再生産論について	テキスト第8章
第11回	利潤率の傾向的低下法則について	テキスト第9章
第12回	利子・信用論について	テキスト第10章
第13回	地代論について	テキスト第11章
第14回	ベーシックインカムについて	テキスト終章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの輪読にあたり、各章を事前に読んでくるとともに、各章の担当者はレジュメを作成する必要があります。
- ・各回の内容に関する統計データを準備してもらうことがあります。
- ・授業後は、各章の内容に関わるテーマの書籍や論文を読んで、理解を深める必要があります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。なお、レジュメ担当になった場合は、それ以上の準備学習時間が必要になります。

【テキスト（教科書）】

基礎経済科学研究所（編）『時代はさらに資本論 ―資本主義の終わりののはじまり―』昭和堂、2021年

【参考書】

K. マルクス『資本論』新日本出版社版もしくは大月書店版。
富塚良三・服部文男・本間要一郎（編）『資本論体系』各巻、有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所のレジュメ作成(60%)
毎回の議論等への参加度(40%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回はオンライン（Zoom）で行います。授業開始時間になりましたら、下記のZoomにアクセスしてください。2回目以降は、基本的に対面で行います。

ミーティング ID: 890 1756 2340
パスコード: 7123

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ 価値論・利潤率低下論
＜研究テーマ＞ 転形問題論争・利潤率の傾向的低下法則
＜主要研究業績＞
『変容する日本経済―真に豊かな経済・社会への課題と展望』（共編）
鉦脈社、2022年。
『『資本論』解釈としてのNew Interpretation』『季刊経済理論』第51巻第3号、2014年。
『利潤率の傾向的低下法則と日本経済―置塩定理を中心にして』『桃山学院大学経済経営論集』第57巻第3号、2016年。

【Outline (in English)】

(Course outline)
This course reads and discusses recent works and papers in the field of Marxian economics. It also enhances students' advanced skills for academic writing.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to be able to analyze issues over Marx's *Capital* on their original viewpoints. Specifically, the goal is to enable students to write original master's theses that build upon existing research in well-studied areas relevant to Marx's *Capital*, such as labor, money, price, rate of profit, and ground rent.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts and preparing for presentations.
(Grading Criteria / Policy)
Students' overall grade in the class will be decided based on the following: class presentations: 60%, and class contributions: 40%.

ECN511C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

社会経済学B

森本 壮亮

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、マルクス経済学の実証分析を中心に、近年の論文を読んできます。それによって、マルクス経済学の近年の研究動向と分析方法を知り、修士論文執筆にむけての準備を行うことを目的とします。

【到達目標】

マルクス経済学の近年の研究動向や分析方法を知ること、それぞれの学生が自分なりのマルクス経済学的分析をできるようになることが到達目標です。特に、利潤率、金融、成長、分配といったテーマについて、マルクス経済学の理論と先行研究に基づいた日本経済の実証分析をできるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

テキストや論文の輪読とそれに関わる討論、そして各自の研究発表とそれに関わる討論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各自の自己紹介と研究の方向性について
第2回	日本経済の構造変化について	『季刊 経済理論』第59巻3号の「特集にあたって」および村上研一論文の前半
第3回	日本の産業構造の変化について	『季刊 経済理論』第59巻3号の村上研一論文後半
第4回	日本の雇用構造の変化について（1）	『季刊 経済理論』第59巻3号の伍賀一道論文の前半
第5回	日本の雇用構造の変化について（2）	『季刊 経済理論』第59巻3号の伍賀一道論文の後半
第6回	日本の金融財政構造の変化について（1）	『季刊 経済理論』第59巻3号の建部正義論文の前半
第7回	日本の金融財政構造の変化について（2）	『季刊 経済理論』第59巻3号の建部正義論文の後半
第8回	日本の地域経済構造の変化について（1）	『季刊 経済理論』第59巻3号の岡田知弘論文の前半
第9回	日本の地域経済構造の変化について（2）	『季刊 経済理論』第59巻3号の岡田知弘論文の後半
第10回	日本経済の長期停滞論について（1）	『季刊 経済理論』第62巻2号の宮田惟史論文の前半
第11回	日本経済の長期停滞論について（2）	『季刊 経済理論』第62巻2号の宮田惟史論文の後半
第12回	日本経済の貧困化論について	『季刊経済理論』第62巻2号所収の川崎志帆論文
第13回	日本経済の地代論について	『季刊経済理論』第62巻2号所収の明石英人論文
第14回	まとめと研究報告	授業全体のまとめ、および各参加者による研究報告（修士論文もしくはその計画についての報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの輪読にあたり、各章を事前に読んでくるとともに、各章の担当者はレジュメを作成する必要があります。
- ・各回の内容に関する統計データを準備してもらうことがあります。
- ・授業後は、各章の内容に関わるテーマの書籍や論文を読んで、理解を深める必要があります。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。なお、レジュメ担当になった場合は、それ以上の準備学習時間が必要になります。

【テキスト（教科書）】

経済理論学会（編）『季刊 経済理論』第59巻3号、桜井書店、2022年10月。
経済理論学会（編）『季刊 経済理論』第62巻2号、桜井書店、2025年7月。

【参考書】

K. マルクス『資本論』新日本出版社版もしくは大月書店版。
富塚良三・服部文男・本間要一郎（編）『資本論体系』各巻、有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所のレジュメ作成(60%)
毎回の議論等への参加度(40%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・春学期と合わせての履修を推奨します。
- ・初回はオンライン（Zoom）で行います。授業開始時間になりましたら、下記のZoomにアクセスしてください。2回目以降は、基本的に対面で行います。
ミーティング ID: 890 1756 2340
パスコード: 7123

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 価値論・利潤率低下論
<研究テーマ> 転形問題論争・利潤率の傾向的低下法則
<主要研究業績>
『変容する日本経済一真に豊かな経済・社会への課題と展望』（共編）
鉱脈社、2022年。
『『資本論』解釈としてのNew Interpretation』『季刊経済理論』第51巻第3号、2014年。
「利潤率の傾向的低下法則と日本経済一置塩定理を中心にして」『桃山学院大学経済経営論集』第57巻第3号、2016年。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course reads and discusses recent works and papers, focusing on empirical analysis in Marxian economics. It also enhances students' advanced skills for academic writing.
(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to conduct their own Marxist economic analysis.
(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts and preparing for presentations.

(Grading Criteria /Policy)

Students' overall grade in the class will be decided based on the following: class presentations: 60%,and class contributions: 40%.

ECN513C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

ミクロ経済学A

西村 健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では大学院修士レベルのゲーム理論について学ぶ。ゲーム理論とは、戦略的状况を数理的に分析するための理論体系である。この講義では、ゲーム理論の基礎的な概念および分析手法を学ぶとともに、応用問題についても数多く扱う。

【到達目標】

- ・ゲーム理論における重要な用語および概念を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ・ゲーム理論の標準的手法を用いて、戦略的状况における諸問題について、数理的に分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最大7回までオンライン形式とするため、講義内での指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Game Theory
第2回	Static Games of Complete Information (1)	Normal-Form Games and Nash Equilibrium
第3回	Static Games of Complete Information (2)	Cournot Model of Duopoly
第4回	Static Games of Complete Information (3)	Bertrand Model of Duopoly, Final-Offer Arbitration
第5回	Static Games of Complete Information (4)	The Problem of the Commons, Mixed Strategies
第6回	Static Games of Complete Information (5)	Existence of Equilibrium
第7回	復習	中間試験、まとめと解説
第8回	Dynamic Games of Complete Information (1)	Backwards Induction, Stackelberg Model of Duopoly
第9回	Dynamic Games of Complete Information (2)	Wages and Employment in a Unionized Firm, Sequential Bargaining
第10回	Dynamic Games of Complete Information (3)	Subgame Perfection, Bank Runs, Tariffs and Imperfect International Competition, Tournaments
第11回	Dynamic Games of Complete Information (4)	Two-Stage Repeated Game
第12回	Dynamic Games of Complete Information (5)	Infinitely Repeated Games
第13回	Dynamic Games of Complete Information (6)	Dynamic Games of Complete but Imperfect Information

第14回 総括

期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義前にテキストの該当部分を読んでおくことが求められる。

【テキスト（教科書）】

Robert Gibbons, "Game Theory for Applied Economists," Princeton University Press, 1992

【参考書】

講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、中間試験40%、平常点10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書の量やスピードについて気を付けたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いるため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

数学（微分、確率など）、ミクロ経済学、ゲーム理論について、学部レベルの知識が必須となる。それらの知識が不十分と感じる場合は、入念に復習しておくこと。

【担当教員の専門分野等】

個人サイトを参照：

<https://sites.google.com/site/takeshinishimura1/>

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, students will study game theory, a theoretical framework for analyzing strategic situations. The course covers the fundamental concepts and analytical methods of game theory in a mathematical context while also addressing applied problems.

Learning objectives:

The goals of this course are to develop a mathematical understanding of key terms and concepts in game theory and be able to explain them in your own words. Students are also expected to acquire the ability to mathematically analyze various problems in strategic situations using standard methods of game theory.

Learning activities outside of classroom:

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Grading criteria/policy:

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end exam (50%), mid-term exam (40%), and in-class contribution (10%).

ECN513C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

ミクロ経済学B

小林 克也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、伝統的な価格理論を講義します。学部で扱うミクロ経済学の基本を理解した学生のみならず、計算を用いた中級程度の内容を習得することを目標とします。価格理論の考え方や分析手法は、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論分析だけではなく、実証分析や事例研究をする際の考え方の基礎となります。この講義では、こうした問題を考える際に、立ち返ることが出来る価格理論を身につけます。

【到達目標】

教科書で扱われる消費者理論、生産者理論、市場機構の理論を言葉と図、数式を用いて自分で説明出来るようになることが目標です。さらに比較静学分析で使う簡単な計算が自分で出来るようになることが目標です。受講者には、高校から大学1年で扱う微分(偏微分、全微分など)の計算と、行列と行列式の簡単な計算、高校で扱うベクトルの知識が求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はすべて対面です。講義形式で進めます。10回程度、計算を中心とした問題を宿題として出します。受講者のみなさんを毎回順番に指名してホワイトボードに宿題の解答を書いてもらい、答え合わせと解説をします。その後、宿題の答案を提出してもらい、私が確認をして、必要に応じてコメントを記してお返しします。質問は授業中や授業の前後でするようにして下さい。その場で私が答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者理論1	選好と効用関数
第2回	消費者理論2	宿題の確認。MRS、MRS 逓減、準凹関数、行列と行列式の計算。クラメールの公式。効用最大化の2階条件。
第3回	消費者理論3	宿題の確認。縁付きヘッセ行列、古典的なラグランジュ乗数法。
第4回	消費者理論4	ラグランジュ乗数法の2階条件。縁付きヘッセ行列式と準凹関数の関係。
第5回	消費者理論5	宿題の確認。通常の需要と補償需要。比較静学の考え方。
第6回	消費者理論6	宿題の確認。所得効果と代替効果。スルツキー方程式。
第7回	消費者理論7	宿題の確認。スルツキー方程式の別アプローチ。包絡線の定理の考え方。
第8回	消費者理論8	宿題の確認。弾力性。同次関数。オイラーの定理。
第9回	企業の理論1	宿題の確認。利潤最大化。2階条件とヘッセ行列。
第10回	企業の理論2	宿題の確認。比較静学。長期と短期。
第11回	最適化問題	宿題の確認。制約条件付き最適化問題とクーンタッカー条件。

第12回 競争均衡1

宿題の確認。配分、パレート効率。

第13回 競争均衡2

宿題の確認。エッジワースボックス。厚生経済学の第1定理。コア。

第14回 まとめと試験

まとめをした上で試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

微分と偏微分の計算と行列と行列式の計算が出来ない人は、復習をしておく必要があります。これらの計算を授業では多用します。こうした計算の復習で1時間、ほぼ毎回の宿題と授業の復習、テキストの関連部分の精読で3時間の学習を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは次を使います。

西村和雄 (1990)『ミクロ経済学』東洋経済新報社

(品切れですが古本や電子書籍で入手出来ます。購入は義務ではありません。)

【参考書】

参考書として以下をあげておきます。

Varian, H. (1992), Microeconomic Analysis 3rd ed., W W Norton & Co Inc.

(新品のハードカバー、ペーパーバックともに入手出来ます)

もう少し自分で上級の勉強をしたい人向けに以下をあげます。

Mas-Colell, A., Whinston, M., and Green, J. (1995), Microeconomic Theory, Oxford University Press.

Jehle, G. and Reny, P. (2011), Advanced Microeconomic Theory (3rd Edition), Pearson.

前者はミクロ経済学のいろいろな分野が書いてあります。前者が難しいという人は後者の方が読みやすいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で宿題として出す練習問題で50%、授業の理解度を確かめるための期末試験で50%の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

少し難しいと感じる方がいますので、みなさんの様子に応じて速度を調整して進むようにしています。2単位の授業で上記の内容を丁寧に講義しながらすべて扱うことは難しいので、今年度も履修者のみなさんの様子を見て扱う内容を減らしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面で私が板書をしていきますので、特に機器は必要ありません。

【その他の重要事項】

連絡事項は、なるべく授業内でお話しします。ですが学期前や学期後、急ぎの連絡は学習支援システムを通じて連絡をします。ときどき見るようにして下さい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

詳細は私の website をご覧下さい。

<http://www.t.hosei.ac.jp/katsuyak/>

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, I provide a lecture on the traditional price theory. The purpose of this course is that students who have learned the elementary microeconomics in the undergraduate course learn the intermediate microeconomics with the calculations. The price theory and its analytical methods are the basis of econometric analyses and case studies in addition to theoretical analyses in micro/macro economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand consumer, producer, and market theories. In particular, students should be able to explain these theories verbally, mathematically, and graphically on their own. In addition, students should have the skill of comparative statics.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by homework:50% and term exam:50%.

ECN514C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

マクロ経済学 A

田村 晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学院で国際標準とされるテキストに沿って、マクロ経済学の基本手法を講義します。

【到達目標】

大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる。さらに、動学モデルをもちいて、経済成長、財政政策の効果、世界各国の所得格差などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学院でも修士1年生が勉強している標準的なテキストであるRomer (2018) の前半部分（1～4章）に沿って講義します。無味乾燥な数式の説明のみにはならないように、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。また、学生の理解を助けるために、毎回の授業後に簡単な練習問題を課し、次の授業で解法の解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ソロー成長モデルの基礎	経済成長モデルの基本であるソローモデルの解説と対数微分を使った分析手法
第2回	ソロー成長モデルの応用	ソローモデルを使った分析
第3回	ソロー成長モデルの実証分析	ソローモデルの実証分析の紹介
第4回	無限期間モデル（ラムゼイ・モデル）	家計と企業の行動を組み入れたラムゼイ・モデルの解説
第5回	無限期間モデルによる分析	ラムゼイ・モデルを使った分析
第6回	無限期間モデルによる応用と実証分析	ラムゼイ・モデルの応用分析と実証分析の紹介
第7回	中間試験	前半授業の理解の確認
第8回	世代重複モデル（ダイアモンド・モデル）	世代重複モデルであるダイアモンド・モデルの解説
第9回	世代重複モデルの応用・実証	ダイアモンド・モデルを使った分析と実証分析の紹介
第10回	内生的成長モデル（基本モデル）	基本的な内生的成長モデルの解説
第11回	内生的成長モデル（ローマー・モデル）	内生的成長モデルであるローマー・モデルの解説
第12回	内生的成長モデルの応用・実証分析	内生的成長モデルを使った分析と実証分析の紹介
第13回	国家間の所得格差	人的資本モデルを応用した国家間の所得格差の解説
第14回	期末試験	後半授業の理解の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んでから講義に向かい、授業後に復習すると効果的です。毎回簡単な練習問題を出すので、講義の後に解いて理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

David Romer, “Advanced Macroeconomics, 5th edition”, McGraw-Hill Irwin, 2018

（第3版の翻訳：デビッド・ローマー著『上級マクロ経済学、原著第3版』日本評論社、2010年）講義は第5版に沿って行いますが、第3版の翻訳本でもほぼカバーできます。

【参考書】

テキストで紹介される論文や日本経済への応用論文などを、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

第7回授業での中間試験（40％）＋期末試験（60％）

（ほぼ毎回練習問題を出しますが、提出を求めず、評価にも入れません。）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が盛りだくさんになると内容が良く理解できない学生がいるため、内容を絞って、余裕を持って講義を行う。また、毎回簡単な練習問題を課し、授業の冒頭で解説を行うことで理解を確認しながら進むが、毎回の提出が困難な学生もいるため、練習問題は各自の自習として、評価には入れないこととする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際経済学、マクロ経済学、応用計量経済学
<研究テーマ> 貿易・直接投資と国・企業の競争力

【Outline (in English)】

Students will understand the basic methods for solving dynamic models, which are the most important method in graduate-level macroeconomics, and will be able to solve basic dynamic models. Furthermore, students will use dynamic models to understand economic growth, the effects of fiscal policy, and income disparities around the world. The standard time for preparation and review for this class is two hours each. Students will be graded on a midterm exam (40%) and a final exam (60%).

ECN514C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

マクロ経済学B

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ的基礎付けのものと確率が含まれるマクロ経済モデルについて講義する。

【到達目標】

この講義を受講すれば、最近のマクロモデルについて論文を理解することができ、自分で確率が含まれるマクロ経済モデルを構築することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

レクチャーノートにしたがって講義する。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

授業内もしくは授業後に課題を課し、フィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学部マクロの復習	学部マクロについて講義する
第2回	時系列分析および制約条件付き最適化	時系列分析および制約条件付き最適化について講義する
第3回	完全競争市場モデル	完全競争市場モデルについて講義する
第4回	政府が存在する完全競争市場モデル	政府が存在する完全競争市場モデルについて講義する
第5回	独占競争市場モデル	独占競争市場モデルについて講義する
第6回	価格硬直性が存在する独占競争市場モデル（NKモデル）	NKモデルについて講義する
第7回	中間試験	中間試験を実施する
第8回	政府が存在するNKモデル	政府が存在するNKモデルについて講義する。
第9回	均衡の決定性	均衡の決定性について講義する
第10回	最適金融政策	最適金融政策について講義する
第11回	賃金硬直性をもつNKモデル	賃金硬直性をもつNKモデルについて講義する
第12回	2タイプの消費者が存在するNKモデル（TANKモデル）	TANKモデルについて講義する
第13回	45度分析	45度分析について講義する
第14回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しない。

【参考書】

Jordi Galí (2015), Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle: An Introduction to the New Keynesian Framework and Its Applications, Princeton Univ Press.

Carl E. Walsh (2010), Monetary Theory and Policy, MIT Press.

Jianjun Miao (2014), Economic Dynamics in Discrete Time, MIT Press.

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)・中間試験 (30%)・期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

マクロ経済学・計量経済学

<研究テーマ>

マクロ経済学・計量経済学

<主要研究業績>

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106. (査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003)

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this course, you can explain several macroeconomic models with microeconomic foundations.

(Learning Objectives)

By attending this lecture, students will be able to understand recent papers on macroeconomic models and construct their own macroeconomic models with probability.

(Learning activities outside of classroom)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (30%), midterm exam (30%), final exam (40%)

ECN521C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

応用ミクロ経済学A

西村 健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではゲーム理論の修士・博士レベルのトピックについて学ぶ。具体的には、不完備情報の静学ゲームおよび不完備情報の動学ゲームが講義の対象となる。なお、本講義の内容はミクロ経済学Aにおけるゲーム理論の知識が前提となる。

【到達目標】

- ・ゲーム理論における重要な用語および概念を厳密に理解する。
- ・ゲーム理論の標準的手法を用いて、戦略的状況における諸問題について、数理的に分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最大7回までオンライン形式とするため、講義内での指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Game Theory
第2回	Static Games of Incomplete Information (1)	Theory: Static Bayesian Games and Bayesian Nash Equilibrium
第3回	Static Games of Incomplete Information (2)	Mixed Strategies Revisited
第4回	Static Games of Incomplete Information (3)	An Auction
第5回	Static Games of Incomplete Information (4)	A Double Auction
第6回	Static Games of Incomplete Information (5)	The Revelation Principle
第7回	復習	中間試験、まとめと解説
第8回	Dynamic Games of Incomplete Information (1)	Introduction to Perfect Bayesian Equilibrium (1)
第9回	Dynamic Games of Incomplete Information (2)	Introduction to Perfect Bayesian Equilibrium (2)
第10回	Dynamic Games of Incomplete Information (3)	Signaling Games (1)
第11回	Dynamic Games of Incomplete Information (4)	Signaling Games (2)
第12回	Dynamic Games of Incomplete Information (5)	Cheap-Talk Games
第13回	Dynamic Games of Incomplete Information (6)	Sequential Bargaining under Asymmetric Information
第14回	総括	期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義前にテキストの該当部分を読んでおくことが求められる。

【テキスト（教科書）】

Robert Gibbons, “Game Theory for Applied Economists,” Princeton University Press, 1992

【参考書】

講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、中間試験40%、平常点10%とする。なお、平常点については講義内での発言、質問などを加味する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の量やスピードについて気を付けたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いるため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

- ・大学院修士レベルのゲーム理論の知識が必須となる。そのため、大学院科目の「ミクロ経済学A」を先に受講することが望ましい。
- ・数学（微分、積分、確率など）を多用するので注意すること。

【担当教員の専門分野等】

個人サイトを参照：

<https://sites.google.com/site/takeshinishimura1/>

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, students will study game theory, a theoretical framework for analyzing strategic situations. The course covers the fundamental concepts and analytical methods of game theory in a mathematical context while also addressing applied problems.

Learning objectives:

The goals of this course are to develop a mathematical understanding of key terms and concepts in game theory and be able to explain them in your own words. Students are also expected to acquire the ability to mathematically analyze various problems in strategic situations using standard methods of game theory.

Learning activities outside of classroom:

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Grading criteria/policy:

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end exam (50%), mid-term exam (40%), and in-class contribution (10%).

ECN521C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

応用ミクロ経済学B

小林 克也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ミクロ経済学の応用の立場で、民間と政府との関係に焦点を当てながら、いくつかの基本的なモデルについて説明をします。みなさんが応用理論の論文を自分で読めるようになるために必要な考え方を学びます。隣接する時限に開講されるミクロ経済学の講義内容を補完する内容を扱います。

【到達目標】

授業の中で取り上げる各分野の基本的な理論モデルの考え方を身につけながら、自分でミクロ経済学の応用理論の論文を読んで理解できるようにすることが目標です。モデルで使われる経済上の概念についてもお話しします。モデルの中で計算過程も経済上の意味を持ちますので、それも含めて理解するよう努めて下さい。春学期のミクロ経済学Aで扱ったゲーム理論の考え方や秋学期に同時進行のミクロ経済学Bで扱う価格理論の考え方を扱います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はすべて対面です。講義形式で進めます。講義の区切りごとに、宿題を出します。みなさんが提出した宿題に私が採点とコメントを書いてお返しします。みなさんの質問は授業中かその前後に私がお答えします。みなさんの様子を見ながら次の時間のミクロ経済学Bの内容を補うように進めたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然独占産業と公的規制(1)	自然独占
第2回	自然独占産業と公的規制(2)	ピークロード料金
第3回	自然独占産業と公的規制(3)	ラムゼイ料金
第4回	公共選択(1)	意思決定のルール
第5回	公共選択(2)	直接民主制、中位投票者の定理、投票のパラドックス
第6回	公共選択(3)	間接民主制、投票の棄権
第7回	公共選択(4)	レントシーキング
第8回	公共選択(5)	コンテストモデル
第9回	公共選択(6)	CES生産関数について
第10回	公共選択(7)	CES生産関数を用いたグループコンテストモデル
第11回	公共選択(8)	ゲリマンダリング
第12回	課税	ラムゼイルール of the 考え方
第13回	地方分権	住民移動と地方公共財
第14回	まとめと試験	まとめをした上で試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

微分の計算をして最適化をするので、基本的な計算をあらかじめ理解をしておいて下さい。ミクロ経済学AとBで扱う計算や経済学の基本的概念を用いるので、これらの講義をあわせて履修することを強く推奨します。これらの授業で扱うゲーム理論や価格理論の基本的な概念を用います。これらの復習やこの授業の復習、宿題の解答に各回とも4時間程度の学習が標準です。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いませんが、以下の参考書の該当する部分を参照しながら講義します。

【参考書】

井堀利宏 (1996) 『公共経済の理論』 有斐閣

小西秀樹 (2009) 『公共選択の経済分析』 東京大学出版会

Konrad, K. (2009), *Strategy And Dynamics In Contests*, Oxford University Press.

を部分的に参照します。その他論文は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題として出す練習問題を50%、最後に実施する期末試験を50%として成績を付けます。

【学生の意見等からの気づき】

履修するみなさんと話をしながら、上記の内容を取捨選択して丁寧に授業を進めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面で私が板書をしていきますので、特に機器は必要ありません。

【その他の重要事項】

連絡事項は、なるべく授業内でお話しします。ですが学期前や学期後、急ぎの連絡は授業支援システムを通じて連絡をします。ときどき見るようにして下さい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

詳細は私のwebsiteをご覧ください。

<http://www.t.hosei.ac.jp/katsuyak/>

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, I explain several basic models, focusing on the relation of the private and public sectors from the view of the applied microeconomics. Students should be able to read academic papers in applied microeconomics theory.

Learning objective:

The goals of this course are to understand the thoughts of basic theoretical models and economic concepts.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by homework:50% and term exam:50%.

ECN522C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

応用マクロ経済学 A

倪 彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づいた動学的一般均衡モデルを国際標準のテキストを用いて学ぶ。
上記関連学術論文を執筆するための基礎知識を身につける。

【到達目標】

大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、応用的な動学モデルを解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学院で使う標準的なテキストである Romer (2018) の 2 章、6 章、および 7 章に沿って講義します。モデルの分析やソフトの使い方とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。授業は原則対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション、使うソフト(例えば、Matlab)の紹介
第2回	名目硬直性	貨幣保有と総需要
第3回	名目硬直性	不完全競争と総供給
第4回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（1）
第5回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（2）
第6回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（3）
第7回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-Hill Irwin, 2018

【参考書】

蓮見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020 年

G. マンキュー（著）『マクロ経済学 1：入門編』東洋経済新報社、2017 年

G. マンキュー（著）『マクロ経済学 2：応用編』東洋経済新報社、2017 年

【成績評価の方法と基準】

学生発表 50 %、課題 25%、クラス参加 25%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやタブレットを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://researchmap.jp/7000017527>

【Outline (in English)】

The goal is to learn the foundational knowledge on dynamic general equilibrium models based on optimization theory (household utility maximization, firm profit maximization).

Additionally, through presentation, students will have a deeper understanding of the academic papers related to the above topics, or apply to their own research to some extent.

All students are expected to read academic papers related to the course contents at home.

Grading criteria:

presentation 50 %, homework 25%、attendance 25%

ECN522C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

応用マクロ経済学B

田村 晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マクロ経済学Aを履修し、基本的な動学モデルを理解した学生を対象に、大学院で国際標準とされるテキストにしたがって、消費、投資、失業、金融・財政政策、といった各論のトピックを講義します。

【到達目標】

マクロ経済学の標準的な手法を使って、消費、投資、失業、金融・財政政策を理解する。理論の習得のみならず、現実の経済で起きている問題を理解し、解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学院でも修士課程で使われている標準的なテキストであるRomer（2018）の後半部分（8～12章）からトピックを抜粋して講義します。モデルの説明が多くなりがちですが、現実の経済問題への視点を持ち、実証分析の紹介も行います。応用的な内容ですが、練習問題やレポート課題を課し、内容の理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	確実性下の消費	恒常所得仮説
第2回	不確実性下の消費	ランダム・ウォーク仮説とその実証
第3回	危険資産と消費	消費CAPMとエクイティ・プレミアム・パズル
第4回	調整費用と投資	離散時間における調整費用のモデル
第5回	トービンのqと投資	トービンの限界のqと平均のq
第6回	トービンのqと投資の実証分析	トービンのqをめぐる議論と実証分析
第7回	金融市場の不確実性と投資	投資家と企業の情報の非対称性
第8回	前半レポート課題の報告	前半授業の理解を深める
第9回	失業と効率賃金モデル	効率賃金モデルの基本型
第10回	サーチとマッチングのモデル	労働市場のサーチとマッチングのモデル
第11回	金融政策と動学的非整合性	キッドランド・プレスコット・モデル
第12回	利子率ルール分析	テイラー・ルール
第13回	財政政策の持続性	財政政策の持続性の理論と実証
第14回	後半レポート課題の報告	後半授業の理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前の予習してから授業に臨み、不明な点はその場で質問できるようにする。事後的にもテキストを勉強しながら講義ノートで復習することで理解を深め、練習問題やレポートに取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

David Romer, "Advanced Macroeconomics, 5th edition" McGraw-Hill Irwin, 2018（第3版の翻訳：デビッド・ローマー著『上級マクロ経済学、原著第3版』、日本評論社、2010年）講義は第5版に沿って行う予定ですが、第3版の翻訳本でもほぼ内容をカバーできます。

【参考書】

テキストで紹介される論文や日本経済への応用論文などを、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

前半授業に基づくレポート課題の報告（50%）＋後半授業に基づくレポート課題の報告（50%）で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題やレポート課題を通じて、テクニカルな部分だけではなく、応用的な解釈の部分を実際に理解し、議論ができるようにする。さらに、前半と後半にレポート課題を受講生に報告してもらい、理解を確実にする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際経済学、マクロ経済学、応用計量経済学

<研究テーマ> 貿易・直接投資と国・企業の競争力

【Outline (in English)】

Using standard macroeconomic methods, students will understand consumption, investment, unemployment, and monetary and fiscal policy. This course will not only teach theory, but also enable students to understand problems occurring in the real economy and devise solutions. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades will be assessed based on the report assignments completed in the first half of the class (50%) and the report assignments completed in the second half of the class (50%).

ECN523C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

統計学A

菅 幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスおよび統計のリテラシーを身に着けること。

【到達目標】

学部で統計学を履修していない学生も統計学の基礎を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員は教科書の内容に基づいて、それをExcelおよびRで実際に計算する方法を説明する。学生は章末の問題を宿題としてExcelおよびRを用いて解き、それを授業内で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Rの基礎	授業の進め方、Rの基礎
第2回	データの表現	度数分布とそのグラフ、ローレンツ曲線、パレート図、2変量データの表現
第3回	データの特徴値	データの中心的位置をとらえる代表値、データの散らばりの程度をとらえる指標、データの標準化
第4回	データの収集	統計的探究プロセス、母集団と標本、標本抽出の方法、インターネット調査、ビッグデータの偏り、実験研究と調査観察研究
第5回	確率(1)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第6回	確率(2)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第7回	不確実な現象のモデリング(1)	確率変数と確率分布、確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、標本分布
第8回	不確実な現象のモデリング(2)	確率変数と確率分布、確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、標本分布
第9回	統計的推測（推定）(1)	点推定、区間推定
第10回	統計的推測（推定）(2)	点推定、区間推定
第11回	統計的推測（仮説検定）(1)	仮説検定の考え方、母数の検定、 χ^2 検定、独立性の検定
第12回	統計的推測（仮説検定）(2)	仮説検定の考え方、母数の検定、 χ^2 検定、独立性の検定

第13回 相関と回帰(1) 相関関係、回帰分析

第14回 相関と回帰(2) 相関関係、回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大内 俊二『データサイエンス指向の統計学』2021年、学術図書出版社、2200円。

【参考書】

金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）[統計&機械学習第2版]』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】

授業内での章末問題の解答100%。

【学生の意見等からの気づき】

学部で統計学を履修していない学生も統計学の基礎を理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>経済統計

<研究テーマ>産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測

<主要研究業績>『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students acquire statistical literacy.

(Learning Objectives) The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on answering end-of-chapter questions in class.

ECN523C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

統計学B

阿部 俊弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では前半は様々な多変量解析の手法を調査し、その手法の理論と実践を身に着けていきます。また、様々なところで耳にすることも多い「シミュレーション」は様々な状況で使われています。ここでは、疑似乱数を用いて解析的に解くことは難しいような問題に対して「真の解はどこにありそうなのか？」という解決法について取り組んでいきます。

【到達目標】

様々な多変量解析の概念を調査し、高度な手法を身に着けていく。また、統計的分布の疑似乱数の生成を行い、乱数を用いた予測を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、Rを用いた課題を提出します。また、Microsoft WordとMicrosoft Excelも必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要と準備	統計ソフトRについて
第2回	主成分分析の理論	データの例と主成分分析の理論
第3回	主成分分析の適用	主成分分析の解釈
第4回	クラスター分析の理論	データの例とクラスター分析の理論
第5回	クラスター分析の応用	実データの群分けと解釈
第6回	クラスター分析に関する話題	クラスター分析の注意点
第7回	正準相関分析	データの例と理論の適用
第8回	ブートストラップ法の基本	リサンプリングとブートストラップ標本
第9回	ブートストラップ法の応用	ブートストラップ法の適用
第10回	シミュレーションのための準備	基本的なプログラミングコード
第11回	シミュレーションの実際	乱数を用いて統計学を実感する
第12回	データ解析手法(1)	近年の話題とその理論
第13回	データ解析手法(2)	近年の話題とその応用
第14回	まとめ	データ解析手法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一(著)・下平 英寿(編集) (2020) 『Rで学ぶ統計のデータ解析(データサイエンス入門シリーズ)』

【参考書】

宮田庸一・阿部俊弘 『実践のための統計学：回帰分析とデータサイエンス入門』アイケイコーポレーション

【成績評価の方法と基準】

授業での平常点(50%)と最終課題レポート(50%)を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・統計ソフトウェアのRを使用します。
- ・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>統計科学

<研究テーマ>方向統計学・EMアルゴリズム

<主要研究業績>

[1] Abe, T. &Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.

[2] Abe, T., Pewsey, A. &Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.

[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.

[4] Abe, T. &Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.

[5] Abe, T., Fujisawa, H. &Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

In this course, we introduce various illustrative examples and theory in multivariate analysis. The term "simulation", which is often heard in our real life, is used in various situations. As examples of that, we will tackle to a problem which is difficult to solve analytically. As a result, we will consider a solution to the problem "Where is the true solution?" by using pseudo-random numbers.

【Learning Objectives】

The students are expected to investigate various concepts of multivariate analysis and acquire advanced methods.

In addition, they are also expected to learn how to generate pseudo-random numbers from statistical distributions, and predict the phenomenon using them.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN563C1 - 2 (経済学 / Economics 500)		
開発経済論 A		
池上 宗信		
その他属性：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 開発経済学の主要な実証分析手法と論文を学ぶ。 実証分析手法として、クラスター頑健標準誤差、ランダム化比較試験、差の差の分析、Regression Discontinuity Design、操作変数法を学ぶ。 これらの手法を用いて、人的資本、信用、市場、制度に関する問を研究した論文を学ぶ。 先行研究をサーベイするのではなく、特定の論文に焦点をあて、その論文の先行研究の不備、問、貢献、データ、手法を学ぶ。 【到達目標】 各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。 各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探ることができるようになる。 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連 【主な授業方法】 L 講義 /Lecture 【授業の進め方と方法】 授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。 授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。 演習問題、試験には統計計算ソフト R を用いた問題が含まれる。 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No 【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
第1回	ランダム化比較試験1	ランダム化比較試験1 相関、因果、ルービンの因果モデル
第2回	ランダム化比較試験2	ランダム化比較試験2 外生性、内生性
第3回	ランダム化比較試験3	ランダム化比較試験3 検定、教育、学力追跡と成績、Duflo, Dupas, and Kremer (2011)、今井 (2018) 45- 48 ページ
第4回	ランダム化比較試験4	ランダム化比較試験4 クラスターに対して頑健な標準誤差、信用、アドバース・セレクション、モラル・ハザード、Karlan and Zinman (2009)、2 段階ランダム化
第5回	ランダム化比較試験5、操作変数法1	ランダム化比較試験5、操作変数法1 結合仮説の検定、宗教と教育、Becker and Woessmann (2009)、操作変数、2 段階最小2 乗推定量、制度、植民地と経済成長、Acemoglu, Johnson, and Robinson (2001)
第6回	操作変数法2	操作変数法2 操作変数の強さの検定、外生性の検定、説明変数の内生性の検定
第7回	まとめと復習、中間試験	まとめと復習、中間試験 第1回から第6回までの内容を復習、中間試験
第8回	固定効果	固定効果 パネル・データ、固定効果操作変数法、所得水準と民主主義、Acemoglu, Johnson, Robinson, and Yared (2008)
第9回	Regression Discontinuity Design 1	Regression Discontinuity Design 1 tidyverse, ggplot2 パッケージを用いた図の描き方
第10回	Regression Discontinuity Design 2	Regression Discontinuity Design 2 連続性条件、局所回帰、制度、投票と貧困対策、Fujiwara (2015)、tidyverse, ggplot2 パッケージを用いた図の描き方
第11回	差の差の分析1	差の差の分析1 局所平均、局所線形回帰、条件付き平均トリートメント効果
第12回	差の差の分析2	差の差の分析2 ソープ・オペラと出生率、La Ferrara, Chong, and Duryea (2012)、市場、携帯電話と魚市、Jense and nMiller (2018)
第13回	差の差の分析3	差の差の分析3 時間差介入と平均トリートメント効果の異質性
第14回	まとめと復習、期末試験	まとめと復習、期末試験 時間差介入と平均トリートメント効果の異質性の診断 第8回から第13回までの内容を復習、期末試験
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。 必要・興味に応じて、各講義のスライドの2 ページ目にある参考文献を読む。 本授業の準備学習・復習時間は、各2 時間を標準とする。 【テキスト（教科書）】 テキストは指定しない。 【参考書】 各講義のスライドは、スライドの2 ページ目にある参考文献に基づいている。 以下のような文献である。 - 高野久紀 (2025) 『開発経済学 実証経済学へのいざない』日本評論社 - 高橋和志、樋口裕城、牧野百恵編 (2025) 『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣 - 西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮 (2019) 『計量経済学』有斐閣 - Acemoglu, Daron, Simon Johnson, and James A. Robinson. 2001. “The colonial origins of comparative development: An empirical investigation.” American Economic Review 91 (5). - Acemoglu, Daron, Simon Johnson, James A. Robinson, and Pierre Yared. 2008. “Income and democracy: Comment.” American Economic Review 98 (3):808– 842. - Duflo, Esther, Pascaline Dupas, and Michael Kremer. 2011. “Peer effects, teacher incentives, and the impact of tracking: Evidence from a randomized evaluation in Kenya.” American Economic Review 101 (5): 1739– 1774. - Fujiwara, Thomas. 2015. “Voting Technology, Political Responsiveness, and Infant Health: Evidence From Brazil.” Econometrica 83 (2): 423– 464. - Jensen, Robert and Nolan H. Miller. 2018. “Market integration, demand, and the growth of firms: Evidence from a natural experiment in India.” American Economic Review 108 (12):3583– 3625. - Karlan, Dean, and Jonathan Zinman. 2009. “Observing Unobservables: Identifying Information Asymmetries With a Consumer Credit Field Experiment.” Econometrica 77 (6): 1993– 2008. 【成績評価の方法と基準】 中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価する。 【学生の意見等からの気づき】 本講義は2025 年度は開講されなかった。 【担当教員の専門分野等】 <専門領域> 開発ミクロ経済学 <研究テーマ>		

家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険

< 主要研究業績 >

“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” *Journal of Risk and Insurance*, 88(2), pp. 293-324. 2021.

“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.

“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】

< Course outline >

We will study major empirical methods and papers in Development Economics.

As the major empirical methods, we will study difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.

We will study papers using these empirical methods and analyzing questions related to human capital, credit, market, and institution.

< Learning Objectives >

We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles. We will try to become able to look for research paper idea keeping the empirical methods in our minds.

< Learning activities outside of classroom >

After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.

We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.

If we need to have online classes for combating infectious diseases, we will take online mini test or assignment after each class.

< Grading Criteria/Policies >

We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 40%; end-term exam 40%; participation 20%.

ECN542C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

金融ファイナンス論A

胥 鵬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんだろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動していた。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステムチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を 得る？	2銘柄の分散投資の収益率
5	2銘柄の分散投資か らの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンの トレードオフ	危険資産からなる有効ポート フォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォ リオ・フロンティア
9	βの導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収 益率の計算

12	イベント・スタ ディー	利益・配当・政策などの変動の 株価に対する効果を計測する分 析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて 経済学・金融・ファイナンスの 様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、課題レポート(40%)と学期レポート(60%)。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
<研究テーマ> MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格

<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Short reports (40%) and term report (60%) are both required for grading.

ECN566C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

地域経済論 I A

馬場 敏幸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の産業について学びます。特に自動車産業およびサポーターインダストリーの現状と発展について学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】

対象各国の経済の現状、問題点、発展の経緯、産業動向などについて理解を深めることを到達目標とします。各国の経済状況や発展の過程、背後にあるメカニズムについて十分理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はZoomやオンデマンドで行います。当初は講義により各国の状況について説明を行いますが、より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第2回	経済データベース 1	オンラインデータベースを学び、主要な経済統計を検索・取得できるようにします。
第3回	経済発展要因	アジアの経済発展の諸要因について学びます
第4回	通貨とグローバリゼーション	為替レートとグローバリゼーションについて学びます
第5回	工業化と技術学習	技術導入戦略、技術学習の経路、OEM戦略などについて学びます
第6回	経済データベース 2	貿易データベースについて学び、データの検索・取得を行えるようにします。
第7回	エリアスタディ 1	シンガポール
第8回	エリアスタディ 2	香港
第9回	エリアスタディ 3	韓国
第10回	エリアスタディ 4	タイ
第11回	エリアスタディ 5	インドネシア
第12回	エリアスタディ 6	マレーシア
第13回	エリアスタディ 7	フィリピン
第14回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、双方向のディスカッション形式か、レクチャー形式か、選択していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【担当教員の専門分野等】
開発経済学・エリアスタディ

【研究テーマ】
経済新興国・グローバルサウスの工業化、自動車産業

【主要研究業績】
馬場敏幸編（2016）『金型産業の技術形成と発展の諸様相：グローバル化と競争の中で』日本評論社 2016.3.31 ISBN978-4-535-55850-2, 258P

【主要研究業績】
馬場敏幸編（2013）『アジアの経済発展と産業技術：キャッチアップからイノベーションへ』ナカニシヤ出版 2013・3.30

【主要研究業績】
馬場敏幸（2005）『アジアの裾野産業：調達構造と発展段階の定量化および技術移転の観点より』白桃書房 2005.3 （2007年森嘉兵衛賞A賞）

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics, geographies, industries of Asian countries and other emerging countries. You learn various economic backgrounds and development engines of each country. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN566C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

地域経済論 I B

馬場 敏幸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の産業について学びます。特に自動車産業およびサポーターティングインダストリーの現状と発展について学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】

自動車産業およびサポーターティングインダストリーの歴史、特質、現状、今後の発展の方向性などについてグローバルな視点から理解することを目標とします。自動車産業の特質、各国での発展史、現状について理解を深めてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Zoomによるリアルタイムオンライン講義を行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第2回	自動車産業データベース	オンラインデータベースを学び、自動車産業の主要なデータを検索・取得できるようにします
第3回	貿易データベース	貿易データベースについて学びます
第4回	自動車産業の現状 1	自動車産業の現状について学びます
第5回	自動車産業の現状 2	世界の自動車産業の状況について概観します
第6回	サポーターティング産業	サポーターティング産業について学びます
第7回	自動車産業の発展史 1	自動車産業の発展史について学びます
第8回	自動車産業の発展史 2	自動車産業の発展史について学びます
第9回	グローバルバリューチェーン 1	自動車部品のGVCについて学びます
第10回	グローバルバリューチェーン 2	自動車部品のGVCについて学びます
第11回	各国の自動車産業 1	各国の自動車産業のケーススタディ
第12回	各国の自動車産業 2	各国の自動車産業のケーススタディ
第13回	各国の自動車産業 3	各国の自動車産業のケーススタディ
第14回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前1時間、講義後3時間、合計4時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、双方向のディスカッション形式か、レクチャー形式か、選択していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PCを推奨します

【専門領域】

開発経済学・エリアスタディ

【研究テーマ】

経済新興国・グローバルサウスの工業化、自動車産業

【主要研究業績】

馬場敏幸編（2016）『金型産業の技術形成と発展の諸様相：グローバル化と競争の中で』日本評論社 2016.3.31 ISBN978-4-535-55850-2, 258P

【主要研究業績】

馬場敏幸編（2013）『アジアの経済発展と産業技術：キャッチアップからイノベーションへ』ナカニシヤ出版 2013・3.30

【主要研究業績】

馬場敏幸（2005）『アジアの裾野産業：調達構造と発展段階の定量化および技術移転の観点より』白桃書房 2005.3 （2007年森嘉兵衛賞A賞）

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and industries of Asian countries and other emerging countries. In this class, we especially focus on automobile industry and supporting industries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN544C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

企業経済学B

砂田 充

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別、カルテル、合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。授業形態については未定としているが、詳細は学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと黒板を使った講義形式がメイン。学生による報告を求める場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	寡占市場①	寡占市場の基本モデル（復習）
第3回	寡占市場②	製品差別化（復習）
第4回	寡占市場③	消費者の離散選択モデル/Logitモデル
第5回	需要分析①	回帰分析（復習）
第6回	需要分析②	需要関数の推定/操作変数法
第7回	価格差別①	価格差別の基礎/グループ別価格
第8回	価格差別②	バンドル
第9回	価格差別③	メニュー価格
第10回	カルテル①	カルテルの最適化行動と安定性/報復の脅威による協調の維持
第11回	カルテル②	カルテル規制/不当な取引制限
第12回	合併①	企業結合規制/水平的合併と効率性/水平的合併と社会的厚生
第13回	合併②	合併シミュレーション/合併の実証研究
第14回	総括	これまでの内容のおさらいと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には講義資料および自筆ノート等を使って復習（2時間程度）することが必要である。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣、2001年）、丸山雅祥『経営の経済学[第3版]』（有斐閣、2017年）、Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010, Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013, Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004, Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996, Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988他適宜紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50～95%）、平常点（5～50%）により評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

<研究テーマ>

企業の経営戦略と公共政策の経済分析

<主要研究業績>

"Competition among Movie Theaters: An Empirical Investigation of the Toho-Subaru Antitrust Case," Journal of Cultural Economics, Vol. 36, Number 3, pp. 179-206, August 2012.

"Coverage Area Expansion, Customer Switching, and Household Profiles in the Japanese Broadband Access Market," Information Economics and Policy, Vol. 23, Issue 1, pp. 12-23, March 2011 (with Masato Noguchi, Hiroshi Ohashi, and Yosuke Okada).

"Measuring the Cost of Living Index, Output Growth, and Productivity Growth in the Retail Industry: An Application to Japan," Review of Income and Wealth, Vol. 56, Issue 4, pp. 667-692, December 2010.

【Outline (in English)】

This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics.

The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: pricing strategy, cartel, horizontal merger, demand analysis, and so on.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through Hoppii (about two hours required), and, if required, to complete a homework assignment through Hoppii (about two hours required).

Students are also expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.

The grade will be based on the final exam (50-95%) and the homework (5-50%).

ECN545C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

経済と会計B

田中 優希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、国連が持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）を制定した歴史的背景を理解したうえで、SDGsの17目標について理解し、さらに、SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解することを目的とする。

【到達目標】

- （１）国連が持続可能な開発目標（SDGs）を制定した歴史的背景を理解できる。
- （２）SDGsの17の目標を理解できる。
- （３）SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDGsと企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 国連の理念 (2) SDGs誕生の歴史的背景 (3) 企業がSDGsに取り組む理由
2回(3・4)	SDGsの人々 (People)に関する 目標(1)	SDGs目標1-6 (1) 人権についての基本的な理解を深める (2) ネスレの児童労働撲滅の取り組み
3回(5・6)	SDGsの人々 (People)に関する 目標(2)	SDGs目標1-6 貧困問題に取り組むソーシャル ビジネスの可能性を考える。
4回(7・8)	SDGsの繁栄 (Prosperity)に関する 目標(1)	SDGs目標7-11 企業におけるジェンダーダイ バーシティ
5回(9・10)	SDGsの繁栄 (Prosperity)に関する 目標(2)	SDGs目標7-11 (1) 従業員の働き方改革 (2) 人的資本経営
6回(11・12)	SDGsの地球 (Planet)に関する目 標(1)	SDGs目標12-15 (1) 気候変動 (2) 脱炭素
7回(13・14)	SDGsの地球 (Planet)に関する目 標(2)	SDGs目標12-15 (1) 廃棄物 (2) 生物多様性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲスト講師の招聘を検討する。ゲスト講師招聘の場合は、授業計画を変更することもある。ただし、ゲストスピーカーを招聘する場合も、授業を運営は担当教員の責任で行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand the historical background of the United Nations' establishment of the Sustainable Development Goals (SDGs), to understand the 17 goals of the SDGs, and to further understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

国際金融論 A

ブー トウン カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論A/B」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。春学期の講義では、経済全体の中の対外取引の位置づけ、対外取引の意義やその内容と統計データ、為替市場の仕組み・取引内容、為替レートと金利や物価との関係、短期と長期における為替レート決定の理論および理論の実証的検証方法などについて学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、その統計データの活用、為替市場の仕組みと為替取引、為替レートと金利や物価との関係、為替レート決定などを理解でき、さらにこれらの内容に関する現実の様々な問題に関心を持ち、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論の紹介
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定、資金循環勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支表
5	貨幣	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	貨幣と物価に関する理論と実証研究	貨幣需要関数の理論と推定、貨幣と物価との関係の実証分析
8	為替レート	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レートの算出
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	金利平価の検証	金利平価の実証研究文献、データとパソコンを用いる演習
13	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル

14 購買力平価からの乖離 データでみる実質為替レートの長期的トレンド、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回は学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次、新世社 2024年。
- 『MBAのための国際金融』小川 英治・川崎 健太郎、有斐閣 2007年。

【参考書】

- “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版 (2022年) (英語) ペーパーバック。
- “International Finance and Open-Economy Macroeconomics,” by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016年) (ハードカバー)。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』勝 悦子、有斐閣 2011年。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：25%、中間レポート：25%、学期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
国際マクロ経済学、国際金融論
<研究テーマ>
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
<主要研究業績>
(1) "Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 2, pp.38-149, 2012 (with Etsuro Shioji).
(2) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1-21 (with Hayato Nakata).
(3) "Intra-regional Trade in Intermediate Goods and Macroeconomic Interdependence in East Asia: Analysis with Updated and Extended Data," Journal of International Economic Studies 39 (2025), pp.7-43.

【Outline (in English)】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN551C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

国際金融論B

ブー トウン カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論A/B」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。秋学期の講義では、春学期の講義内容を踏まえ、為替レート決定の諸理論およびその実証的検証の方法、為替市場の効率性、為替レートと実物経済財との関係、開放経済を分析する諸モデル、そして国際金融論の発展・応用的なトピック（為替介入、為替制度、通貨危機、国際金融市場の役割、国際金融協力）などについて学ぶ。

【到達目標】

為替レート決定の諸理論の内容や相違点、為替市場の特徴や役割、為替レートと実物経済財との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果などを理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題に関心を持ち、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レート決定の理論（3）	ポートフォリオ・アプローチとその実証分析
2	為替レート決定の理論（4）	ニュースの理論とその実証分析
3	外国為替市場の効率性	効率的市場仮説、先物相場と直物相場、先物相場プレミアムに関する実証分析
4	為替レートと実体経済（1）	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
5	為替レートと実体経済（2）	為替レートと経常収支、弾力性アプローチとその実証分析
6	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LMモデルの復習：名目価格硬直性、短期と長期、短期のマクロ経済理論としてのIS-LMモデル、総生産の決定、外生ショックと景気変動、マクロ経済政策の効果
7	開放経済分析の理論的枠組み（1）	マンデル・フレミングモデルの構築、それを用いる分析：変動相場制下の金融・財政政策の効果
8	開放経済分析の理論的枠組み（2）	マンデル・フレミングモデルを用いる分析：固定相場制下の金融・財政・為替政策の効果

9	マンデル・フレミングモデルから動学的開放マクロ経済学へ為替介入	動学的開放マクロ経済学の理論と実証
10		為替介入の定義、実際、仕組み、理論・実証の効果、固定相場制維持介入と通貨危機
11	為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、世界各国の為替制度の現状、為替制度選択問題と「両極の解」の議論
12	通貨同盟と最適通貨圏	EUとユーロの概要、最適通貨圏の理論と実証分析
13	国際資本市場	国際資本市場の構造や機能、実態、問題点
14	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融における現実の諸問題と政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次、新世社2024年。
- 『MBAのための国際金融』小川英治・川崎健太郎、有斐閣2007年。

【参考書】

- “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版（2022年）（英語）ペーパーバック。
- “International Finance and Open-Economy Macroeconomics,” by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition（2016年）（ハードカバー）。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣2011年。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：25%、中間レポート：25%、学期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際マクロ経済学、国際金融論

<研究テーマ>

開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題

<主要研究業績>

- (1) "Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 2, pp.38-149, 2012 (with Etsuro Shioji).
- (2) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1-21 (with Hayato Nakata).
- (3) "Intra-regional Trade in Intermediate Goods and Macroeconomic Interdependence in East Asia: Analysis with Updated and Extended Data," Journal of International Economic Studies 39 (2025), pp.7-43.

【Outline (in English)】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN564C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

実証ファイナンスA

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは、計量経済学AおよびBの単位を修得し、金融およびファイナンスに関する修士論文を書く学生（修士2年生以上）を対象として、確定的および確率的なキャッシュフローを持つ金融資産の価格付けの基本的な理論的背景、その実証分析手法を身に着け、実証論文を書くためのアプローチを学ぶことにある。

【到達目標】

本講義の目標は、1. インベストメントサイエンスに関わるファイナンスの基本的な理論を理解できる、2. 理論の検証をSTATA等の統計パッケージを利用し実行できる、3. ファイナンスに関する実証論文が執筆できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の半分は授業形式で、残りの半分は実際のデータを用いた演習形式となる。講義では最初にファイナンスにおける実証分析のベースとなる理論および分析手法を紹介し、データを利用して実際に理論の検証を行ってもらふ。本講義では統計パッケージとして、SAS StudioおよびSTATAを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要
2	確定的利付債券 1	債券価格
3	確定的利付債券 2	債券価格の金利感応度
4	確定的利付債券 3	金利の期間構造
5	確率的キャッシュフローをもつ資産 1	平均分散アプローチ
6	確率的キャッシュフローをもつ資産 2	資本資産価格モデル
7	確率的キャッシュフローをもつ資産 3	無裁定理論と複数ファクターモデル
8	確率的キャッシュフローをもつ資産 4	均衡モデル
9	時系列分析の基礎	定常性とARIMAモデル
10	実証分析 1	金利の期間構造の検証
11	実証分析 2	ポートフォリオの組成と α の計算
12	実証分析 3	Fama-MacBeth回帰
13	実証分析 4	イベントスタディ
14	実証分析 5	エクイティプレミアムパズル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の事前学習に2時間、講義内で出題される演習課題の復習に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. デービッド G. ルーエンバーガー（著）、今野浩（翻訳）『金融工学入門第2版』日本経済新聞出版（2015/03）
2. John Y.Campbell, Andrew W. Lo, Craig Mackinlay（著）祝迫得夫他4名（翻訳）『ファイナンスのための計量分析』共立出版（2003/09）

【参考書】

1. 沖本竜義『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店（2010/2）
2. ウォルター エンダース（著）、新谷元嗣、藪友良（翻訳）『実証のための計量時系列分析』有斐閣（2019/12）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、講義で設定されるアサインメント（50%）で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

前回開講期間より年数が経過しているため、フィードバックはない。

【担当教員の専門分野等】

参照： <http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

This course is intended for students who have completed Econometrics A and B and are writing a master's thesis in finance or related fields (second-year master's students and above). The course provides a systematic introduction to the fundamental theoretical foundations of pricing financial assets with deterministic and stochastic cash flows, as well as the empirical methods used to analyze such assets. Students will also learn structured approaches to conducting empirical research and writing academic empirical papers.

The learning objectives of this course are as follows:

1. To understand the fundamental theories of finance relevant to investment science;
2. To be able to empirically test theoretical models using statistical software packages such as STATA;
3. To acquire the ability to write empirical research papers in the field of finance.

As part of out-of-class study, students are expected to spend approximately two hours on advance preparation of the assigned sections of the textbook and two hours reviewing exercise problems assigned during lectures. Course evaluation will be based on class participation (50%) and assignments specified in the course (50%).

ECN555C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

実証ファイナンス B

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは、計量経済学AおよびBの単位を修得し、実証ファイナンスAを履修し、金融およびファイナンスに関する修士論文を書く学生（修士2年生以上）を対象として、オプションなどの派生証券の価格付けの基本的な理論的背景、その実証分析手法を身に付け、実証論文を書くためのアプローチを学ぶことにある。

【到達目標】

本講義の目標は、1. インベストメントサイエンスにおける派生証券の価格付け理論および当該分野で多用される時系列分析の基礎を理解できる、2. 価格を計算するにあたって必要なモデルの設定およびシミュレーションをSAS StudioまたはSTATAなどの統計パッケージを利用し実行できる、3. ファイナンスに関する実証論文が執筆できるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の半分は授業形式で、残りの半分は実際のデータを用いた演習形式となる。講義では最初に本講義のテーマに沿って、派生証券の価格理論、時系列分析およびシミュレーション手法を紹介し、データを利用して実際に理論の検証を行ってもらう。本講義では統計パッケージとして、SAS StudioおよびSTATAを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要
2	離散時間モデル 1	1 期間 2 項モデル
3	離散時間モデル 2	複数期間 2 項モデル
4	離散時間モデル 3	状態価格とリスク中立確率
5	連続時間モデル 1	ブラウン運動とブラックショールズモデルによるオプション価格付け
6	連続時間モデル 2	2 項モデルのブラックショールズモデルへの近似
7	モンテカルロシミュレーション 1	株価のシミュレーション
8	モンテカルロシミュレーション 2	モンテカルロシミュレーションによるオプション価格の計算
9	時系列分析 1	VAR モデル
10	時系列分析 2	共和分、VECM
11	時系列分析 3	GARCH モデル
12	実証分析 1	統計的裁定取引
13	実証分析 2	確率ボラティリティモデル、マルコフ連鎖モンテカルロシミュレーションを用いたオプション価格の計算
14	実証分析 3	GARCH モデル、マルコフ連鎖モンテカルロシミュレーションを用いたオプション価格の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の事前学習に2時間、講義内で出題される演習課題の復習に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. デービッド G. ルーエンバーガー（著）、今野浩（翻訳）『金融工学入門第2版』日本経済新聞出版（2015/03）
2. John Y.Campbell, Andrew W. Lo, Craig Mackinlay（著）祝迫得夫他4名（翻訳）『ファイナンスのための計量分析』共立出版（2003/09）

【参考書】

1. 沖本竜義『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店（2010/2）
2. ウォルター エンダース（著）、新谷元嗣、藪友良（翻訳）『実証のための計量時系列分析』有斐閣（2019/12）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、講義で設定されるアサインメント（50%）で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

前回開講期間より年数が経過しているため、フィードバックはない。

【担当教員の専門分野等】

参照：<http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

This course is designed for students who have completed Econometrics A and B, have taken Empirical Finance A, and are writing a master's thesis in finance or related fields (second-year master's students and above). The course provides a rigorous introduction to the fundamental theoretical framework for pricing derivative securities, such as options, as well as the empirical methodologies used in their analysis. Students will also learn systematic approaches to conducting empirical research and producing academic empirical papers. The learning objectives of this course are as follows:

1. To acquire a thorough understanding of derivative securities pricing theory in investment science and the basic principles of time-series analysis commonly employed in this field;
2. To develop the ability to specify appropriate pricing models and to implement simulations using statistical software packages such as SAS Studio or STATA;
3. To develop the capability to write empirical research papers in the field of finance.

Students are expected to spend approximately two hours per week on advance preparation of the assigned readings and two hours per week reviewing problem sets assigned during class. Course evaluation will be based on class participation (50%) and course assignments (50%).

ECN555C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

環境政策論A

西澤 栄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境政策の経済分析－政策手法を中心に－

【到達目標】

- ①環境問題に関わる政策手法を理解する。
- ②環境政策の経済学的分析手法を身につける。
- ③他国・地域の環境政策の手法について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境政策の経済分析を主たるテーマとする。環境問題の経済的分析手法を解説し、具体的な政策手法について分析する。

講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相談して決める。期末には簡単なレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション、江戸時代 ン・日本の環境問題 の史的変遷
第2回	地球温暖化対策	気候変動枠組み条約、京都議定 書、パリ協定
第3回	環境問題の経済分析	余剰分析、厚生経済学の基本定 理、市場の失敗、公共財、外部性
第4回	環境政策の手段①	政策手段の分類、直接規制、環 境税
第5回	環境政策の手段②	排出取引、環境補助金、デポ ジット制度
第6回	生物多様性の保全	生態系サービス、生物多様性条 約
第7回	環境政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】

- ①栗山浩一・馬奈木俊介(2024)『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣
- ②伊藤順一(2025)『食料・環境経済学』勁草書房
- ③有村俊秀・片山東・松本茂編(2017)『環境経済学のフロンティア』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

レポートとその内容に関する発表（50％）、平常点と授業への参加（50％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境政策論、農業経済学

<研究テーマ>欧米の環境政策・農業環境問題

<主要研究業績>

- ①「農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ」『農業経済研究』第94巻2号, pp.106-119, 2022年.
- ②『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房, 2017年.
- ③『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社, 2014年.

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with economic analyses of environmental policies.

(Learning Objectives) The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution (50%).

ECN574C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

環境政策論B

西澤 栄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然資源管理政策－日本の農林水産政策の現状と課題－

【到達目標】

- ①農林水産業に関わる政策手法を理解する。
- ②農林水産業の経済学的分析手法を身につける。
- ③他国・地域の農林水産政策について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本の農業と水産業を主たる分析対象とする。それぞれに関する
国の政策を概観し、具体的な政策手法について解説する。受講者の
要望があれば、森林・林業についても扱う。

講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相
談して決める。期末には簡単なレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日本農業の展開過程
第2回	食料の市場と農業政策	価格政策と所得政策
第3回	コメの生産と流通	生産調整の経済分析
第4回	農産物貿易・農業と環境	多面的機能
第5回	漁業の経済学	水産資源の管理
第6回	水産業	日本の水産政策の概要
第7回	農林水産政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読む。本授業の準備・
復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】

- ① 佐開津典生・鈴木宣弘(2026)『農業経済学 第6版』岩波書店
- ② 伊藤順一(2025)『食料・環境経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

レポートとその内容に関する発表（50 %）、平常点と授業への参
加（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境政策論、農業経済学

<研究テーマ>欧米の環境政策・農業環境問題

<主要研究業績>

- ①『農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ』『農業経済研究』第94巻2号，pp.106-119，2022年。
- ②『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017年。
- ③『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014年。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with management policies for natural resources, specifically in the field of agriculture, forestry, and fisheries.

(Learning Objectives) The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on natural resource issues and to comprehend agriculture, forestry, and fisheries in Japan.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution (50%).

ECN574C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

経済地理学B

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、分析手法やアプローチについて議論する。

【到達目標】

経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文の分析手法を理解できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第2回	経済学と地理・空間	主要論文の読解
	(1)	
第3回	経済学と地理・空間	主要論文の読解
	(2)	
第4回	経済学と地理・空間	主要論文の読解
	(3)	
第5回	都市と集積 (1)	主要論文の読解
第6回	都市と集積 (2)	主要論文の読解
第7回	都市と集積 (3)	主要論文の読解
第8回	イノベーションとネットワーク (1)	主要論文の読解
第9回	イノベーションとネットワーク (2)	主要論文の読解
第10回	イノベーションとネットワーク (3)	主要論文の読解
第11回	空間経済の理論と実証 (1)	主要論文の読解
第12回	空間経済の理論と実証 (2)	主要論文の読解
第13回	空間経済の理論と実証 (3)	主要論文の読解
第14回	経済地理学のフロンティアとまとめ	展望論文を通じた整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Brakman, S., et al. (2019) 『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World (3rd edition)』Cambridge University Press

Clark, G. L., et al. (2018) 『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press

Combes, P. P., et al. (2008) 『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press

Duranton, G. et al. (2015) 『Handbook of Regional and Urban Economics Vol.5』North Holland

松原宏 (2006) 『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会

佐藤泰裕ほか (2011) 『空間経済学』有斐閣

その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加が評価の中心となる。

平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、履修者と相談のうえ、オンライン形式で実施することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著 (2015) 『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著 (2012) 『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著 (2007) 『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research methods and approaches.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report(20%), and in-class contribution(80%).

ECN561C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

社会保障論A

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。このうち、本講義（社会保障論A）では、年金制度に関連する主要論点をテーマに取り上げる。なお、年金制度・医療介護制度は互いに関連する部分があり、医療制度に関する主要論点は社会保障論Bで扱うが、この関係も若干補足的に説明する。

【到達目標】

年金制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- (1) 前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (2) 後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (3) 必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年金制度（1）	ガイダンス
2	年金制度（2）	年金制度間の財政調整
3	年金制度（3）	財源調達の仕組みと問題点
4	年金制度（4）	給付水準と留意点
5	年金制度（5）	人口動態と賦課方式、所得代替率の定義と留意点、世代間格差
6	年金制度（6）	2004年改正と課題
7	年金制度（7）	雇用形態の多様化と公的年金
8	年金制度（8）	厚生年金と共済年金の一元化
9	年金制度（9）	スウェーデンの年金制度
10	年金制度（10）	カナダの年金制度
11	年金制度（11）	イギリスの年金制度
12	年金制度（12）	社会保障・税の一体改革、2016年改正
13	年金制度（13）	2019年財政検証
14	年金制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
・吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016

【参考書】

- ① Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ② 西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
- ③ 吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016

④ 小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020

【成績評価の方法と基準】

授業内での貢献（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoomを利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

- ① Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
- ② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
- ③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
- ④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%, in class contribution: 70%).

ECN561C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

社会保障論B

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。このうち、本講義（社会保障論B）では、医療制度に関連する主要論点をテーマに取り上げる。なお、年金制度・医療介護制度は互いに関連する部分があり、年金制度に関する主要論点は社会保障論Aで扱うが、この関係も若干補足的に説明する。

【到達目標】

医療制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- (1) 前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (2) 後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- (3) 必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	医療制度（1）	ガイダンス
2	医療制度（2）	日本の医療制度の沿革、医療制度の確立・拡張期
3	医療制度（3）	医療制度の改革期
4	医療制度（4）	医療制度・政策の国際比較① (ドイツの医療制度改革)
5	医療制度（5）	医療制度・政策の国際比較② (アメリカの医療制度改革)
6	医療制度（6）	医療制度・政策の国際比較③ (スウェーデンの医療制度改革)
7	医療制度（7）	医療保険制度の基本問題
8	医療制度（8）	各医療保険制度の構造と政策課題
9	医療制度（9）	医療供給制度の構造と改革の方向性
10	医療制度（10）	医療供給の改革手法
11	医療制度（11）	薬価制度・高額薬剤の現状と課題
12	医療制度（12）	医薬品の現状と改題
13	医療制度（13）	薬価制度改革と今後の方向性
14	医療制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・島崎謙治『日本の医療：制度と政策』東京大学出版会, 2020
・小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【参考書】

- ①Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ②島崎謙治『日本の医療：制度と政策』東京大学出版会, 2020
- ③小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020
- ④小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【成績評価の方法と基準】

授業内での貢献（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoomを利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

- ①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
- ② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
- ③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
- ④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%, in class contribution: 70%).

ECN573C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

上級マクロ経済学A

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ニューケインジアン・フレームワークに家計の異質性を導入した最新のマクロ経済モデルを学びます。計算負荷の高い定量的HANKモデル (Heterogeneous Agent New Keynesian) のエッセンスを、解析的に解可能な「Tractable HANK (THANK)」モデルを通じて習得します。格差、リスク、流動性が金融・財政政策の伝播メカニズムに与える影響を理解することを主眼とします。

【到達目標】

本講義の履修を通じて、学生は以下のことができるようになります：

- * 代表的個人 (RANK) モデルの限界と、マクロ経済モデルに「異質性」を導入する必要性について理解する。
- * 大規模な数値シミュレーションに頼ることなく、THANKモデルを解析的に導出・解くことで、HANKモデルの主要な動学を習得する。
- * 格差 (Inequality) やリスク (Risk) が、経済政策の効果をどのように増幅、あるいは減衰させるかを分析する能力を身につける。
- * 金融・財政政策の伝播メカニズムにおいて、流動性やHand-to-Mouth (その日暮らし) 家計が果たす役割を評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、主にスライドを用いた講義形式で行います。ただし、THANKモデルの数理的な構造や均衡解の導出プロセスについては、板書を用いて詳細に解説します。理論の理解を深めるため、適宜、直感的な説明と厳密な数式操作を行き来しながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションーマクロ経済学における異質性	代表的個人 (RANK) から HANK への潮流。なぜ異質性が重要なのか。「扱いやすさ (Tractability)」の哲学と「キリンの射影 (Giraffe Projection)」のメタファー。解析的アプローチと定量的アプローチの架け橋としての THANK モデルの位置づけ
第2回	代表的個人モデル (RANK) の再解釈と限界	標準的なニューケインジアンモデルを「消費関数 (ケインジアン・クロス)」として再解釈する。RANK における総需要増幅の欠如 (MPC の低さ)、フォワード・ガイダンス・パズル、供給ショックと産出ギャップの負の相関など、直感に反する結果の整理
第3回	TANKモデルの構築ー貯蓄者とその日暮らし家計	Hand-to-Mouth (H) 家計と Savers (S) 家計の導入。総オイラー方程式の導出と、そこに現れる「分配のウェッジ (distributional wedge)」。

所得格差の循環性 (χ) が総需要に与える影響

第4回	TANKにおける政策分析ー財政乗数と逆転した論理	TANKモデルにおける金融政策の増幅効果（間接効果の重要性）。財政乗数がRANKよりも大きくなるメカニズム。パラメーター条件によっては金融引き締めが景気を拡大させる「逆転したケインジアン論理 (Inverted Keynesian Logic)」の可能性
第5回	THANKモデルの基礎ー固有リスクと予備的貯蓄	TANKに「固有リスク (idiosyncratic risk)」を導入する。家計の状態変化 ($S \leftrightarrow H$) と自己保険 (Self-insurance)。予備的貯蓄動機がもたらすオイラー方程式への割引・複利効果 (δ)
第6回	THANKの応用ーCatch-22 (ジレンマ) と決定性	HANKモデルのジレンマ (Catch-22)：政策効果の増幅には「反循環的な格差」が必要だが、フォワード・ガイダンス・パズルの解決には「順循環的な格差 (またはリスク)」が必要であること。テイラー原理の修正と均衡の決定性
第7回	授業内中間試験	授業内中間試験
第8回	流動性の導入とiMPCs (異時点間限界消費性向)	HANKモデルへの流動資産 (国債) の導入。解析的に導出される「異時点間限界消費性向 (iMPCs)」の挙動。データや定量的HANKモデルとの整合性 (MPCの減衰)
第9回	流動性モデルにおける政策ー債務数量ルール	流動性がある経済における定常状態の資産需要。Catch-22の解決策としての「債務数量ルール (Debt Quantity Rule)」。
第10回	物理的資本と投資ー乗数の乗数効果	Hagedorn (2021) スタイルの不完全市場における物価決定論モデルへの資本蓄積の導入。「所得格差」と「資本金格差 (富の格差)」の相互作用。投資が加わることで生じる「乗数の乗数 (Multiplier of the Multiplier)」効果と、サミュエルソンの加速原理の再来
第11回	最適金融政策ー安定化と再分配	不完全市場における厚生基準 (Welfare criterion)。消費格差の縮小という新たな政策目標。どのような条件下で「神の偶合 (Divine Coincidence)」が成立、あるいは破綻するか
第12回	流動性供給と財政・金融のポリシーミックス	流動性保険動機に基づく最適インフレ率 (フリードマン・ルールの修正)。財政政策 (移転支出・政府支出) と金融政策の相互作用と代替性。分離原理 (Separation Principle)
第13回	総括と今後の展望	RANK, TANK, THANKの比較総括。解析的モデルから得られる教訓と、定量的HANKモデルへの接続。未解決の問題と今後の研究方向性
第14回	授業内期末試験	授業内中間試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Bilbiie, F. O. Heterogeneous Agent Macroeconomics: A Tractable New Keynesian Framework (Forthcoming, MIT Press).

【参考書】
授業内で指示します

【成績評価の方法と基準】

1. 評価方法 (Grading Method)

成績は以下の配分に基づき、総合的に評価します。

* 期末試験 (40%) :

講義全体の内容を対象とし、特にTHANKモデルを用いた政策分析や、経済学的含意の理解度を問う記述式試験を行います。

* 中間試験 (30%) :

セメスター前半で扱う、モデルの基礎的な導出や、RANK (代表的個人) モデルとHANK (異質的家計) モデルの構造的な違いに関する理解を確認します。

* 平常点 (30%) :

課外課題 (Problem Sets)、授業内での発表 (プレゼンテーション)、およびリアクションペーパーの提出状況や記述内容を評価します。

2. 評価基準 (Evaluation Criteria)

到達目標の達成度に基づき、以下の点を重視して評価します。

* 理論の理解 :

ニューケインジアン・フレームワークにおける家計の異質性の重要性と、それがマクロ経済動学に与える影響を正確に説明できるか。

* 数理的分析能力 :

「Tractable HANK (THANK)」モデルの均衡条件を正しく導出し、解析的な解法を用いてモデルを操作できるか。

* 論理的思考と応用 :

格差、リスク、流動性が金融・財政政策の伝播メカニズムに及ぼす効果について、モデルに基づいて論理的に議論できるか。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開講によりフィードバックできません

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

Course Outline

This course explores state-of-the-art macroeconomic models that introduce heterogeneity into the New Keynesian framework. While quantitative HANK (Heterogeneous Agent New Keynesian) models are computationally intensive, this course focuses on mastering their essence through the analytically solvable "Tractable HANK (THANK)" model. Students will gain a rigorous understanding of how inequality, idiosyncratic risk, and liquidity constraints shape the transmission mechanisms of monetary and fiscal policy.

Learning Objectives

Upon successful completion of this course, students will be able to:

* Understand the theoretical limitations of Representative Agent New Keynesian (RANK) models and the necessity of introducing **heterogeneity**.

* Derive and solve the **THANK** model analytically to capture the key dynamics of heterogeneous agent models without relying on heavy numerical simulations.

* Analyze how **inequality** and **risk** amplify or dampen the effects of economic policies.

* Evaluate the role of **liquidity** and hand-to-mouth consumers in the transmission of aggregate shocks.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to dedicate sufficient time to the following activities:

* **Reviewing** mathematical derivations presented in lectures to ensure a deep understanding of the model's structure.

* **Solving** problem sets focused on the equilibrium conditions and comparative statics of the THANK model.

* **Reading** assigned academic papers to contextualize the THANK framework within the broader literature on HANK models.

Grading Criteria / Policy

* **Problem Sets**: 30% (Assessing technical mastery of model derivations)

* **Midterm Exam**: 30% (Focusing on the basic structure of TANK/THANK models)

* **Final Exam**: 40% (Comprehensive evaluation including policy analysis)

ECN573C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

応用計量経済学B

明城 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では経済学分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。特に企業の生産性の推定方法(生産関数)、消費者行動(需要関数)の分析手法を解説するとともに、政策評価に必要な技術を得得することを目標とする。

【到達目標】

消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定）、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル）、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析手法について解説する。また統計パッケージRを用いた演習を行って理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業についての説明
第2回	企業の生産性の推定	・生産関数の推定
	(1)	・内生性の問題
第3回	企業の生産性の推定	・パネルデータの利用
	(2)	・誤差項の系列相関
第4回	企業の生産性の推定	・投資ショックによる内生性の識別
	(3)	
第5回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定
		・学習効果と規模の経済の識別
第6回	演習(1)	情報処理室にて演習
第7回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題
		・小麦輸送市場の分析
第8回	差別化された財市場	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
	(1)	
第9回	差別化された財市場	・離散選択モデル(1)
	(2)	
第10回	差別化された財市場	・離散選択モデル(2)
	(3)	
第11回	演習(2)	情報処理室にて演習
第12回	動学モデル(1)	・動学モデルについて
		・状態遷移とマルコフ完全均衡
		・価値関数とベルマン方程式
第13回	動学モデル(2)	・Nested Fixed PointアプローチとTwo Step法
		・離散選択モデルによる動学推定
第14回	動学モデル(3)	・シミュレーションによる価値関数の推定
		・米国生コンクリート市場の分析
		・米国自動車市場の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

【産業組織論】

(1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.

(2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.

(3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.

(4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.

【ミクロ経済学】

(1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992

(2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008年

【計量経済学】

(1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.

(2) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年
・ K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 100% (term report, 100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural estimation approaches used in recent empirical industrial economics are covered. Students also learn these estimation techniques and programming algorithms applied to the firm-level and product-level data analysis using R.

Preparation and review: 2hours including homework assignments

Grading: term report 100%

OTR501C1-1 (その他 / Others 500)

日本語 I A

清水 由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、①フォーマルな場でテーマに沿って意見交換をする。②専門分野の論文を書くために最低限必要な日本語の基礎を固め、まとまった内容の文章を書くことに慣れる。

【到達目標】

- (1) 初級レベルの日本語のミスをなくす。
- (2) 中・上級レベルの文型と語彙を使いこなせるようになる。
- (3) 賛否の分かれるテーマについて、授業での話し合いにふさわしい日本語で意見交換ができるようになる。また、司会者として、そのような話し合いを運営できるようになる。
- (4) 事実・他者の意見・自分の意見をきちんと分けて、説得力のある意見文を書けるようになる。
- (5) 自分の書いた文章の間違いに気づく力を身につけ、よりよい表現を使いこなせるようになる。
- (6) 日本の新聞の投書欄に、意見文を投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇資料の配信と課題の指示・提出には、「学習支援システム」を利用する。

◇ディスカッションの準備のための情報交換は、学習支援システムの授業内掲示板を利用し、同時双方向で行う。

◇ディスカッションは、対面で行う。

※各回の授業の内容と形態は、授業前日までに学習支援システムで告知する。

【授業の進め方】

1. ディスカッション（＝意見交換）

①賛否の分かれそうなテーマについて、必要な情報を集める。＝予習 # 1

※テーマは、学期の初めに学生からの提案と投票によって決める。学期中に3つ扱う予定。

②クラスでテーマに関するキーワードや概念について、情報を交換し、お互いに理解を確認する。 ※学習支援システムの授業内掲示板を利用し、文字に残す。

③内容を理解したうえで、自分の意見をまとめる。司会を担当する学生は、ディスカッションの流れを想定し、進行の計画を立てる。＝予習 # 2

④司会の進行指示に従って、ディスカッションする。

⑤ディスカッションの中で見られた口頭表現の問題点や、司会進行について、意見や感想を交換する。＝振り返り

2. 意見文執筆

⑥ディスカッションの内容に基づいて、自分の意見を500字程度の文章にまとめる。＝宿題 # 1

⑦お互いの意見文を読み合い、質問や助言をし、評価もする。

⑧自分の書いた原稿と、講師による修正案を読みくらべ、日本語の問題点を見つける。＝宿題 # 2

3. 意見文投稿

⑨学期末に自分の書いた意見文から最もよいと思うもの1点を選び、実際に日本の新聞の投書欄に投稿する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語力の確認（＝個人プロフィールの作成） ・ディスカッションのテーマを考える
第2回	テーマ選定 司会担当順決定	テーマ候補の意味・意図の確認 テーマ選定（投票） 司会者の役割を確認
第3回	テーマ①-1	・テーマ①について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第4回	テーマ①-2	・ディスカッションを行う ・ディスカッションを終えて変わったこと、変わらなかったことをまとめる＝宿題
第5回	テーマ①-3	・ディスカッションの日本語について振り返る。 ・意見文サンプルを読み、構成を知る ・テーマ①について意見文を書く＝宿題
第6回	テーマ①-4	・意見文の日本語を振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第7回	テーマ②-1	・テーマ②について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第8回	テーマ②-2	・ディスカッションを行う。 ・ディスカッションを終えて変わったこと、変わらなかったことをまとめる＝宿題
第9回	テーマ②-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文を書く＝宿題
第10回	テーマ②-4	・意見文の日本語を振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第11回	テーマ③-1	・テーマ③について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第12回	テーマ③-2	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第13回	テーマ③-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第14回	・「ベスト意見文」を選んで投書する ・期末試験 ・授業の振り返り	・これまでに書いた意見文から自薦・他薦でいちばんよいものを選び、さらに推敲を重ねて完成させ、新聞に投書する。 ・試験は、学期中に学んだことが理解できているかどうかを確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【ディスカッションの前】

①テーマに関連する情報を集め、ほかの人に説明できるように準備する。

②情報交換後に、意見をまとめ、発表できるように準備する。

③司会を担当する回は、具体的な流れを設計し、必要な準備をする。

【ディスカッションの後】

④話し合いの前後で、自分の意見がどう変わったか（変わらなかったか）を言語化する。

⑤意見文を書く。

⑥クラスメートの意見や講師からのフィードバックを受けて、意見文を完成させる。

※必要な学習時間：各回およそ1時間。ただし、③と⑤については2～4時間。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わない。必要に応じて資料を配布（配信）する。

【参考書】

『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）

※これは秋学期の日本語ⅡBでテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業への参加貢献（ディスカッションなどでの発言・司会）＝30%
- ・課題文（4回）＝40%
- ・最終課題（新聞への投書）＝10%
- ・期末試験＝20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの前に行う情報交換は、「文字に残す」ことが有意義だと確認できたので、コロナ下での実践に引き続き、学習支援システムの授業内掲示板で行うことにします。※この活動はオンラインで行うことも可能ですが、前後に表現の確認などもできるよう、原則として対面で実施します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布、課題提出、情報交換などに、学習支援システムを利用する。
- ・ディスカッション前の情報交換では、同時双方向で学習支援システムの掲示板を利用するため、パソコンでの参加が望ましい。

【その他の重要事項】

- ・日本語ⅡA（口頭発表のための基礎演習）も受講すること。また、秋学期には日本語ⅠB（口頭発表の実地演習）とⅡB（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
- ・2026年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本語、日本語教育

＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい日本語の文法

＜主要研究業績＞

- ・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
- ・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
- ・『日本語いき』（2018年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】

Course outline

Basic Japanese for academic speaking and writing

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. to express their opinion in discussions
- B. to host a discussion
- C. to write their opinion in an appropriate style of written Japanese

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have prepared for the coming discussion, and after the discussions, to summarize and write their opinion. Required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria

Grading will be decided based on each reports (40%), in-class contribution(40%), and the term-end report(20%)

OTR501C1 - 2 (その他 / Others 500)

日本語 I B

清水 由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするために、視覚資料を作成し、それを使って口頭発表をする。
※春学期の日本語ⅡAでは、口頭発表の「部分練習」を行った。このⅡBでは、まとまりのある一つの発表全体の訓練を行う。

【到達目標】

- (1) 自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするための視覚資料（おもにスライド）を作成できるようにする。
- (2) わかりやすく説得力のある発表をするための日本語表現と話し方を身につける。
- (3) 作成した視覚資料を用いて5～10分程度の口頭発表をし、それに対する質疑に応じられるようになる。
- (4) ほかの受講生の発表を聞き、内容について質問や意見交換ができるようになる。
- (5) 発表会の司会やタイムキーパーができるようになる。
- (6) 自分の書いた文章および自分の口頭発表の形式や内容について、問題点に気づき、修正できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

- ◇資料の配信と課題の指示・提出には、「学習支援システム」を使用する。
- ◇ブレーストリーミングと、課題に対するフィードバックは、原則として対面で行う。
- ◇口頭発表は、対面で行う。
- ※受講生の人数によって、各回の発表の長さや、授業のスケジュールには変更の可能性があります。いずれの場合も、学習支援システムの授業ページで授業前日までにお知らせします。

【授業の進め方】

- (1) 視覚資料（スライド）の作成と発表の準備
 - ①大枠のテーマについてクラスでブレーストリーミングを行い、トピックを見つけ、アウトラインを考えてスライドを作成する。
 - ②クラスメートと講師の助言を参考に、スライドを完成させ、発表ノートを準備する。
 - ③クラスメートと講師の助言を参考に、発表ノートを完成させ、発表の練習をする。
 - (2) 口頭発表
 - ④作成したスライドと発表ノートを使って、5～10分程度の口頭発表を行う。
 - ⑤ほかの受講生の発表を聞き、内容についての質疑と、形式についてのコメントをする。発表者は、質疑に応じる。
 - (3) 最終課題
 - ⑥「日本の〇〇に対する違和感」について自分でテーマを決め、アウトラインを作成する。
 - ⑦講師の助言を参考に、スライドと発表ノートを作成し、発表の練習をする。
 - ⑧発表をして／発表を聞いて、質疑応答をする。
- ※最終課題のテーマは、日本語ⅡB（レポート作成）の最終課題と同じものが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・近況報告	・授業の目的と進め方の説明 ・近況報告（いつどこで何がどうしたか、なぜそうなったかを、わかりやすく、かつ聞き手の興味を引き付けるように話す）
第2回	課題#1：対比・列挙 ☆対照的な事象をわかりやすく述べる	「法政大学と〇〇大学」ブレーストリーミング→スライドとノート作成
第3回	・言いたいことに合わせて、情報提示の効果的な順番を考える ・対比を明確に伝える話し方を意識する ・箇条書きのスライドを見せながら話す	スライドの修正・仕上げと発表の練習
第4回	発表会#1「法政大学と〇〇大学」	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第5回	課題#2：変化・原因 ☆社会的（あるいは個人的）に画期となったできごとについて、前後の変化とその原因を紹介する	「〇〇の前と後」ブレーストリーミング→スライドとノート作成
第6回	フィードバック	スライドの修正・仕上げと発表の練習
第7回	発表会#2「〇〇の前と後」	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第8回	課題#3：事実・引用・意見 ☆事実と伝聞と自分の意見をきちんと分ける ☆引用のマナーを守って話す ☆他者の意見を簡潔にまとめて紹介する ☆他者の意見に対する賛否を述べる	「日本の〇〇に言いたいこと」ブレーストリーミング→アウトラインとスライドの準備、ノートの作成
第9回	フィードバック	スライドの修正・仕上げと発表の練習
第10回	発表会#3「日本の〇〇に言いたいこと」	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。
第11回	課題#4：最終発表 「日本の〇〇に対する違和感」	テーマに沿って話題候補を挙げる→クラスでプレスト→アウトラインを作成
第12回	アウトラインに対するフィードバック	スライドとノートのドラフト作成
第13回	ドラフトに対するフィードバック	スライドとノートの修正・完成、発表の練習
第14回	発表会4「日本の〇〇に対する違和感」 ・授業評価アンケート	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題について、どうすればわかりやすく伝えることができるかを考えてスライドと発表ノートを作成し、実際に時計と鏡を見ながら（あるいは自撮りをしながら）、声に出して話す練習をすること。各回2～4時間程度必要。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要な資料や課題の説明は、オンラインで配信する。

【参考書】

『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』（アカデミック・ジャパンニーズ研究会編著、アルク）

※日本語ⅡB（レポート作成）で教科書として使用する本である。書くためのテキストではあるが、数字の述べ方などの基本は発表にも役立つので、入手して参照すること。

【成績評価の方法と基準】

- ・各回の課題（提出と内容）＝50％
- ・授業への参加貢献（発表会での発言など）＝20％
- ・最終発表（資料と口頭発表）＝30％

【学生の意見等からの気づき】

- ・各回の発表テーマを決める過程にブレインストーミングを取り入れてみました。春学期の日本語ⅠAで学んだことを生かして、発表の日本語とはまた別の「意見表明」の表現を、実践的に練習することができました。
- ・司会を担当したことで学ぶところが大きかったという声が多かったので、引き続き今年度も発表会の司会進行は学生にやってもらいます。
- ・最終課題の大枠のテーマを日本語ⅡB(レポート作成)の最終課題と同じ「日本の〇〇に対する違和感」とします。これによって、準備の負担を軽減するとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化することができると思います。
- ・修士2年目の研究発表とは違い、「そのテーマについて初めて聞く人にもわかりやすい発表」を目指し、見せる情報と聞かせる情報の切り分けを意識した練習をします。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業内容の伝達や課題の指示は、学習支援システムで行う。タブレットかPCの利用が望ましい。

【その他の重要事項】

- ・春学期の日本語ⅡA（＝口頭発表と視覚資料作成の基礎演習）を、必ず受講しておくこと。日本語ⅠBは、基礎の習得はできているという前提で進める。
- ・話しことばと書きことばの違いを明確に意識するためにも、日本語ⅡB（＝レポート作成）を同時に受講することが望ましい。
- ・2026年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本語、日本語教育

＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法

＜主要研究業績＞

- ・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
- ・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】

Course outline

Advanced Japanese for academic presentation

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.to make slides for a clear and compelling presentation
- B.to make a clear and compelling presentation
- C.to ask/answer the questions about the presentation

Learning activities outside of classroom

Before each presentation session, students will be expected to spend two to four hours to prepare slides, presentation notes and practice making presentation.

Grading Criteria

Grading will be decided based on assignment(slides, notes, performances) (50%), in-class contribution(20%) and the final presentation(slides, notes, performance)(30%)

OTR501C1-1 (その他 / Others 500)

日本語ⅡA

清水 由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、①口頭発表のための視覚資料（スライド）を作成し、②それを使って口頭発表をするための基礎的な訓練を行う。
※この日本語ⅡAでは、口頭発表に必要なさまざまな要素を個別に取り上げて、部分的な練習を行う。ひとまとまりの発表全体の練習は、秋学期の日本語ⅠBで行う。

【到達目標】

- (1) 書き言葉と話し言葉の違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。
- (2) 視覚資料（スライド）の作成に必要な日本語表現と、効果的な提示のし方を身につける。
- (3) 口頭発表に必要な日本語表現と、適切な話し方を身につける。
- (4) 作成した視覚資料を使って、5分程度の口頭発表ができるようになる。
- (5) 発表の内容について、質疑応答ができるようになる。
- (6) 口頭発表会の司会ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇資料の配信、課題の提出とフィードバックには、「学習支援システム」を利用する。

◇口頭発表の回は、原則として対面で行う。

※受講生の人数によって、スケジュールは変更の可能性があります。実際の各回の実施形態は、学習支援システムの授業ページで授業前日までにお知らせします。

【授業の進め方】

- ①口頭発表の「部分練習」として、注意すべき点ごとにスライド作成と発表ノートの作成を課す。
- ②クラスメートの意見や講師からのフィードバックを受けて、各回の課題のスライドと発表ノートを修正し、完成させ、口頭発表の練習をする。
- ③クラスで発表をし／発表を聞き、質疑応答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介、相互インタビュー ・日本語能力の確認と個人プロフィールの作成（日本語ⅠAと共通）
第2回	課題① ・情報の取捨と提示の順番 ・視線、声と顔の表情を意識する ・司会の練習	・見やすいスライドを作る。 ・スライドを見て話す練習。
第3回	課題①発表会 ☆設定＝地域住民との交流会で自己紹介	発表の振り返り

第4回	課題②画像を説明する ・魅力あるタイトルを考える ・効果的な構成を考える	「よくわからない画像」を1枚選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）
第5回	課題②フィードバック	スライド・ノートの修正と仕上げ 発表の練習
第6回	課題②発表会「これは何？」	・「よくわからない画像」を見せて説明する。 ・発表について質疑応答をする。
第7回	課題③ ・対比を明確に伝える ・複数の項目を列挙する	「コロナ禍の前と後」スライドとノートの作成
第8回	課題③フィードバック	スライドと発表ノートの修正・仕上げ 発表の練習
第9回	課題③発表会「コロナ禍の前と後」	「コロナ禍をめぐるあれこれ」について、発表をする。 ・発表について質疑応答をする。
第10回	課題④数値の意味を伝える ・数値の意味、図表の説明 ・引用のマナー	・興味を引くデータ（グラフや表）を1点選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）
第11回	課題④フィードバック	メモを用意し、メモを見ながら話す ・スライドとノートの修正・仕上げと練習
第12回	課題④発表会「気になるデータ」	発表と質疑応答
第13回	私のベスト発表	4回の発表から1つ選び、オンラインで発表する
第14回	授業のまとめと期末試験	・学期中に学んだことが理解できているかどうかを確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1～2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、下の参考書を準備しておくことを強く勧める。

【参考書】

『大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編』（アカデミック・ジャパンニーズ研究会編著、アルク）
※これは、秋学期の日本語ⅡB（レポート）でテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】

- ・各回の課題（ドラフト） 30%
- ・各回の課題（完成版）と発表 40%
- ・期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

- ・2025年度は対面での授業を希望する学生が多かったため、原則として対面で実施しました。しかしオンラインでのプレゼンテーションの機会はますます増えています。対面授業を原則としつつ、各回の授業形態については、学生と協議しながらよりよい形を選択していきます。
- ・修士2年目の研究発表などとは違い、「初めてそのテーマについて聞く人にもわかりやすいスライドの作成と発表」を意識して、基礎的な練習をします。

【学生が準備すべき機器他】

- ・資料配布・課題提出・意見交換などに学習支援システムを利用する。
- ・口頭発表は原則として対面で行うが、少なくとも最終の1回はZoomミーティングを利用するので、その際はPCの用意が望ましい。

【その他の重要事項】

- ・日本語ⅠA（ディスカッションとアカデミック・ライティングの基礎）も受講すること。また、秋学期には日本語ⅠB（口頭発表の実践演習）とⅡB（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。

・2026年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語義III A・III Bを受講すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本語、日本語教育

＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法

＜主要研究業績＞

- ・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
- ・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】

Course outline

Basic Japanese for academic presentation

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.to make slides for a simple and clear explanation about a topic
- B.to make a simple and clear explanation about a topic
- C.to ask/answer the questions about the presentation

Learning activities outside of classroom

Before each presentation session, students will be expected to spend one to two hours to prepare a slide, presentation notes and practice making presentation.

Grading Criteria

Grading will be decided based on each assignments and performance(50%), in-class contribution(20%), and the term-end examination(30%)

OTR501C1 - 2 (その他 / Others 500)

日本語 II B

清水 由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語を母語としない留学生が、日本語で専門分野のレポート・論文を書くために必要な文章の構成を学び、実際にレポートを書き上げる。

【到達目標】

- (1) わかりやすく説得力のあるレポート・論文を書くための、日本語の表現や文章構成を身につける。
- (2) 必要な先行研究や資料・データを探し、それらを十分な速さで目的に沿って読み、理解できるようになる。
- (3) 自分の研究テーマや関心のある問題について、明解で説得力のあるレポート（図表や資料を別にして3,000字程度）を書く。
- (4) ほかの人が書いた文章を、一定の速さで、かつ、批判的に読むことができるようになる。
- (5) 自分の書いた日本語の問題点に気づき、それを修正することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

【授業の形態】

◇資料の配信、予習確認クイズの実施、課題の指示と提出には、「学習支援システム」を利用する。

◇各課の質疑応答と課題のフィードバックは、原則として対面授業で行うが、学生との協議のうえ、オンラインで実施することもある。

【授業の進め方】

典型的な論文構成の流れに沿って、序論から結論および参考文献リストにいたるまでの、各部でよく使われる日本語の文型・表現と展開パターンを学ぶ。各回の授業の流れは、原則として以下のとおり。最後に3,000字程度のレポートを書いて提出する。

- (1) テキストの指定範囲と補足資料の読解、解説動画の視聴
 - (2) 予習確認クイズとフィードバック
 - (3) 課題文の作成・提出
 - (4) 提出した課題文のフィードバック：講師による指摘を手がかりにして、自分が書いた文章の問題点を見つける訓練
- ※各回の課題文の目的は「形式の習得」であり、その内容は自由である。各自、最終レポートのテーマを早めに決め、そのテーマに沿った内容で少しずつ課題文を書いていくことを勧める。最後に全体をまとめて1本の論文とすればよいからである。
- ※なお最終レポートのテーマは、日本語 I B（口頭発表）の最終発表のテーマ「日本の〇〇に対する違和感」と同じものにすることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・最終レポートのテーマを考える	・最終レポートのテーマを考え る【＝宿題】 ・「2050年の私」【＝宿題】
第2回	・テキスト1、2課 ：作文の基本 ・話し言葉と書き言葉の違い ・アウトラインの検討	・「2050年の〇〇氏」【＝宿題】

第3回	・テキスト11課：引用 ※論文執筆のマナーとして、「引用」はとても重要なため、ほかの課に先立って11課を学習する。	・引用のマナーを学ぶ ・文献リスト作成＝宿題 ・引用文を書く＝宿題
第4回	・テキスト3課：課題の提示 ・前回宿題のフィードバック	・課題の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第5回	・テキスト4課：目的の提示 ・前回宿題のフィードバック	・目的の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第6回	・テキスト5課：定義と分類 ・前回宿題のフィードバック	・定義と分類の文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第7回	・テキスト6課：図表の提示 ・前回宿題のフィードバック	・必要な図表を探し（作成し）、提示する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第8回	・テキスト7課：変化の形容 ・前回課題のフィードバック	・データを説明する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第9回	・テキスト8課：対比と比較 ・前回課題のフィードバック	・対比／比較を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第10回	・テキスト9課：原因の考察 ・前回課題のフィードバック	・原因を考察する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第11回	・テキスト10課：列挙 ・前回課題のフィードバック	・序論～本論の中で列挙を含む文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第12回	・テキスト12課：同意と反論 ・前回課題のフィードバック	・先行研究を要約して引用し、それに対する意見を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第13回	・テキスト13-14課：帰結、結論の提示 ・前回課題のフィードバック	・帰結あるいは結論を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第14回	・レポート提出前最終相談会 ・レポート提出 ・授業評価アンケート	・おおよその完成稿を持ち寄り、お互いに読み合い、助言し合う。 ・レポートの完成と提出 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1～2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アカデミック・ジャパンリサーチ研究会編著、アルク）

※各回の予習確認クイズは、このテキストの内容から出題する。必ず手もとに用意し、事前に指定された箇所を期日までに読んでおくこと。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

- ・予習確認クイズ＝20%
- ・授業への参加貢献＝10%
- ・各回の課題文＝50%
- ・最終レポート＝20%

※予習確認クイズは、満点が取れるまで何回受け直してもよい。

【学生の意見等からの気づき】

- ・2025年度は受講生が少なかったため、課題レポートのフィードバックは、ゼミ形式で行いました。自分の書いた文章を客観的に読み、他者の書いた文章を批判的に読む訓練になったと思います。
- ・最終課題の大枠のテーマは日本語ⅠB(口頭発表)の最終課題と同じ「日本の〇〇に対する違和感」とします。これによって、準備の負担を軽減できるとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化することができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できるデバイス（できればタブレットやPC）
※課題の指示・提出のほか、クラスにおいて課題文のフィードバックをする際にも、学習支援システムを利用するため。

【その他の重要事項】

- ・春学期の日本語ⅠA・ⅡA修了と同程度の日本語力を有する学生を対象とする。
- ・日本語ⅠB(口頭発表と視覚資料作成)の同時受講が望ましい。書きことばと話しことばの違いを意識化するためである。(最終課題のテーマは、1BとⅡBで共通である。)
- ・2026年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本語、日本語教育

＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法

＜主要研究業績＞

- ・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
- ・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
- ・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
- ・『辞書のすきま すきまの言葉—あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】

Course outline

Advanced Japanese for academic writing

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. to acquire the necessary knowledge about Japanese expressions and sentence structure for writing clear and persuasive reports
- B. to write a clear and compelling report

Learning activities outside of classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. They have to take a quiz to check their understanding. Required study time is at least one hour for each class meeting.

After each class meeting, students will be assigned to write a short essay, which will take one to two hours.

Grading Criteria

Grading will be decided based on quiz(20%), each assignment (50%), in-class contribution(10%), and the term-end paper(20%)

OTR502C1-1 (その他 / Others 500)

日本語III A

大場 理恵子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文作成に活かす（対象：留学生）。

【到達目標】

- (1) 論文で使用されている文型・表現・語彙を理解し、自分の修士論文執筆に活用できるようになる。
- (2) 自分の修士論文の概要を他者が理解できるように、適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoomによるオンライン授業を行います。

- ①講義と演習によって他者の論文で使用されている日本語の文型・表現・語彙などを分析し、発表する。
- ②各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
- ③学科での修論発表ワークショップに備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論の構想を書く
第2回	論文の構成・引用の仕方	①専門論文の構成を分析・理解する ②専門分野の引用の仕方を理解する
第3回	論文表現の分析＜序論－研究対象と背景＞	①序論の研究対象と背景の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第4回	論文表現の分析＜序論－先行研究の提示＞	①前回の分析を発表する ②序論の先行研究の提示部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第5回	論文表現の分析＜序論－研究目的と研究行動の概略＞	①前回の分析を発表する ②序論の研究目的と研究行動の概略部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第6回	論文表現の分析＜本論－研究方法＞	①本論の研究手法部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第7回	論文表現の分析＜本論－考察＞	①前回の分析を発表する ②本論の考察部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第8回	ワークショップ用発表練習1	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する

第9回	ワークショップ用発表練習2	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第10回	ワークショップ用発表練習3	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第11回	ワークショップ用発表練習4	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第12回	論文表現の分析＜結論＞	①結論部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第13回	論文表現の分析＜結論＞	①前回の分析を発表する ②文献リストの書き方を理解する
第14回	まとめ	前期の学習をふりかえり、夏休みの目標を決める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
- ②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】

- ①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009年、2750円
- ②適宜プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（10％）授業内課題（40％）宿題を含む平常点（50％）

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんから「よい訓練になった」との声があった準備なしとするスピーチなどを引き続き実施します。また、修論作成につながる内容以外にも、日本語運用に関する授業（ビジネス場面におけるコミュニケーション等）を学生のニーズに応じて行います。また、修士2年生同士のコミュニケーションの機会になるような場を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のために学習支援システムを利用します。また、Zoom授業受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）とWi-Fi環境を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1年生は受講できません）
- ・秋学期の日本語III Bを受講することによって各自の修論完成に繋がるため、連続して受講すること。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞日本語教育・日本語表現教育
＜研究テーマ＞日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
＜主要研究業績＞
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房、2005
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房、2012

【Outline (in English)】

【Course outline】You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.

【Learning Objectives】To acquire the Japanese language skills necessary for writing a master's thesis

【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】Quizzes (10%) In-class assignments (40%) Class participation and homework (50%)

OTR502C1-2 (その他 / Others 500)

日本語III B

大場 理恵子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文を作成・修正する（対象：留学生）

【到達目標】

- (1) 論文で使用される文型・表現・語彙を適切に使用し、自分の修士論文を執筆する。
 (2) 自分の修士論文の概要を他者が理解できるように適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoomによるオンライン授業を行います。

- ①各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
 ③学科での修論発表ワークショップおよび修論審査に備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論執筆の進捗と今後の計画を確認する
第2回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第3回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第4回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第5回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第6回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第7回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第8回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する

第9回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第10回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第11回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第12回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第13回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第14回	まとめ	学習を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

- ①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
 ②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】

- ①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009年、2750円
 ②適宜プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題を含む平常点（50％）宿題（50％）

【学生の意見等からの気づき】

修論作成につながる内容以外にも、戦後日本の動向に基づく日本理解および日本語運用に関する授業内容を学生のニーズ（就職活動に備えたスピーチ等）に応じて行います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出のために学習支援システムを利用します。また、一部Zoom授業の可能性があるので、受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）とWi-Fi環境を準備してください。

【その他の重要事項】

- ・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1年生は受講できません）
 ・春学期の日本語III Aを受講しておくことが必要。未受講の場合は初回に相談すること
 ・やむなく欠席する場合には必ず事前に教員に連絡すること

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>日本語教育・日本語表現教育

<研究テーマ>日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育

<主要研究業績>

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房,2012

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現（第2版）』ひつじ書房,2014

「大学教育における日本語ライティング指導の実践の動向」『言語文化と日本語教育』(51),2016

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】 You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare for the class/do assignment.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

in class contribution and assignment: 50%, homework:50%

修士ワークショップA（春学期）

備考（履修条件等）：修士2年次のみ（1年制コースを除く）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

修士ワークショップB（秋学期）

備考（履修条件等）：修士2年次のみ（1年制コースを除く）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ A

阿部 俊弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆に必要な高度な専門知識、研究デザイン、分析手法を体系的に身につけることを目的とする。受講者は、関連文献の精読と報告、研究テーマの絞り込み、分析枠組みの構築を通じて、自身の修士論文の基礎を形成する。
ゼミ形式の議論、個別指導、ワークショップでの研究報告を通じて、研究計画の精緻化と論文草稿の改善を継続的に進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について原稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイ・研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面・ZOOM・メール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・研究 テーマの共有	ゼミの進め方、研究の方向性、 各自の関心領域を確認
第2回	基礎概念の整理	依存関係・分布特性・統計モデル など、研究に必要な基礎を再 確認。
第3回	先行研究のマッピング ①（理論的研究）	理論寄りの主要文献を整理し、 研究動向を把握。
第4回	先行研究のマッピング ②（応用的研究）	金融・マクロ・ミクロ・計量など 応用分野の文献レビューを共有。
第5回	先行研究の比較検討 ①	各自のテーマに近い文献を比較 し、研究ギャップを議論。
第6回	研究テーマの絞り込 みと問題意識の明確 化	研究目的・問いの精緻化。問題 意識の言語化。
第7回	分析方法の候補整理 ①（推定・識別）	推定方法、識別の考え方、モデ ル選択の基準を検討。
第8回	分析方法の候補整理 ②（依存構造・関係 性の評価）	使用データの候補、前処理、サン プル期間、変数選択などを議論。
第9回	データ選定・データ 構造の検討	研究仮説、モデル設定、分析の 流れを整理。
第10回	研究デザインの構築 ①（仮説・分析枠組 み）	修士ワークショップでの発表に むけた準備を行う。
第11回	研究デザインの構築 ②（実証戦略）	推定手順、比較対象モデル、ロ バストネスの考え方。
第12回	先行研究と自らの研 究の位置づけ整理	研究の独自性、貢献可能性を明 確化。
第13回	修士論文アウトライ ンの作成	章構成案（序論、先行研究、方 法、結果、結論）を作成。
第14回	前期まとめ・第1稿 に向けた課題整理	前期の進捗確認と、後期に向け た課題の明確化。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://sites.google.com/site/abetosh/>

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This seminar is designed to equip graduate students with advanced knowledge and practical skills necessary for writing a master's thesis. Through intensive reading, presentations, and discussions, students will develop a solid foundation for their thesis research, including theme selection, research design, and analytical frameworks.

(Learning Objectives)

To refine individual research themes through critical reading of applied literature and structured presentations.

To deepen understanding of analytical methods relevant to students' research fields.

To develop the ability to design and articulate a coherent research plan that can evolve into a master's thesis.

(Learning Activities Outside the Classroom)

Students will prepare concise summaries of their research questions, analytical approaches, and preliminary findings based on standard texts and foundational literature. They will also compile research notes that clarify their problem awareness, methodological choices, and expected contributions to their master's thesis.

(Grading Criteria / Policy)

Evaluation will be based on the quality of presentations, preparation, and (when required) a term paper. Assessment will consider:

Ability to conduct an appropriate literature survey

Understanding of previous research and its relevance

Competence in applying analytical methods in the chosen field

Clarity and appropriateness of the student's research question and methodological approach

ECN602C1-2 (経済学 / Economics 600)

経済学演習 II B

阿部 俊弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミでの報告・議論、個別指導、ワークショップでの発表を通じて、論文の完成度を高め、修士論文として提出可能な水準に仕上げることを目指す。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイ・研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面・ZOOM・メール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	前期の振り返りと後期の研究計画再設定	必要に応じてテーマ・方法を微調整。
第2回	データ分析の実施①（基礎分析）	記述統計、関係性の初期チェック。
第3回	データ分析の実施②（モデル推定）	選択したモデル・手法に基づく推定を開始。
第4回	データ分析の実施③（モデル比較）	複数モデルの適合度比較、指標の比較。
第5回	分析結果の解釈①（関係性の特徴）	推定結果の意味、先行研究との整合性を議論。
第6回	分析結果の解釈②	サブサンプル分析、別モデルとの比較。
第7回	研究の問題意識と結果の再整理	分析結果を踏まえて研究の問いを再確認。
第8回	先行研究との比較検討	自らの結果が先行研究とどう異なるか、貢献を明確化。
第9回	論文草稿の作成①	問題意識、研究目的、貢献の整理。
第10回	論文草稿の作成②	文献レビューの章を草稿化。
第11回	論文草稿の作成③	分析方法、モデル設定、推定手順を記述。
第12回	論文草稿の作成④	推定結果、図表、解釈を整理。
第13回	論文草稿の作成⑤	政策含意、限界、今後の課題をまとめる。
第14回	後期まとめ・最終報告会	論文草稿の発表とフィードバック。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<https://sites.google.com/site/abetosh/>

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This seminar focuses on advancing and completing the master's thesis. Building on the draft and research plan developed in the first semester, students will refine their analyses, revise their chapters, and integrate their findings into a coherent thesis. Through presentations, discussions, and individual supervision, students will work toward producing a thesis of publishable quality.

(Learning Objectives)

To revise and deepen the sections already drafted, incorporating feedback from the seminar and individual supervision.

To integrate empirical results, theoretical background, and literature review into a consistent and well-structured thesis.

To prepare and deliver comprehensive research presentations that reflect the overall structure and contributions of the thesis.

(Learning Activities Outside the Classroom)

Students will revise their thesis drafts, prepare summaries of their analytical methods and findings, and update their research notes. They will also refine their literature review and methodological sections to ensure coherence across the entire thesis.

(Grading Criteria / Policy)

Evaluation will be based on the quality of presentations, preparation, and (when required) a term paper. Assessment will consider:

Ability to conduct and update a relevant literature survey

Understanding of previous research and its implications

Competence in applying appropriate analytical methods

Clarity and appropriateness of the student's research question, methodology, and overall thesis structure

ECN602C1-1 (経済学 / Economics 600)

経済学演習Ⅱ A

池上 宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含著）についてレジюмеにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

開発ミクロ経済学

<研究テーマ>

- 家計の異時点間の意思決定と貧困動学

- 東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険

<主要研究業績>

- “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.

- “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, 101(3), pp. 672-691. 2019.

- “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2 (経済学 / Economics 600)

経済学演習 II B

池上 宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

開発ミクロ経済学

<研究テーマ>

- 家計の異時点間の意思決定と貧困動学

- 東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険

<主要研究業績>

- “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” *Journal of Risk and Insurance*, 88(2), pp. 293-324. 2021.

- “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, 101(3), pp. 672-691. 2019.

- “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ A

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含著）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2 (経済学 / Economics 600)

経済学演習 II B

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学

<主要研究業績>

①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

論文指導Ⅱ A

杉浦 未樹

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	これまでの研究をまとめ、修士論文提出まで何が必要かを議論
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文の研究報告
第10回	ワークショップないし発表のための準備①	修士論文にむけた研究報告を行う
第11回	ワークショップないし発表のための準備②	修士論文にむけた研究報告を行う
第12回	研究テーマ、分析方法の再検討①	指摘された論点をまとめる。改善点を検討する。
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討②	指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	今学期の成果をまとめ、次の研究予定をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

該当せず。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン通信ができ、修士論文のための分析執筆が可能な情報機器。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

論文指導Ⅱ B

杉浦 未樹

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告などを通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ A

J E S S D I A M O N D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、修士論文の執筆および研究発表に必要な技能と高度な知識を習得することです。個別指導を通じて、修士論文の執筆および改訂を進めます。

本授業では、学生は個別のフィードバックを踏まえ、授業外の時間を用いて自身の研究を修正することが求められます。成績評価は、研究内容および発表の質に基づいて行います。

【到達目標】

本授業の目的は、修士論文の進捗を促進し、その成果をワークショップで発表できるようにすることです。

The goal of this course is to advance the progress of the master's thesis and successfully present the results in a workshop seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、学生の研究内容について議論し、フィードバックを行うため、定期的な個別面談を行います。

Lessons will be structured as individual meetings with students on a regular basis to discuss their research and provide feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	データ収集および分析	データを準備し、分析を行う
第2回	データ収集および分析	データを準備し、分析を行う
第3回	データ収集および分析	データを準備し、分析を行う
第4回	初稿	論文の初稿を作成する
第5回	初稿	論文の初稿を作成する
第6回	初稿	論文の初稿を作成する
第7回	修士論文の研究報告	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップのレビュー	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	第2稿	論文の第2稿を作成する
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、研究内容および発表の質に基づいて行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the skills and advanced knowledge necessary for writing a master's thesis and preparing presentations of research. Through individual supervision, students will proceed with the writing and revision of the master's thesis.

The course will require students to revise their research based on individual feedback during their own time. Grades will be determined by the quality of research and presentations.

ECN602C1-2 (経済学 / Economics 600)

経済学演習Ⅱ B

JESS DIAMOND

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、修士論文の執筆および研究発表に必要な技能と高度な知識を習得することです。個別指導を通じて、修士論文の執筆および改訂を進めます。

本授業では、学生は個別のフィードバックを踏まえ、授業外の時間を用いて自身の研究を修正することが求められます。成績評価は、研究内容および発表の質に基づいて行います。

【到達目標】

本授業の目的は、修士論文の進捗を促進し、その成果をワークショップで発表できるようにすることです。

The goal of this course is to advance the progress of the master's thesis and successfully present the results in a workshop seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

授業は、学生の研究内容について議論し、フィードバックを行うため、定期的な個別面談を行います。

Lessons will be structured as individual meetings with students on a regular basis to discuss their research and provide feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	第2稿	論文の第2稿を作成する
第2回	第2稿	論文の第2稿を作成する
第3回	第2稿	論文の第2稿を作成する
第4回	第2稿	論文の第2稿を作成する
第5回	第3稿	論文の第3稿を作成する
第6回	第3稿	論文の第3稿を作成する
第7回	第3稿	論文の第3稿を作成する
第8回	第3稿	論文の第3稿を作成する
第9回	第3稿	論文の第3稿を作成する
第10回	ワークショップの準備	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップのレビュー	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、研究内容および発表の質に基づいて行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the skills and advanced knowledge necessary for writing a master's thesis and preparing presentations of research. Through individual supervision, students will proceed with the writing and revision of the master's thesis.

The course will require students to revise their research based on individual feedback during their own time. Grades will be determined by the quality of research and presentations.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ A

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする（事前準備2時間）。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆（事後の課題2時間）。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

研究内容や研究の成果について下記を基準に評価する。

1. 先行研究リストと修士論文テーマの整合性（25%）
2. 先行研究の理解（25%）
3. 専門領域における実証手法の理解（25%）
4. 修士論文における実証手法の整合性（25%）

【学生の意見等からの気づき】

在籍学生の研究テーマにより運用形態が変わるので、フィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】

参照： <http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey (25%), understanding of previous research (25%), ability to apply analytical methods in the relevant field (25%), and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods (25%).

ECN602C1-2 (経済学 / Economics 600)

経済学演習 II B

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ（事前準備2時間）、修士論文を執筆する（復習2時間）。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

研究内容や研究の成果について下記を基準に評価する。

1. 先行研究リストと修士論文テーマの整合性（25%）
2. 先行研究の理解（25%）
3. 専門領域における実証手法の理解（25%）
4. 修士論文における実証手法の整合性（25%）

【学生の意見等からの気づき】

在籍学生の研究テーマにより運用形態が変わるので、フィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】

参照：<http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey (25%), understanding of previous research (25%), ability to apply analytical methods in the relevant field (25%), and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods (25%).

ECN602C1-1 (経済学 / Economics 600)

経済学演習Ⅱ A

明城 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含著）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

(Performance and attitude in dissertation supervision, 100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2 (経済学 / Economics 600)

経済学演習 II B

明城 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

Performance and attitude in dissertation supervision, 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

修士論文

備考（履修条件等）：M.A. プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

リサーチ・ペーパー

備考（履修条件等）：M.A. プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

Q E（ミクロ経済学）

備考（履修条件等）：Ph.D. プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

Q E（マクロ経済学）

備考（履修条件等）：Ph.D. プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

QE（経済史）

備考（履修条件等）：Ph.D. プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

Q E（計量経済学）

備考（履修条件等）：Ph.D. プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

Q E（口述試験・研究論文他）

備考（履修条件等）：Ph.D. プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN521C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

応用ミクロ経済学D A

西村 健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではゲーム理論の修士・博士レベルのトピックについて学ぶ。具体的には、不完備情報の静学ゲームおよび不完備情報の動学ゲームが講義の対象となる。なお、本講義の内容はミクロ経済学Aにおけるゲーム理論の知識が前提となる。

【到達目標】

- ・ゲーム理論における重要な用語および概念を厳密に理解する。
- ・定理や命題の証明まで含め、ゲーム理論の数理的な分析手法を身に付ける。
- ・自らが関心のある社会経済の具体的な現象について、ゲーム理論のアプローチを用いて分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

最大7回までオンライン形式とするため、講義内での指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Game Theory
第2回	Static Games of Incomplete Information (1)	Theory: Static Bayesian Games and Bayesian Nash Equilibrium
第3回	Static Games of Incomplete Information (2)	Mixed Strategies Revisited
第4回	Static Games of Incomplete Information (3)	An Auction
第5回	Static Games of Incomplete Information (4)	A Double Auction
第6回	Static Games of Incomplete Information (5)	The Revelation Principle
第7回	復習	中間試験、まとめと解説
第8回	Dynamic Games of Incomplete Information (1)	Introduction to Perfect Bayesian Equilibrium (1)
第9回	Dynamic Games of Incomplete Information (2)	Introduction to Perfect Bayesian Equilibrium (2)
第10回	Dynamic Games of Incomplete Information (3)	Signaling Games (1)
第11回	Dynamic Games of Incomplete Information (4)	Signaling Games (2)
第12回	Dynamic Games of Incomplete Information (5)	Cheap-Talk Games
第13回	Dynamic Games of Incomplete Information (6)	Sequential Bargaining under Asymmetric Information

第14回 総括

期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義前にテキストの該当部分を読んでおくことが求められる。

【テキスト（教科書）】

Robert Gibbons, “Game Theory for Applied Economists,” Princeton University Press, 1992

【参考書】

講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験50%、中間試験40%、平常点10%とする。なお、平常点については講義内での発言、質問などを加味する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の量やスピードについて気を付けたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いるため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】

- ・大学院修士レベルのゲーム理論の知識が必須となる。そのため、大学院科目の「ミクロ経済学A」を先に受講することが望ましい。
- ・数学（微分、積分、確率など）を多用するので注意すること。

【担当教員の専門分野等】

個人サイトを参照：

<https://sites.google.com/site/takeshinishimura1/>

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, students will study game theory, a theoretical framework for analyzing strategic situations. The course covers the fundamental concepts and analytical methods of game theory in a mathematical context while also addressing applied problems.

Learning objectives:

The goals of this course are to develop a mathematical understanding of key terms and concepts in game theory and be able to explain them in your own words. Students are also expected to acquire the ability to mathematically analyze various problems in strategic situations using standard methods of game theory.

Learning activities outside of classroom:

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Grading criteria/policy:

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end exam (50%), mid-term exam (40%), and in-class contribution (10%).

ECN521C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

応用ミクロ経済学DB

小林 克也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ミクロ経済学の応用の立場で、民間と政府との関係に焦点を当てながら、いくつかの基本的なモデルについて説明をします。みなさんが応用理論の論文を自分で読めるようになるために必要な考え方を学びます。この次の時限のミクロ経済学の講義内容を補完する内容を扱います。

【到達目標】

博士課程のみなさんは、分析をして結果を得て、論文にまとめるということが課程での目標です。このために、授業で説明したモデルに関連する論文を自分で探してそれを読み、そこで扱われているモデルを理解し、それらを自分の分析の中で応用することが求められます。博士課程のみなさんはこうしたスキルを身につけることがこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

この授業はすべて対面です。講義形式で進めます。講義の区切りごとに、宿題を出します。みなさんが提出した宿題に私が採点とコメントを書いてお返しします。みなさんの質問は授業中かその前後に私がお答えします。みなさんの様子を見ながら隣接して開講されるミクロ経済学Bの内容を補うように進めたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然独占産業と公的規制(1)	自然独占
第2回	自然独占産業と公的規制(2)	ピーロード料金
第3回	自然独占産業と公的規制(3)	ラムゼイ料金
第4回	公共選択(1)	意思決定のルール
第5回	公共選択(2)	直接民主制、中位投票者の定理、投票のパラドックス
第6回	公共選択(3)	間接民主制、投票の棄権
第7回	公共選択(4)	レントシーキング
第8回	公共選択(5)	コンテストモデル
第9回	公共選択(6)	CES生産関数について
第10回	公共選択(7)	CES生産関数を用いたグループコンテストモデル
第11回	公共選択(8)	ゲリマンダリング
第12回	課税	ラムゼイルールを考え方
第13回	地方分権	住民移動と地方公共財
第14回	まとめと試験	まとめをした上で試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

微分の計算をして最適化をするので、基本的な計算をあらかじめ理解をしておいて下さい。ミクロ経済学AとBで扱う計算や経済学の基本的概念を用いるので、これらの講義を履修したことがない方は履修することを推奨します。これらの授業で扱うゲーム理論や価格理論の基本的な概念を用います。これらの復習やこの授業の復習、宿題の解答に各回とも4時間程度の学習が標準です。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いませんが、以下の参考書の該当する部分を参照しながら講義します。

【参考書】

井堀利宏 (1996) 『公共経済の理論』 有斐閣

小西秀樹 (2009) 『公共選択の経済分析』 東京大学出版会

Konrad, K. (2009), Strategy And Dynamics In Contests, Oxford University Press.

を部分的に参照します。その他、論文は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

宿題として出す練習問題を50%、最後に実施する期末試験を50%として成績を付けます。

【学生の意見等からの気づき】

履修するみなさんと話をしながら、上記の内容を取捨選択して丁寧に授業を進めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面で私が板書をしていきますので、特に機器は必要ありません。

【その他の重要事項】

連絡事項は、なるべく授業内でお話しします。ですが学期前や学期後、急ぎの連絡は授業支援システムを通じて連絡をします。ときどき見るようにして下さい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

詳細は私のwebsiteをご覧ください。

<http://www.t.hosei.ac.jp/katsuyak/>

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, I explain several basic models, focusing on the relation of the private and public sectors from the view of the applied microeconomics. Students should be able to understand academic papers in applied microeconomics theory.

Learning objective:

The goals of this course are to understand the thoughts of basic theoretical models and economic concepts used in those models.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by homework:50% and term exam:50%.

ECN522C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

応用マクロ経済学D A

倪 彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

動学的一般均衡モデルを学ぶ。それに加え取り上げるトピックに関連した学術論文の理解が深まる。

【到達目標】

大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、応用的な動学モデルを解くことができる。学術論文を執筆するための基礎知識を身につける。上記に加え取り上げるトピックに関連した学術論文の理解が深まる。ある程度自分の研究にも応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学院で使う標準的なテキストであるRomer(2018)の2章、6章、および7章に沿って講義します。モデルの分析やソフトの使い方とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。授業は原則対面で行いますが、場合によってオンラインの形も考慮に入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション、使うソフト(例えば、Matlab)の紹介
第2回	名目硬直性	貨幣保有と総需要
第3回	名目硬直性	不完全競争と総供給
第4回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（1）
第5回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（2）
第6回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（3）
第7回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-Hill/Irwin, 2018

【参考書】

蓮見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020年

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2017年

G. マンキュー（著）『マクロ経済学2：応用編』東洋経済新報社、2017年

【成績評価の方法と基準】

学生発表25%、課題25%、クラス参加50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやタブレットを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://researchmap.jp/7000017527>

【Outline (in English)】

The dynamic general equilibrium model based on optimization theory (household utility maximization, firm profit maximization) will be studied. Additionally, through presentation, students will have a deeper understanding of the academic papers related to the above topics, or apply to their own research to some extent.

All students are expected to read academic papers related to the course contents at home.

Grading criteria:

presentation 25%, homework 25%, attendance 50%

ECN522C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

応用マクロ経済学DB

田村 晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な動学モデルを理解した学生を対象に、大学院で国際標準とされるテキストにしたがって、消費、投資、失業、金融・財政政策、といった各論のトピックを講義します。学術論文を執筆するための基礎知識を身につけます。

【到達目標】

マクロ経済学の標準的な手法を使って、消費、投資、失業、金融・財政政策を理解する。理論の習得のみならず、現実の経済で起きている問題を理解し、解決策を考えられるようにする。マクロ動学モデルの手法を使った学術論文が執筆できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学院でも修士課程で使われている標準的なテキストであるRomer（2018）の後半部分（8～12章）からトピックを抜粋して講義します。モデルの説明が多くなりがちですが、現実の経済問題への視点もち、実証分析の紹介も行います。応用的な内容ですが、練習問題やレポート課題を課し、内容の理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	確実性下の消費	恒常所得仮説
第2回	不確実性下の消費	ランダム・ウォーク仮説とその実証
第3回	危険資産と消費	消費CAPMとエクイティ・プレミアム・パズル
第4回	調整費用と投資	離散時間における調整費用のモデル
第5回	トービンのqと投資	トービンの限界のqと平均のq
第6回	トービンのqと投資の実証分析	トービンのqをめぐる議論と実証分析
第7回	金融市場の不確実性と投資	投資家と企業の情報の非対称性
第8回	前半レポート課題の報告、練習問題解説	前半授業の理解を深める
第9回	失業と効率賃金モデル	効率賃金モデルの基本型
第10回	サーチとマッチングのモデル	労働市場のサーチとマッチングのモデル
第11回	金融政策と動学的非整合性	キッドランド・プレスコット・モデル
第12回	利子率ルール	テイラー・ルール
第13回	財政政策の持続性	財政政策の持続性の理論と実証
第14回	後半レポート課題の報告、練習問題解説	後半授業の理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前の予習してから授業に臨み、不明な点はその場で質問できるようにする。事後的にもテキストを勉強しながら講義ノートを確認することで理解を深め、練習問題やレポートに取り組む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

David Romer, "Advanced Macroeconomics, 5th edition" McGraw-Hill Irwin, 2018（第3版の翻訳：デビッド・ローマー著『上級マクロ経済学、原著第3版』、日本評論社、2010年）講義は第5版に沿って行う予定ですが、第3版の翻訳本でもほぼ内容をカバーできます。

【参考書】

テキストで紹介される論文や日本経済への応用論文などを、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

前半授業に基づくレポート課題の報告（50%）＋後半授業に基づくレポート課題の報告（50%）で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題やレポート課題を通じて、テクニカルな部分だけではなく、応用的な解釈の部分を実際に理解し、議論ができるようにする。さらに、前半と後半にレポート課題を受講生に報告してもらい、理解を確実にする。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 国際経済学、マクロ経済学、応用計量経済学

<研究テーマ> 貿易・直接投資と国・企業の競争力

【Outline (in English)】

Students will use standard macroeconomic methods to understand consumption, investment, unemployment, and monetary and fiscal policy. They will also acquire the basic knowledge necessary to write academic papers. The standard preparation and review time for this class is two hours each. Grades will be assessed based on the report assignments completed in the first half of the class (50%) and the report assignments completed in the second half of the class (50%).

ECN544C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

統計学DA

菅 幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスおよび統計のリテラシーを身に着けること。

【到達目標】

データサイエンスの基礎を固め、さらにそれを実際に応用できるようなること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

教員は教科書の内容に基づいて、それをExcelおよびRで実際に計算する方法を説明する。学生は章末の問題を宿題としてExcelおよびRを用いて解き、それを授業内で発表する。さらに学んだ技法を応用した実証分析を行った小論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Rの基礎	授業の進め方、Rの基礎
第2回	データの表現	度数分布とそのグラフ、ローレンツ曲線、パレート図、2変量データの表現
第3回	データの特性値	データの中心的位置をとらえる代表値、データの散らばりの程度をとらえる指標、データの標準化
第4回	データの収集	統計的探究プロセス、母集団と標本、標本抽出の方法、インターネット調査、ビッグデータの偏り、実験研究と調査観察研究
第5回	確率(1)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第6回	確率(2)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第7回	不確実な現象のモデリング(1)	確率変数と確率分布、確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、標本分布
第8回	不確実な現象のモデリング(2)	確率変数と確率分布、確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、標本分布
第9回	統計的推測（推定）(1)	点推定、区間推定
第10回	統計的推測（推定）(2)	点推定、区間推定
第11回	統計的推測（仮説検定）(1)	仮説検定の考え方、母数の検定、 χ^2 検定、独立性の検定

第12回	統計的推測（仮説検定）(2)	仮説検定の考え方、母数の検定、 χ^2 検定、独立性の検定
第13回	相関と回帰(1)	相関関係、回帰分析
第14回	相関と回帰(2)	相関関係、回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大内 俊二『データサイエンス指向の統計学』2021年、学術図書出版社、2200円。

【参考書】

金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）[統計&機械学習第2版]』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】

授業内での章末問題の解答50%、小論文50%。

【学生の意見等からの気づき】

学部で統計学を履修していない学生も統計学の基礎を理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>経済統計

<研究テーマ>産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測

<主要研究業績>『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students acquire statistical literacy.

(Learning Objectives) The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on answering end-of-chapter questions in class.

ECN545C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

統計学DB

阿部 俊弘

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では前半は様々な多変量解析の手法を調査し、その手法の理論と実践を身に着けていきます。また、様々なところで耳にすることも多い「シミュレーション」は様々な状況で使われています。ここでは、疑似乱数を用いて解析的に解くことは難しいような問題に対して「真の解はどこにありそうなのか？」という解決法について取り組んでいきます。

【到達目標】

様々な多変量解析の概念を調査し、高度な手法を身に着けていく。また、統計的分布の疑似乱数の生成を行い、乱数を用いた予測を行う。博士後期課程の研究にも対応できるよう、乱数を用いたシミュレーションの実装をした問題解決を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進め、Rを用いた課題を提出します。また、Microsoft WordとMicrosoft Excelも必要に応じて利用していきます。配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要と準備	統計ソフトRについて
第2回	主成分分析の理論	データの例と主成分分析の理論
第3回	主成分分析の適用	主成分分析の解釈
第4回	クラスター分析の理論	データの例とクラスター分析の理論
第5回	クラスター分析の応用	実データの群分けと解釈
第6回	クラスター分析に関する話題	クラスター分析の注意点
第7回	正準相関分析	データの例と理論の適用
第8回	ブートストラップ法の基本	リサンプリングとブートストラップ標本
第9回	ブートストラップ法の応用	ブートストラップ法の適用
第10回	シミュレーションのための準備	基本的なプログラミングコード
第11回	シミュレーションの実際	乱数を用いて統計学を実感する
第12回	データ解析手法(1)	近年の話題とその理論
第13回	データ解析手法(2)	近年の話題とその応用
第14回	まとめ	データ解析手法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

林 賢一(著)・下平 英寿(編集) (2020) 『Rで学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』

【参考書】

宮田庸一・阿部俊弘 『実践のための統計学: 回帰分析とデータサイエンス入門』アイケイコーポレーション

【成績評価の方法と基準】

授業での平常点(50%)と最終課題レポート(50%)を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・統計ソフトウェアのRを使用します。
- ・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>統計科学

<研究テーマ>方向統計学・EMアルゴリズム

<主要研究業績>

[1] Abe, T. &Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.

[2] Abe, T., Pewsey, A. &Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.

[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.

[4] Abe, T. &Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.

[5] Abe, T., Fujisawa, H. &Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

In this course, we introduce various illustrative examples and theory in multivariate analysis. The term "simulation", which is often heard in our real life, is used in various situations. As examples of that, we will tackle to a problem which is difficult to solve analytically. As a result, we will consider a solution to the problem "Where is the true solution?" by using pseudo-random numbers.

【Learning Objectives】

The students are expected to investigate various concepts of multivariate analysis and acquire advanced methods.

In addition, they are also expected to learn how to generate pseudo-random numbers from statistical distributions, and predict the phenomenon using them.

(Ph.D.)

For Ph.D. course students, we will consider illustrative examples by implementing simulated random numbers.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.

【Grading Criteria /Policy】

Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN563C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

開発経済論 D A

池上 宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済学の主要な実証分析手法と論文を学ぶ。
実証分析手法として、クラスター頑健標準誤差、ランダム化比較試験、差の差の分析、Regression Discontinuity Design、操作変数法を学ぶ。
これらの手法を用いて、人的資本、信用、市場、制度に関する問を研究した論文を学ぶ。
先行研究をサーベイするのではなく、特定の論文に焦点をあて、その論文の先行研究の不備、問、貢献、データ、手法を学ぶ。

【到達目標】

各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探ることができるようになる。
各自の研究分野における先行研究を理解し、あらたな実証研究論文のプロポーザルを執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】
L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
演習問題、試験には統計計算ソフト R を用いた問題が含まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ランダム化比較試験1	相関、因果、ルービンの因果モデル
第2回	ランダム化比較試験2	外生性、内生性
第3回	ランダム化比較試験3	検定、教育、学力追跡と成績、Duflo, Dupas, and Kremer (2011)、今井 (2018) 45- 48 ページ
第4回	ランダム化比較試験4	クラスターに対して頑健な標準誤差、信用、アドバース・セレクション、モラル・ハザード、Karlan, Dean and Zinman, Jonathan (2009)、2段階ランダム化
第5回	ランダム化比較試験5 操作変数法1	結合仮説の検定、宗教と教育、Becker and Woessmann (2009)、操作変数、2段階最小2乗推定量、制度、植民地と経済成長、Acemoglu, Johnson, and Robinson (2001)
第6回	操作変数法2	操作変数の強さの検定、外生性の検定、説明変数の内生性の検定
第7回	まとめと復習、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習、中間試験

第8回	固定効果	パネルデータ、固定効果操作変数法、所得水準と民主主義、Acemoglu, Johnson, Robinson, and Yared (2008) tidyverse, ggplot2 パッケージを用いた図の描き方
第9回	Regression Discontinuity Design 1	連続性条件、局所回帰、制度、投票と貧困対策、Fujiwara (2015)、tidyverse, ggplot2 パッケージを用いた図の描き方
第10回	Regression Discontinuity Design 2	局所平均、局所線形回帰、条件付き平均トリートメント効果
第11回	差の差の分析1	ソープ・オペラと出生率、La Ferrara, Chong, Duryea (2012)、市場、携帯電話と魚市場、Jensen and Miller (2018)
第12回	差の差の分析2	時間差介入と平均トリートメント効果の異質性
第13回	差の差の分析3	時間差介入と平均トリートメント効果の異質性の診断
第14回	まとめと復習、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
必要・興味に応じて、各講義のスライドの2ページ目にある参考文献を読む。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。

【参考書】
各講義のスライドは、スライドの2ページ目にある参考文献に基づいている。
以下のような文献などである。
- 高野久紀 (2025) 『開発経済学 実証経済学へのいざない』日本評論社
- 高橋和志、樋口裕城、牧野百恵編 (2025) 『実証から学ぶ開発経済学』有斐閣
- 西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮 (2019) 『計量経済学』有斐閣
- Acemoglu, Daron, Simon Johnson, and James A. Robinson. 2001. “The colonial origins of comparative development: An empirical investigation.” American Economic Review 91 (5).
- Acemoglu, Daron, Simon Johnson, James A. Robinson, and Pierre Yared. 2008. “Income and democracy: Comment.” American Economic Review 98 (3):808– 842.
- Duflo, Esther, Pascaline Dupas, and Michael Kremer. 2011. “Peer effects, teacher incentives, and the impact of tracking: Evidence from a randomized evaluation in Kenya.” American Economic Review 101 (5): 1739– 1774.
- Fujiwara, Thomas. 2015. “Voting Technology, Political Responsiveness, and Infant Health: Evidence From Brazil.” Econometrica 83 (2): 423– 464.
- Jensen, Robert and Nolan H. Miller. 2018. “Market integration, demand, and the growth of firms: Evidence from a natural experiment in India.” American Economic Review 108 (12):3583– 3625.
- Karlan, Dean, and Jonathan Zinman. 2009. “Observing Unobservables: Identifying Information Asymmetries With a Consumer Credit Field Experiment.” Econometrica 77 (6): 1993– 2008.

【成績評価の方法と基準】
中間試験40%、期末レポート40%、平常点20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は2022-2023年度は開講されなかった。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞

家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞

“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” *Journal of Risk and Insurance*, 88(2), pp. 293-324. 2021.

“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.

“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】

< Course outline >

We will study major empirical methods and papers in Development Economics.

As the major empirical methods, we will study difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.

We will study papers using these empirical methods and analyzing questions related to human capital, credit, market, and institution.

< Learning Objectives >

We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles. We will try to become able to look for research paper idea keeping the empirical methods in our minds.

< Learning activities outside of classroom >

After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.

We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.

If we need to have online classes for combating infectious diseases, we will take online mini test or assignment after each class.

< Grading Criteria/Policies >

We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 40%; end-term report 40%; participation 20%.

金融ファイナンス論D A

胥 鵬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんだろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスク資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動する。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、Z その他 /Other

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに、FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し、修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を 得る？	2銘柄の分散投資の収益率
5	2銘柄の分散投資か らの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンの トレードオフ	危険資産からなる有効ポート フォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォ リオ・フロンティア
9	β の導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収 益率の計算

12	イベント・スタ ディー	利益・配当・政策などの変動の 株価に対する効果を計測する分 析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて 経済学・金融・ファイナンスの 様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠 『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、課題レポート(40%)と学期レポート(60%)。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことが必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
<研究テーマ> MBO、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
<主要研究業績>

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Short reports (40%) and term report (60%) are both required for grading. An essay is required for students of doctoral program.

ECN554C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

地域経済論 I DA

馬場 敏幸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の産業について学びます。特に自動車産業およびサポーターインダストリーの現状と発展について学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】

対象各国の経済の現状、問題点、発展の経緯、産業動向などについて理解を深めることを到達目標とします。各国の経済状況や発展の過程、背後にあるメカニズムについて十分理解することを目標とします。さらに産業ごとでの理解も深めてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義はZoomやオンデマンドで行います。当初は講義により各国の状況について説明を行います。より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第2回	経済データベース 1	オンラインデータベースを学び、主要な経済統計を検索・取得できるようにします。
第3回	経済発展要因	アジアの経済発展の諸要因について学びます
第4回	通貨とグローバリゼーション	為替レートとグローバリゼーションについて学びます
第5回	工業化と技術学習	技術導入戦略、技術学習の経路、OEM戦略などについて学びます
第6回	経済データベース 2	貿易データベースについて学び、データの検索・取得を行えるようにします。
第7回	エリアスタディ 1	シンガポール
第8回	エリアスタディ 2	香港
第9回	エリアスタディ 3	韓国
第10回	エリアスタディ 4	タイ
第11回	エリアスタディ 5	インドネシア
第12回	エリアスタディ 6	マレーシア
第13回	エリアスタディ 7	フィリピン
第14回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、双方向のディスカッション形式か、レクチャー形式か、選択していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【担当教員の専門分野等】
開発経済学・エリアスタディ

【研究テーマ】

経済新興国・グローバルサウスの工業化、自動車産業

【主要研究業績】

馬場敏幸編（2016）『金型産業の技術形成と発展の諸様相：グローバル化と競争の中で』日本評論社 2016.3.31 ISBN978-4-535-55850-2, 258P

【主要研究業績】

馬場敏幸編（2013）『アジアの経済発展と産業技術：キャッチアップからイノベーションへ』ナカニシヤ出版 2013・3.30

【主要研究業績】

馬場敏幸（2005）『アジアの裾野産業：調達構造と発展段階の定量化および技術移転の観点より』白桃書房 2005.3 （2007年森嘉兵衛賞A賞）

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics, geographies, industries of Asian countries and other emerging countries. You learn various economic backgrounds and development engines of each country. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN554C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

地域経済論 I DB

馬場 敏幸

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の産業について学びます。特に自動車産業およびサポーターティングインダストリーの現状と発展について学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】

自動車産業およびサポーターティングインダストリーの歴史、特質、現状、今後の発展の方向性などについてグローバルな視点から理解することを目標とします。自動車産業の特質、各国での発展史、現状について理解を深めてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

Zoomによるリアルタイムオンライン講義を行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第2回	自動車産業データベース	オンラインデータベースを学び、自動車産業の主要なデータを検索・取得できるようにします
第3回	貿易データベース	貿易データベースについて学びます
第4回	自動車産業の現状 1	自動車産業の現状について学びます
第5回	自動車産業の現状 2	世界の自動車産業の状況について概観します
第6回	サポーターティング産業	サポーターティング産業について学びます
第7回	自動車産業の発展史 1	自動車産業の発展史について学びます
第8回	自動車産業の発展史 2	自動車産業の発展史について学びます
第9回	グローバルバリューチェーン 1	自動車部品のGVCについて学びます
第10回	グローバルバリューチェーン 2	自動車部品のGVCについて学びます
第11回	各国の自動車産業 1	各国の自動車産業のケーススタディ
第12回	各国の自動車産業 2	各国の自動車産業のケーススタディ
第13回	各国の自動車産業 3	各国の自動車産業のケーススタディ
第14回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前1時間、講義後3時間、合計4時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、双方向のディスカッション形式か、レクチャー形式か、選択していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PCを推奨します

【専門領域】

開発経済学・エリアスタディ

【研究テーマ】

経済新興国・グローバルサウスの工業化、自動車産業

【主要研究業績】

馬場敏幸編（2016）『金型産業の技術形成と発展の諸様相：グローバル化と競争の中で』日本評論社 2016.3.31 ISBN978-4-535-55850-2, 258P

【主要研究業績】

馬場敏幸編（2013）『アジアの経済発展と産業技術：キャッチアップからイノベーションへ』ナカニシヤ出版 2013・3.30

【主要研究業績】

馬場敏幸（2005）『アジアの裾野産業：調達構造と発展段階の定量化および技術移転の観点より』白桃書房 2005.3 （2007年森嘉兵衛賞A賞）

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and industries of Asian countries and other emerging countries. In this class, we especially focus on automobile industry and supporting industries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN544C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

企業経済学D B

砂田 充

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別、カルテル、合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。また、関連する実証の先行研究についても受講者と議論する予定である。授業形態については未定としているが、詳細は学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力および実証的産業組織論の学術論文を読解する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

スライドと黒板を使った講義形式がメイン。学生による報告（輪読による報告を含む）を求める場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	寡占市場①	寡占市場の基本モデル（復習）
第3回	寡占市場②	製品差別化（復習）
第4回	寡占市場③	消費者の離散選択モデル/Logitモデル
第5回	需要分析①	回帰分析（復習）
第6回	需要分析②	需要関数の推定/操作変数法
第7回	価格差別①	価格差別の基礎/グループ別価格
第8回	価格差別②	バンドル
第9回	価格差別③	メニュー価格
第10回	カルテル①	カルテルの最適化行動と安定性/報復の脅威による協調の維持
第11回	カルテル②	カルテル規制/不当な取引制限
第12回	合併①	企業結合規制/水平的合併と効率性/水平的合併と社会的厚生
第13回	合併②	合併シミュレーション/合併の実証研究
第14回	総括	これまでの内容のおさらいと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には講義資料および自筆ノート等を使って復習（2時間程度）することが必要である。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣、2001年）、丸山雅祥『経営の経済学[第3版]』（有斐閣、2017年）、Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010, Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013, Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004, Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996, Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988他適宜紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】

期末試験および課題（50～95%）、平常点（50～5%）、により評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

<研究テーマ>

企業の経営戦略と公共政策の経済分析

<主要研究業績>

"Competition among Movie Theaters: An Empirical Investigation of the Toho-Subaru Antitrust Case," Journal of Cultural Economics, Vol. 36, Number 3, pp. 179-206, August 2012.

"Coverage Area Expansion, Customer Switching, and Household Profiles in the Japanese Broadband Access Market," Information Economics and Policy, Vol. 23, Issue 1, pp. 12-23, March 2011 (with Masato Noguchi, Hiroshi Ohashi, and Yosuke Okada).

"Measuring the Cost of Living Index, Output Growth, and Productivity Growth in the Retail Industry: An Application to Japan," Review of Income and Wealth, Vol. 56, Issue 4, pp. 667-692, December 2010.

【Outline (in English)】

This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics.

The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: pricing strategy, cartel, horizontal merger, demand analysis, and so on.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through Hoppii (about two hours required), and, if required, to complete a homework assignment through Hoppii (about two hours required).

Students are also expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.

The grade will be based on the final exam & report (50-95%) and the homework (5-50%).

ECN545C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

経済と会計D B

田中 優希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業では、国連が持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）を制定した歴史的背景を理解したうえで、SDGsの17目標について理解し、さらに、SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解することを目的とする。

【到達目標】

- （１）国連が持続可能な開発目標（SDGs）を制定した歴史的背景を理解できる。
- （２）SDGsの17の目標を理解できる。
- （３）SDGsとサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture、E 実験/実習/実技 /Experiment

【授業の進め方と方法】

授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDGsと企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回(1・2)	イントロダクション	(1) 国連の理念 (2) SDGs誕生の歴史的背景 (3) 企業がSDGsに取り組む理由
2回(3・4)	SDGsの人々 (People)に関する 目標(1)	SDGs目標1-6 (1) 人権についての基本的な理解を深める (2) ネスレの児童労働撲滅の取り組み
3回(5・6)	SDGsの人々 (People)に関する 目標(2)	SDGs目標1-6 貧困問題に取り組むソーシャル ビジネスの可能性を考える。
4回(7・8)	SDGsの繁栄 (Prosperity)に関する 目標(1)	SDGs目標7-11 企業におけるジェンダーダイ バーシティ
5回(9・10)	SDGsの繁栄 (Prosperity)に関する 目標(2)	SDGs目標7-11 (1) 従業員の働き方改革 (2) 人的資本経営
6回(11・12)	SDGsの地球 (Planet)に関する目 標(1)	SDGs目標12-15 (1) 気候変動 (2) 脱炭素
7回(13・14)	SDGsの地球 (Planet)に関する目 標(2)	SDGs目標12-15 (1) 廃棄物 (2) 生物多様性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】

都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】

ゲスト講師の招聘を検討する。ゲスト講師招聘の場合は、授業計画を変更することもある。ただし、ゲストスピーカーを招聘する場合も、授業を運営は担当教員の責任で行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】

The objective of this class is to understand the historical background of the United Nations' establishment of the Sustainable Development Goals (SDGs), to understand the 17 goals of the SDGs, and to further understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

ECN551C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

国際金融論D A

ブー トウン カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論DA/DB」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。春学期の講義では、経済全体の中の対外取引の位置づけ、対外取引の意義やその内容と統計データ、為替市場の仕組み・取引内容、為替レートと金利や物価との関係、短期と長期における為替レート決定の理論および理論の実証的検証方法などについて学ぶ。博士後期課程では専門誌掲載の論文を通じて国際金融論の理論体系や実証研究手法の取得・応用に重点を置く。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、その統計データの活用、為替市場の仕組みと為替取引、為替レートと金利や物価との関係、為替レート決定などを理解でき、さらにこれらの内容に関する現実の様々な問題に関心を持ち、経済学的手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。博士後期課程の受講者には、期末課題として、講義で学んだことを活用し、国際金融論のテーマを設定し研究を行い、その研究成果をまとめるレポートの提出を求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 / Lecture

【授業の進め方と方法】

授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論の紹介
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定、資金循環勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支表
5	貨幣	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	貨幣と物価に関する理論と実証研究	貨幣需要関数の理論と推定、貨幣と物価との関係の実証分析
8	為替レート	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート、データを用いる実効為替レートの算出
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	金利平価の検証	金利平価の実証研究文献、データとパソコンを用いる演習

13	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
14	購買力平価からの乖離	データでみる実質為替レートの長期的トレンド、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次、新世社 2024年。
- 『MBAのための国際金融』小川 英治・川崎 健太郎、有斐閣 2007年。

【参考書】

- "International Finance: Theory and Policy," Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版 (202) (英語) ペーパーバック。
- "International Finance and Open-Economy Macroeconomics," by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12) (ハードカバー)。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』勝 悦子、有斐閣 2011年。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：25%、中間レポート：25%、学期末レポート：50%

（博士後期課程の受講者には、期末に自らテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際マクロ経済学、国際金融論

<研究テーマ>

開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題

<主要研究業績>

(1) "Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 2, pp.38-149, 2012 (with Etsuro Shioji).

(2) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1-21 (with Hayato Nakata).

(3) "Intra-regional Trade in Intermediate Goods and Macroeconomic Interdependence in East Asia: Analysis with Updated and Extended Data," Journal of International Economic Studies 39 (2025), pp.7-43.

【Outline (in English)】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies. In the PhD course we put more weight on understanding and applying basic theories and empirical methods in international finance.

To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN551C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

国際金融論D B

ブー トウン カイ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。「国際金融論DA/DB」の講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。秋学期の講義では、春学期の講義内容を踏まえ、為替レート決定の諸理論およびその実証的検証の方法、為替市場の効率性、為替レートと実物経済財との関係、開放経済を分析する諸モデル、そして国際金融論の発展・応用的なトピック（為替介入、為替制度、通貨危機、国際金融市場の役割、国際金融協力）などについて学ぶ。博士後期課程では専門誌掲載の論文を通じて国際金融論の理論体系や実証研究手法の取得・応用に重点を置く。

【到達目標】

為替レート決定の諸理論の内容や相違点、為替市場の特徴や役割、為替レートと実物経済財との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果などを理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題に関心をもち、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。博士後期課程の受講者には、期末課題として、講義で学んだことを活用し、国際金融論のテーマを設定し研究を行い、その研究成果をまとめるレポートの提出を求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レート決定の理論（3）	ポートフォリオ・アプローチとその実証分析
2	為替レート決定の理論（4）	ニュースの理論とその実証分析
3	外国為替市場の効率性	効率の市場仮説、先物相場と直物相場、先物相場プレミアムに関する実証分析
4	為替レートと実体経済（1）	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
5	為替レートと実体経済（2）	為替レートと経常収支、弾力性アプローチとその実証分析
6	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LMモデルの復習：名目価格硬直性、短期と長期、短期のマクロ経済理論としてのIS-LMモデル、総生産の決定、外生ショックと景気変動、マクロ経済政策の効果
7	開放経済分析の理論的枠組み（1）	マンデル・フレミングモデルの構築、それを用いる分析：変動相場制下の金融・財政政策の効果

8	開放経済分析の理論的枠組み（2）	マンデル・フレミングモデルを用いる分析：固定相場制下の金融・財政・為替政策の効果
9	マンデル・フレミングモデルから動学的開放マクロ経済学へ	動学的開放マクロ経済学の理論と実証
10	為替介入	為替介入の定義、実際、仕組み、理論・実証的效果、固定相場制維持介入と通貨危機
11	為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、世界各国の為替制度の現状、為替制度選択問題と「両極の解」の議論
12	通貨同盟と最適通貨圏	EUとユーロの概要、最適通貨圏の理論と実証分析
13	国際資本市場	国際資本市場の構造や機能、実態、問題点
14	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融における現実の諸問題と政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『コア・テキスト国際金融論』第3版、藤井英次、新世社2024年。
- 『MBAのための国際金融』小川英治・川崎健太郎、有斐閣2007年。

【参考書】

- “International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第12版（2022年）（英語）ペーパーバック。
- “International Finance and Open-Economy Macroeconomics,” by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition（2016年）（ハードカバー）。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣2011年。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題：25%、中間レポート：25%、学期末レポート：50%
（博士後期課程の受講者には、期末に自らテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
国際マクロ経済学、国際金融論
<研究テーマ>
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
<主要研究業績>
(1) "Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 2, pp.38-149, 2012 (with Etsuro Shioji).
(2) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1-21 (with Hayato Nakata).
(3) "Intra-regional Trade in Intermediate Goods and Macroeconomic Interdependence in East Asia: Analysis with Updated and Extended Data," Journal of International Economic Studies 39 (2025), pp.7-43.

【Outline (in English)】

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies. In the PhD course we put more weight on understanding and applying basic theories and empirical methods in international finance.

To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN564C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

実証ファイナンスDA

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは、計量経済学AおよびBの単位を修得し、金融およびファイナンスに関する論文を書く学生を対象として、確定的および確率的なキャッシュフローを持つ金融資産の価格付けの基本的な理論的背景、その実証分析手法を身に付け、実証論文を書くためのアプローチを学ぶことにある。

【到達目標】

本講義の目標は、1. インベストメントサイエンスに関わるファイナンスの基本的な理論を理解できる、2. 理論の検証をSTATA等の統計パッケージを利用して実行できる、3. ファイナンスに関する実証論文が執筆できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の半分は授業形式で、残りの半分は実際のデータを用いた演習形式となる。講義では最初にファイナンスにおける実証分析のベースとなる理論および分析手法を紹介し、データを利用して実際に理論の検証を行ってもらふ。本講義では統計パッケージとして、SAS StudioおよびSTATAを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要
2	確定的利付債券 1	債券価格
3	確定的利付債券 2	債券価格の金利感応度
4	確定的利付債券 3	金利の期間構造
5	確率的キャッシュフローをもつ資産 1	平均分散アプローチ
6	確率的キャッシュフローをもつ資産 2	資本資産価格モデル
7	確率的キャッシュフローをもつ資産 3	無裁定理論と複数ファクターモデル
8	確率的キャッシュフローをもつ資産 4	均衡モデル
9	時系列分析の基礎	定常性とARIMAモデル
10	実証分析 1	金利の期間構造の検証
11	実証分析 2	ポートフォリオの組成と α の計算
12	実証分析 3	Fama-MacBeth回帰
13	実証分析 4	イベントスタディ
14	実証分析 5	エクイティプレミアムパズル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の事前学習に2時間、講義内で出題される演習課題の復習に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. デービッド G. ルーエンバーガー（著）、今野浩（翻訳）『金融工学入門第2版』日本経済新聞出版（2015/03）
2. John Y.Campbell, Andrew W. Lo, Craig Mackinlay（著）祝迫得夫他4名（翻訳）『ファイナンスのための計量分析』共立出版（2003/09）

【参考書】

1. 沖本竜義『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店（2010/2）
2. ウォルター エンダース（著）、新谷元嗣、藪友良（翻訳）『実証のための計量時系列分析』有斐閣（2019/12）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、講義で設定されるアサインメント（50%）で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

前回開講期間より年数が経過しているため、フィードバックはない。

【担当教員の専門分野等】

参照：<http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

This course is intended for students who have completed Econometrics A and B and are writing academic papers in finance or related fields. The course provides a systematic introduction to the fundamental theoretical foundations of pricing financial assets with deterministic and stochastic cash flows, as well as the empirical methods used to analyze such assets. Students will also learn structured approaches to conducting empirical research and writing academic empirical papers.

The learning objectives of this course are as follows:

1. To understand the fundamental theories of finance relevant to investment science;
2. To be able to empirically test theoretical models using statistical software packages such as STATA;
3. To acquire the ability to write empirical research papers in the field of finance.

As part of out-of-class study, students are expected to spend approximately two hours on advance preparation of the assigned sections of the textbook and two hours reviewing exercise problems assigned during lectures. Course evaluation will be based on class participation (50%) and assignments specified in the course (50%).

ECN555C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

実証ファイナンスDB

高橋 秀朋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義のテーマは、計量経済学AおよびBの単位を修得し、実証ファイナンスAを履修し、金融およびファイナンスに関する論文を書く学生を対象として、オプションなどの派生証券の価格付けの基本的な理論的背景、その実証分析手法を身に付け、実証論文を書くためのアプローチを学ぶことにある。

【到達目標】

本講義の目標は、1. インベストメントサイエンスにおける派生証券の価格付け理論および当該分野で多用される時系列分析の基礎を理解できる、2. 価格を計算するにあたって必要なモデルの設定およびシミュレーションをSAS StudioまたはSTATAなどの統計パッケージを利用し実行できる、3. ファイナンスに関する実証論文が執筆できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義の半分は授業形式で、残りの半分は実際のデータを用いた演習形式となる。講義では最初に本講義のテーマに沿って、派生証券の価格理論、時系列分析およびシミュレーション手法を紹介し、データを利用して実際に理論の検証を行ってもらう。本講義では統計パッケージとして、SAS StudioおよびSTATAを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要
2	離散時間モデル1	1期間2項モデル
3	離散時間モデル2	複数期間2項モデル
4	離散時間モデル3	状態価格とリスク中立確率
5	連続時間モデル1	ブラウン運動とブラックショールズモデルによるオプション価格付け
6	連続時間モデル2	2項モデルのブラックショールズモデルへの近似
7	モンテカルロシミュレーション1	株価のシミュレーション
8	モンテカルロシミュレーション2	モンテカルロシミュレーションによるオプション価格の計算
9	時系列分析1	VARモデル
10	時系列分析2	共和分、VECM
11	時系列分析3	GARCHモデル
12	実証分析1	統計的裁定取引
13	実証分析2	確率ボラティリティモデル、マルコフ連鎖モンテカルロシミュレーションを用いたオプション価格の計算
14	実証分析3	GARCHモデル、マルコフ連鎖モンテカルロシミュレーションを用いたオプション価格の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の事前学習に2時間、講義内で出題される演習課題の復習に2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. デービッド G. ルーエンバーガー（著）、今野浩（翻訳）『金融工学入門第2版』日本経済新聞出版（2015/03）
2. John Y.Campbell, Andrew W. Lo, Craig Mackinlay（著）祝迫得夫他4名（翻訳）『ファイナンスのための計量分析』共立出版（2003/09）

【参考書】

1. 沖本竜義『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』朝倉書店（2010/2）
2. ウォルター エンダース（著）、新谷元嗣、藪友良（翻訳）『実証のための計量時系列分析』有斐閣（2019/12）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、講義で設定されるアサインメント（50%）で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

前回開講期間より年数が経過しているため、フィードバックはない。

【担当教員の専門分野等】

参照： <http://sites.google.com/site/htakahashi141a/>

【Outline (in English)】

This course is designed for students who have completed Econometrics A and B, have taken Empirical Finance A, and are writing academic papers in finance or related fields. The course provides a rigorous introduction to the fundamental theoretical framework for pricing derivative securities, such as options, as well as the empirical methodologies used in their analysis. Students will also learn systematic approaches to conducting empirical research and producing academic empirical papers.

The learning objectives of this course are as follows:

1. To acquire a thorough understanding of derivative securities pricing theory in investment science and the basic principles of time-series analysis commonly employed in this field;
2. To develop the ability to specify appropriate pricing models and to implement simulations using statistical software packages such as SAS Studio or STATA;
3. To develop the capability to write empirical research papers in the field of finance.

Students are expected to spend approximately two hours per week on advance preparation of the assigned readings and two hours per week reviewing problem sets assigned during class. Course evaluation will be based on class participation (50%) and course assignments (50%).

ECN555C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

環境政策論 D A

西澤 栄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境政策の経済分析－政策手法を中心に－

【到達目標】

- ①環境問題に関わる政策手法を理解する。
- ②環境政策の経済学的分析手法を身につけ、実証分析が行えるようになる。
- ③他国・地域の環境政策の手法について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

環境政策の経済分析を主たるテーマとする。環境問題の経済的分析手法を解説し、具体的な政策手法について分析する。

講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相談して決める。期末にはレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・日本の環境問題の史的変遷	オリエンテーション、江戸時代から20世紀末までの歴史
第2回	地球温暖化対策	気候変動枠組み条約、京都議定書、パリ協定
第3回	環境問題の経済分析	余剰分析、厚生経済学の基本定理、市場の失敗、公共財、外部性
第4回	環境政策の手段①	政策手段の分類、直接規制、環境税
第5回	環境政策の手段②	排出取引、環境補助金、デポジット制度
第6回	生物多様性の保全	生態系サービス、生物多様性条約
第7回	環境政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読むこと。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】

- ①栗山浩一・馬奈木俊介(2024)『環境経済学をつかむ 第5版』有斐閣
- ②伊藤順一(2025)『食料・環境経済学』勁草書房
- ③有村俊秀・片山東・松本茂編(2017)『環境経済学のフロンティア』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

輪読およびレポートとその内容に関する発表（50％）、平常点と授業への参加（50％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 環境政策論、農業経済学
 <研究テーマ> 欧米の環境政策・農業環境問題
 <主要研究業績>

- ①「農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ」『農業経済研究』第94巻2号, pp.106-119, 2022年.
- ②『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房, 2017年.
- ③『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社, 2014年.

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with economic analyses of environmental policies.

(Learning Objectives) The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution including presentation (50%).

ECN574C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

環境政策論D B

西澤 栄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然資源管理政策－日本の農林水産政策の現状と課題－

【到達目標】

- ①農林水産業に関わる政策手法を理解する。
- ②農林水産業の経済学的分析手法を身につけ、実証分析が行えるようにする。
- ③他国・地域の農林水産政策について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

日本の農業と水産業を主たる分析対象とする。それぞれに関する国の政策を概観し、具体的な政策手法について解説する。受講者の要望があれば、森林・林業についても扱う。

講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相談して決める。期末にはレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日本農業の展開過程
第2回	食料の市場と農業政策	価格政策と所得政策
第3回	コメの生産と流通	生産調整の経済分析
第4回	農産物貿易・農業と環境	多面的機能
第5回	漁業の経済学	水産資源の管理
第6回	水産業	日本の水産政策の概要
第7回	農林水産政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】

- ①荏開津典生・鈴木宣弘(2026)『農業経済学 第6版』岩波書店
- ②伊藤順一(2025)『食料・環境経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

輪読およびレポートとその内容に関する発表（50 %）、平常点と授業への参加（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境政策論、農業経済学

<研究テーマ>欧米の環境政策・農業環境問題

<主要研究業績>

- ①「農業環境政策のポリティカル・サイエンス：環境政策統合からのアプローチ」『農業経済研究』第94巻2号, pp.106-119, 2022年.
- ②『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房, 2017年.
- ③『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社, 2014年.

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with management policies for natural resources, specifically in the field of agriculture, forestry, and fisheries.

(Learning Objectives) The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on natural resource issues and to comprehend agriculture, forestry, and fisheries in Japan.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution including presentation (50%).

ECN574C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

経済地理学D B

近藤 章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、分析手法やアプローチについて議論する。

【到達目標】

経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文の分析手法を理解できるようになることと、研究領域のフロンティアとアプローチを拡張していく能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第2回	経済学と地理・空間 (1)	主要論文の読解
第3回	経済学と地理・空間 (2)	主要論文の読解
第4回	経済学と地理・空間 (3)	主要論文の読解
第5回	都市と集積 (1)	主要論文の読解
第6回	都市と集積 (2)	主要論文の読解
第7回	都市と集積 (3)	主要論文の読解
第8回	イノベーションと ネットワーク (1)	主要論文の読解
第9回	イノベーションと ネットワーク (2)	主要論文の読解
第10回	イノベーションと ネットワーク (3)	主要論文の読解
第11回	空間経済の理論と実 証 (1)	主要論文の読解
第12回	空間経済の理論と実 証 (2)	主要論文の読解
第13回	空間経済の理論と実 証 (3)	主要論文の読解
第14回	経済地理学のフロン ティアとまとめ	展望論文を通じた整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Brakman, S., et al. (2019) 『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World (3rd edition)』Cambridge University Press

Clark, G. L., et al. (2018) 『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press

Combes, P. P., et al. (2008) 『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press
Duranton, G. et al. (2015) 『Handbook of Regional and Urban Economics Vol.5』North Holland

松原宏 (2006) 『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会

佐藤泰裕ほか (2011) 『空間経済学』有斐閣

その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加が評価の中心となる。

平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】

授業内容のお知らせ、資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を原則とするが、履修者と相談のうえ、オンライン形式で実施することがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
<主要研究業績>

①共著 (2015) 『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

②共著 (2012) 『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会

③単著 (2007) 『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research methods and approaches.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report(20%), and in-class contribution(80%).

ECN561C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

社会保障論D A

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。このうち、本講義（社会保障論DA）では、年金制度に関連する主要論点をテーマに取り上げる。なお、年金制度・医療介護制度は互いに関連する部分があり、医療制度に関する主要論点は社会保障論DBで扱うが、この関係も若干補足的に説明する。

【到達目標】

年金制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- （１）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- （２）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- （３）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年金制度（１）	ガイダンス
2	年金制度（２）	年金制度間の財政調整
3	年金制度（３）	財源調達の仕組みと問題点
4	年金制度（４）	給付水準と留意点
5	年金制度（５）	人口動態と賦課方式、所得代替率の定義と留意点、世代間格差
6	年金制度（６）	2004年改正と課題
7	年金制度（７）	雇用形態の多様化と公的年金
8	年金制度（８）	厚生年金と共済年金の一元化
9	年金制度（９）	スウェーデンの年金制度
10	年金制度（10）	カナダの年金制度
11	年金制度（11）	イギリスの年金制度
12	年金制度（12）	社会保障・税の一体改革、2016年改正
13	年金制度（13）	2019年財政検証
14	年金制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
・吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016

【参考書】

- ①Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ②西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008

③吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016

④小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020

【成績評価の方法と基準】

授業内での貢献（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoomを利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015

② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013

③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013

④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%, in class contribution: 70%).

ECN561C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

社会保障論DB

小黒 一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。このうち、本講義（社会保障論DB）では、医療制度に関連する主要論点をテーマに取り上げる。なお、年金制度・医療介護制度は互いに関連する部分があり、年金制度に関する主要論点は社会保障論DAで扱うが、この関係も若干補足的に説明する。

【到達目標】

医療制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

- （１）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- （２）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
- （３）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	医療制度（１）	ガイダンス
2	医療制度（２）	日本の医療制度の沿革、医療制度の確立・拡張期
3	医療制度（３）	医療制度の改革期
4	医療制度（４）	医療制度・政策の国際比較① （ドイツの医療制度改革）
5	医療制度（５）	医療制度・政策の国際比較② （アメリカの医療制度改革）
6	医療制度（６）	医療制度・政策の国際比較③ （スウェーデンの医療制度改革）
7	医療制度（７）	医療保険制度の基本問題
8	医療制度（８）	各医療保険制度の構造と政策課題
9	医療制度（９）	医療供給制度の構造と改革の方向性
10	医療制度（10）	医療供給の改革手法
11	医療制度（11）	薬価制度・高額薬剤の現状と課題
12	医療制度（12）	医薬品の現状と改題
13	医療制度（13）	薬価制度改革と今後の方向性
14	医療制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・島崎謙治『日本の医療：制度と政策』東京大学出版会，2020
・小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社，2018

【参考書】

- ①Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
- ②島崎謙治『日本の医療：制度と政策』東京大学出版会，2020
- ③小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社，2020
- ④小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社，2018

【成績評価の方法と基準】

授業内での貢献（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoomを利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

財政学、公共経済学

<研究テーマ>

人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析

<主要研究業績>

- ①Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
- ② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
- ③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
- ④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%, in class contribution: 70%).

ECN573C1 - 1 (経済学 / Economics 500)

上級マクロ経済学D A

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ニューケインジアン・フレームワークに家計の異質性を導入した最新のマクロ経済モデルを学びます。計算負荷の高い定量的HANKモデル（Heterogeneous Agent New Keynesian）のエッセンスを、解析的に解可能な「Tractable HANK (THANK)」モデルを通じて習得します。格差、リスク、流動性が金融・財政政策の伝播メカニズムに与える影響を理解し、さらに本モデルを拡張・応用することで、独自のリサーチクエストionsに基づいた質の高い学術論文を執筆できる能力を養成することを主眼とします。

【到達目標】

本講義の履修を通じて、学生は以下のことができるようになります：

- * 代表的個人（RANK）モデルの限界を批判的に検討し、現代マクロ経済学において異質性（Heterogeneity）を導入する理論的・実証的必然性を理解する。
- * 計算負荷の高い数値シミュレーションに依存せず、THANKモデルを解析的に導出・解くプロセスを通じて、HANKモデルの動学メカニズムを直感レベルかつ数理的に習得する。
- * 格差（Inequality）やリスク（Risk）が、マクロ経済政策の波及効果をどのように増幅・減衰させるかについて、定量的な評価能力を身につける。
- * 金融・財政政策の伝播において流動性制約やHand-to-Mouth家計が果たす役割を特定し、従来の政策含意との相違を論じる。
- * 習得したTHANKフレームワークを拡張または応用し、独自のリサーチクエストionsに基づいた独創的な研究論文を執筆・遂行する能力を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

本講義は、主にスライドを用いた講義形式で行います。ただし、THANKモデルの数理的な構造や均衡解の導出プロセスについては、板書を用いて詳細に解説します。理論の理解を深めるため、適宜、直感的な説明と厳密な数式操作を行き来しながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション — マクロ経済学における異質性	代表的個人（RANK）からHANKへの潮流。なぜ異質性が重要なのか。「扱いやすさ（Tractability）」の哲学と「キリンの射影（Giraffe Projection）」のメタファー。解析的アプローチと定量的アプローチの架け橋としてのTHANKモデルの位置づけ

第2回	代表的個人モデル（RANK）の再解釈と限界	標準的なニューケインジアンモデルを「消費関数（ケインジアン・クロス）」として再解釈する。RANKにおける総需要増幅の欠如（MPCの低さ）、フォワード・ガイダンス・パズル、供給ショックと産出ギャップの負の相関など、直感に反する結果の整理
第3回	TANKモデルの構築 — 貯蓄者とその日暮らし家計	Hand-to-Mouth (H) 家計と Savers (S) 家計の導入。総オイラー方程式の導出と、そこに現れる「分配のウェッジ（distributional wedge）」。
第4回	TANKにおける政策分析 — 財政乗数と逆転した論理	所得格差の循環性（ χ ）が総需要に与える影響 TANKモデルにおける金融政策の増幅効果（間接効果の重要性）。財政乗数がRANKよりも大きくなるメカニズム。パラメーター条件によっては金融引き締めが景気を拡大させる「逆転したケインジアン」の論理（Inverted Keynesian Logic）の可能性
第5回	THANKモデルの基礎 — 固有リスクと予備的貯蓄	TANKに「固有リスク（idiosyncratic risk）」を導入する。家計の状態変化（ $S \leftrightarrow H$ ）と自己保険（Self-insurance）。予備的貯蓄動機がもたらすオイラー方程式への割引・複利効果（ δ ）
第6回	THANKの応用 — Catch-22（ジレンマ）と決定性	HANKモデルのジレンマ（Catch-22）：政策効果の増幅には「反循環的な格差」が必要だが、フォワード・ガイダンス・パズルの解決には「順循環的な格差（またはリスク）」が必要であること。テイラー原理の修正と均衡の決定性
第7回	授業内中間試験	授業内中間試験
第8回	流動性の導入と iMPCs（異時点間限界消費性向）	HANKモデルへの流動資産（国債）の導入。解析的に導出される「異時点間限界消費性向（iMPCs）」の挙動。データや定量的HANKモデルとの整合性（MPCの減衰）
第9回	流動性モデルにおける政策 — 債務数量ルール	流動性がある経済における定常状態の資産需要。Catch-22の解決策としての「債務数量ルール（Debt Quantity Rule）」。
第10回	物理的資本と投資 — 乗数の乗数効果	Hagedorn (2021) スタイルの不完全市場における物価決定論モデルへの資本蓄積の導入。「所得格差」と「資本金格差（富の格差）」の相互作用。投資が加わることで生じる「乗数の乗数（Multiplier of the Multiplier）」効果と、サミュエルソンの加速原理の再来
第11回	最適金融政策 — 安定化と再分配	不完全市場における厚生基準（Welfare criterion）。消費格差の縮小という新たな政策目標。どのような条件下で「神の偶合（Divine Coincidence）」が成立、あるいは破綻するか

第12回	流動性供給と財政・金融のポリシーミックス	流動性保険動機に基づく最適インフレ率（フリードマン・ルールの修正）。財政政策（移転支出・政府支出）と金融政策の相互作用と代替性。分離原理（Separation Principle）
第13回	総括と今後の展望	RANK, TANK, THANKの比較総括。解析的モデルから得られる教訓と、定量的HANKモデルへの接続。未解決の問題と今後の研究方向性
第14回	授業内期末試験	授業内中間試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Billiie, F. O. Heterogeneous Agent Macroeconomics: A Tractable New Keynesian Framework (Forthcoming, MIT Press).

【参考書】

授業内で指示します

【成績評価の方法と基準】

1. 評価方法 (Grading Method)

成績は以下の配分に基づき、総合的に評価します。

* 期末試験（40%）：

講義全体の内容を対象とし、特にTHANKモデルを用いた政策分析や、経済学的含意の理解度を問う記述式試験を行います。

* 中間試験（30%）：

セメスター前半で扱う、モデルの基礎的な導出や、RANK（代表的個人）モデルとHANK（異質的家計）モデルの構造的な違いに関する理解を確認します。

* 平常点（30%）：

課外課題（Problem Sets）、授業内での発表（プレゼンテーション）、およびリアクションペーパーの提出状況や記述内容を評価します。

2. 評価基準 (Evaluation Criteria)

到達目標の達成度に基づき、以下の点を重視して評価します。

* 理論的理解：

ニューケインジアン・フレームワークにおける家計の異質性の重要性と、それがマクロ経済動学に与える影響を正確に説明できるか。

* 数理的分析能力：

「Tractable HANK (THANK)」モデルの均衡条件を正しく導出し、解析的な解法を用いてモデルを操作できるか。

* 論理的思考と応用：

格差、リスク、流動性が金融・財政政策の伝播メカニズムに及ぼす効果について、モデルに基づいて論理的に議論できるか。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開講によりフィードバックできません

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

Course Outline

This course explores state-of-the-art macroeconomic models that introduce heterogeneity into the New Keynesian framework. While quantitative HANK (Heterogeneous Agent New Keynesian) models are computationally intensive, this course focuses on mastering their essence through the analytically solvable "Tractable HANK (THANK)" model. Students will gain a rigorous understanding of how inequality, idiosyncratic risk, and liquidity constraints shape the transmission mechanisms of monetary and fiscal policy.

Learning Objectives

Upon successful completion of this course, students will be able to:

* Understand the theoretical limitations of Representative Agent New Keynesian (RANK) models and the necessity of introducing **heterogeneity**.

* Derive and solve the **THANK** model analytically to capture the key dynamics of heterogeneous agent models without relying on heavy numerical simulations.

* Analyze how **inequality** and **risk** amplify or dampen the effects of economic policies.

* Evaluate the role of **liquidity** and hand-to-mouth consumers in the transmission of aggregate shocks.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to dedicate sufficient time to the following activities:

* **Reviewing** mathematical derivations presented in lectures to ensure a deep understanding of the model's structure.

* **Solving** problem sets focused on the equilibrium conditions and comparative statics of the THANK model.

* **Reading** assigned academic papers to contextualize the THANK framework within the broader literature on HANK models.

Grading Criteria / Policy

Problem Sets: 30% (Assessing technical mastery of model derivations)

Midterm Exam: 30% (Focusing on the basic structure of TANK/THANK models)

Final Exam: 40% (Comprehensive evaluation including policy analysis)

ECN544C1 - 2 (経済学 / Economics 500)

応用計量経済学D B

明城 聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では経済学分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。特に企業の生産性の推定方法、消費者行動の分析方法を解説するとともに政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

【到達目標】

消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定）、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル）、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。博士後期課程の学生は理論モデルを学ぶだけでなく、それを論文執筆に生かせるような計量分析能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析手法について解説する。また統計パッケージRによる演習を行って理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業についての説明
第2回	企業の生産性の推定	・生産関数の推定
	(1)	・内生性の問題
第3回	企業の生産性の推定	・パネルデータの利用
	(2)	・誤差項の系列相関
第4回	企業の生産性の推定	・投資ショックによる内生性の識別
	(3)	
第5回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定
		・学習効果と規模の経済の識別
第6回	演習(1)	・情報処理室にて演習
第7回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題
		・小麦輸送市場の分析
第8回	差別化された財市場	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
	(1)	
第9回	差別化された財市場	・離散選択モデル(1)
	(2)	
第10回	差別化された財市場	・離散選択モデル(2)
	(3)	
第11回	演習(2)	・情報処理室にて演習
第12回	動学モデル(1)	・動学モデルについて
		・状態遷移とマルコフ完全均衡
		・価値関数とベルマン方程式
第13回	動学モデル(2)	・Nested Fixed PointアプローチとTwo Step法
		・離散選択モデルによる動学推定
第14回	動学モデル(3)	・シミュレーションによる価値関数の推定
		・米国生コンクリート市場の分析
		・米国自動車市場の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】

【産業組織論】

(1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.

(2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.

(3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.

(4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.

【ミクロ経済学】

(1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992

(2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008年

【計量経済学】

(1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.

(2) 浅野哲、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年
・K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.

(3) A. C. Cameron and P. K. Trivedi, Microeconometrics Using Stata, Stata Press, 2009.

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 100% (term report, 100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

実証産業組織論、応用統計学

<研究テーマ>

構造推定を用いた市場分析

<主要研究業績>

1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.

2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】

This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural estimation approaches used in recent empirical industrial economics are covered.

Students also learn these estimation techniques and programming algorithms applied to the firm-level and product-level data analysis using R.

Preparation and review: 2 hours including homework assignments.

Grading: term report 100%

博士ワークショップA（春学期）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

博士ワークショップB（秋学期）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN703C1-1 (経済学 / Economics 700)

経済学演習 V A

酒井 正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：労働経済学、社会保障論

研究テーマ：就業と社会保障制度の関係についての実証分析

<主要研究業績>

『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会、2020年）

"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act" (共著) Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.

(Learning Objectives)

Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習 V B

酒井 正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ 準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ 準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップ の振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

専門領域：労働経済学、社会保障論

研究テーマ：就業と社会保障制度の関係についての実証分析

<主要研究業績>

『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会、2020年）

"Current Status of the Jobseekers Support System as a Second Safety Net," Japan Labor Issues Vol.8, No.48 (Summer 2024) pp.3-18.

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.

(Learning Objectives)

After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1 (経済学 / Economics 700)

経済学演習 V A

J E S S D I A M O N D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導、ワークショップ、および学会発表を通じて完成させます。

【到達目標】

本授業の目標は、博士論文の要件を満たすため、学術論文を少なくとも3本完成させることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、研究成果や論文の修正について議論するための定期的な個別面談を行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究報告	研究成果の報告と議論
第2回	研究報告	研究成果の報告と議論
第3回	研究報告	研究成果の報告と議論
第4回	研究報告	研究成果の報告と議論
第5回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ 準備	スライドの作成や報告練習など
第12回	博士ワークショップ 準備	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップ のレビュー	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績は、研究論文および発表の質に基づいて評価されます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The goal of this class is to complete at least 3 academic papers to satisfy the requirements of the doctoral dissertation. The class will consist of regular one-on-one meetings to discuss research results and paper modifications. Students are expected to prepare for each meeting by reviewing the changes discussed during the previous meeting. Grades will be determined based on the quality of the research papers and presentations.

ECN703C1-2（経済学/Economics 700）

経済学演習 V B

J E S S D I A M O N D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導、ワークショップ、および学会発表を通じて完成させます。

【到達目標】

本授業の目標は、博士論文の要件を満たすため、学術論文を少なくとも3本完成させることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

本授業は、研究成果や論文の修正について議論するための定期的な個別面談を行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究報告	研究成果の報告と議論
第2回	研究報告	研究成果の報告と議論
第3回	研究報告	研究成果の報告と議論
第4回	研究報告	研究成果の報告と議論
第5回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ 準備	ライドの作成や報告練習など
第12回	博士ワークショップ 準備	ライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップ のレビュー	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績は、研究論文および発表の質に基づいて評価されます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(The goal of this class is to complete at least 3 academic papers to satisfy the requirements of the doctoral dissertation. The class will consist of regular one-on-one meetings to discuss research results and paper modifications. Students are expected to prepare for each meeting by reviewing the changes discussed during the previous meeting. Grades will be determined based on the quality of the research papers and presentations.)

ECN703C1-1 (経済学 / Economics 700)

経済学演習 V A

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.

(Learning Objectives)

Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学/Economics 700）

経済学演習 V B

宮崎 憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.

(Learning Objectives)

After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1 (経済学 / Economics 700)

論文指導 V A

宮崎 憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2 (経済学 / Economics 700)

論文指導 V B

宮崎 憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】
(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1 (経済学 / Economics 700)

博士ワークショップⅢA

宮崎 憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢAでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークショップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

(Learning Objectives)

This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN706C1-2 (経済学 / Economics 700)

博士ワークショップIII B

宮崎 憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップIII Bでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル準備
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

＜研究テーマ＞

＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

(Learning Objectives)

This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

博士論文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN601C1-1（経済学/Economics 600）

経済学演習ⅠA（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】

基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ/Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2 (経済学 / Economics 600)

経済学演習 I B (代表シラバス)

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】

応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ A（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第1回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】

研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第1稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含著）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡB（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第2回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】

すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.

(Learning Objectives)

Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.

(Learning activities outside of classroom)

Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.

(Grading Criteria /Policy)

The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN701C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習Ⅲ A（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿の執筆を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
第3回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
第4回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
第5回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要な高度な知識とスキルを修得する
第6回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第7回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第8回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第9回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Participants will start writing the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN701C1-2（経済学/Economics 700）

経済学演習ⅢB（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	文献サーベイと研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第6回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第9回	論文執筆指導④	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導⑤	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ 発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ 発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップ の振り返りと論文 テーマ・分析の再検討	これまでの指摘に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅣA（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第2論文の第1稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第1論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ 発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ 発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップ の振り返りと論文 テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅣB（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1,2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ 発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ 発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップ の振り返りと論文 テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves (Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN703C1-1（経済学/Economics 700）

経済学演習ⅤA（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】

博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.

(Learning Objectives)

Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2 (経済学 / Economics 700)

経済学演習 V B (代表シラバス)

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.

(Learning Objectives)

After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1 (経済学 / Economics 700)

論文指導 V A (代表シラバス)

経済学専攻教員

備考 (履修条件等) : 2017~2020 年度入学者用

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2 (経済学 / Economics 700)

論文指導 V B (代表シラバス)

経済学専攻教員

備考 (履修条件等) : 2017~2020 年度入学者用

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】

博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

(Learning Objectives)

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.

(Learning activities outside of classroom)

Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップIII A（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップIII Aでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークショップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

(Learning Objectives)

This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN706C1-2 (経済学 / Economics 700)

博士ワークショップIII B (代表シラバス)

経済学専攻教員

備考 (履修条件等) : 2017~2020 年度入学者用

その他属性 :

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】

提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【主な授業方法】

S 演習/ゼミ /Seminar

【授業の進め方と方法】

博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップIII Bでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態 : 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル準備
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点100%。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.

(Learning Objectives)

This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.

(Learning activities outside of classroom)

Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.

(Grading Criteria /Policy)

100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

